



MFX-C2860/C2260/C2260K

ユーザーズガイド

スキャン機能編

もくじ

1 スキャン送信機能について

1.1	スキャン送信機能でできること	1-2
1.2	送信のしかた	1-4
1.2.1	送信する（基本的な操作の流れ）	1-4
1.2.2	仕上りを確認して送信する	1-5
1.2.3	プログラムを呼出して送信する	1-7
	ファクス/スキャンプログラムについて	1-7
	ファクス/スキャンプログラムを登録する	1-7
	ファクス/スキャンプログラムを呼出して送信する	1-9
1.3	宛先の指定	1-11
	登録宛先から選ぶ	1-11
	グループ宛先を指定する	1-12
	宛先を検索する	1-12
	直接入力する	1-13
	履歴から選ぶ	1-14
	メールアドレスをLDAPサーバーから検索する	1-14
	同報宛先リストを表示する	1-14
1.4	スキャン送信のオプション設定	1-15
1.4.1	カラーや原稿サイズなどの基本的なオプション設定	1-15
	原稿の両面を読み込む（[片面/両面]）	1-15
	原稿を読み込む解像度を設定する（[解像度]）	1-15
	原稿を読み込むカラーモードを選ぶ（[カラー]）	1-15
	読み込んだ原稿データを保存するファイル形式を設定する（[ファイル形式]）	1-15
	読み込む原稿のサイズを設定する（[読み込みサイズ]）	1-16
	ファイル名を変更する（[文書名/件名/他]）	1-16
	E-mailの件名と本文を変更する（[文書名/件名/他]）	1-17
1.4.2	いろいろな原稿に合わせた設定（応用設定）	1-17
	異なるサイズの原稿をまとめて読み込む（[混載原稿]）	1-17
	普通紙よりも薄い原稿を読み込む（[薄紙原稿]）	1-17
	折りぐせのある原稿を読み込む（[Z折れ原稿]）	1-18
	長い原稿を読み込む（[長尺原稿]）	1-18
	原稿をセットした方向を指定する（[原稿セット方向]）	1-18
	原稿のとじしろを指定する（[原稿のとじしろ]）	1-19
	スリットガラスのゴミを除去しながら読み込む（[汚れ軽減モード]）	1-19
	白紙ページを読飛ばす（[白紙原稿除去]）	1-19
	本やカタログの左右ページを分割して読み込む（[ブック原稿]）	1-19
	大量の原稿を数回に分けて読み込む（[連続読み込み]）	1-20
1.4.3	画質/濃度の調整（応用設定）	1-21
	原稿の内容に適した画質を選ぶ（[原稿画質]）	1-21
	原稿を読み込む濃度を調整する（[濃度]）	1-21
	読み込む原稿の下地の濃度を調整する（[下地調整]）	1-21
1.4.4	スタンプ/ページ番号の追加（応用設定）	1-22
	日付/時刻を追加する（[日付/時刻]）	1-22
	ページ番号を追加する（[ページ番号]）	1-22
	スタンプを追加する（[スタンプ]）	1-23
	ヘッダー/フッターに情報を追加する（[ヘッダー/フッター]）	1-23
1.4.5	その他のオプション設定（応用設定）	1-24
	原稿の端部（ふち）にある文字や影を消去して読み込む（[枠消し]）	1-24
	文字などの境界をくっきりさせる（[シャープネス]）	1-24
	原稿データにファイリング番号を付加する（[ファイリングナンバーボックス]）	1-25
	送信と同時に印刷する（[同時印刷]）	1-25
1.5	スキャン送信機能の設定項目を検索する	1-26

2 E-mail に添付して送信する (E-mail 送信)

2.1	E-mail 送信機能について	2-2
2.2	E-mail 送信の準備 (管理者向け)	2-3
2.2.1	準備の流れ	2-3
2.2.2	お使いになるために必要な作業	2-4
	LAN ケーブルの接続を確認する	2-4
	ネットワークの設定を確認する	2-4
	E-mail 送信の使用環境を設定する	2-4
2.2.3	必要に応じて行う作業	2-4
	よく送信する宛先を登録する	2-4
	宛先の指定に LDAP サーバーを使う	2-4
	送信する E-mail の件名と本文を登録する	2-5
	宛先の Prefix と Suffix を登録する	2-5
	SMTP 認証を使う	2-5
	POP before SMTP 認証を使う	2-5
	SSL/TLS で通信する	2-5
	S/MIME を使う	2-5
2.3	送信のしかた	2-6
2.4	応用機能の紹介	2-8
2.4.1	自分宛てに送信する (Scan to Me)	2-8
	Scan to Me について	2-8
	お使いになるために必要な作業 (管理者向け)	2-8
	操作の流れ	2-8
2.4.2	E-mail の暗号化とデジタル署名の付加をする (S/MIME)	2-10
	S/MIME について	2-10
	お使いになるために必要な作業 (管理者向け)	2-10
	操作の流れ	2-10

3 コンピューターの共有フォルダーに送信する (SMB 送信)

3.1	SMB 送信機能について	3-2
3.2	SMB 送信の準備	3-3
3.2.1	準備の流れ	3-3
3.2.2	コンピューター側：お使いになるために必要な作業	3-4
	Windows 7/8.1/10 をお使いの場合	3-4
	Windows Vista をお使いの場合	3-7
	Mac OS X 10.6 以降をお使いの場合	3-10
3.2.3	本機側：お使いになるために必要な作業 (管理者向け)	3-12
	LAN ケーブルの接続を確認する	3-12
	ネットワーク設定を確認する	3-12
	SMB 送信の使用環境を設定する	3-13
3.2.4	必要に応じて行う作業	3-13
	よく送信する宛先を登録する	3-13
	WINS サーバーを使う	3-13
	ダイレクトホスティング SMB サービスを使う	3-13
	LLMNR を使う	3-13
	DFS 環境で使う	3-13
3.3	送信のしかた	3-14
3.4	応用機能の紹介	3-16
3.4.1	自分のコンピューターに送信する (Scan to Home)	3-16
	Scan to Home について	3-16
	お使いになるために必要な作業 (管理者向け)	3-16
	操作の流れ	3-16
3.4.2	原稿データの保存先を E-mail で知らせる (URL 通知)	3-17
	URL 通知について	3-17
	お使いになるために必要な作業 (管理者向け)	3-17
	操作の流れ	3-18
3.4.3	Active Directory のシングルサインオン環境で送信する	3-19
	シングルサインオンについて	3-19
	お使いになるために必要な作業 (管理者向け)	3-19
	操作の流れ	3-19



4 FTP サーバーに送信する (FTP 送信)

4.1	FTP 送信機能について	4-2
4.2	FTP 送信の準備 (管理者向け)	4-3
4.2.1	準備の流れ	4-3
4.2.2	お使いになるために必要な作業	4-3
	LAN ケーブルの接続を確認する	4-3
	ネットワーク設定を確認する	4-3
	FTP 送信の使用環境を確認する	4-4
4.2.3	必要に応じて行う作業	4-4
	よく送信する宛先を登録する	4-4
	プロキシサーバーを使う	4-4
4.3	送信のしかた	4-5
4.4	応用機能の紹介	4-7
4.4.1	原稿データの保存先を E-mail で知らせる (URL 通知)	4-7
	URL 通知について	4-7
	お使いになるために必要な作業 (管理者向け)	4-7
	操作の流れ	4-7

5 WebDAV サーバーに送信する (WebDAV 送信)

5.1	WebDAV 送信機能について	5-2
5.2	WebDAV 送信の準備 (管理者向け)	5-3
5.2.1	準備の流れ	5-3
5.2.2	お使いになるために必要な作業	5-3
	LAN ケーブルの接続を確認する	5-3
	ネットワーク設定を確認する	5-3
	WebDAV 送信の使用環境を確認する	5-4
5.2.3	必要に応じて行う作業	5-4
	よく送信する宛先を登録する	5-4
	プロキシサーバーを使う	5-4
	SSL で通信する	5-4
5.3	送信のしかた	5-5
5.4	応用機能の紹介	5-7
5.4.1	原稿データの保存先を E-mail で知らせる (URL 通知)	5-7
	URL 通知について	5-7
	お使いになるために必要な作業 (管理者向け)	5-7
	操作の流れ	5-7

6 本機のボックスに保存する (ボックス保存)

6.1	ボックス保存機能について	6-2
6.2	ボックス保存の準備	6-3
	お使いになるために必要な作業	6-3
	必要に応じて行う作業	6-3
6.3	保存のしかた	6-4
6.4	応用機能の紹介	6-6
6.4.1	ボックスに保存したファイルを活用する	6-6
	操作パネルからボックスを操作する	6-6
	Web Connection からボックスを操作する	6-6
	Box Operator からボックスを操作する	6-6
6.4.2	原稿データの保存先を E-mail で知らせる (URL 通知)	6-6
	URL 通知について	6-6
	お使いになるために必要な作業 (管理者向け)	6-6
	操作の流れ	6-6

7	Web サービスで送信する (WS スキャン)	
7.1	WS スキャン機能について	7-2
7.2	WS スキャンの準備	7-3
7.2.1	準備の流れ	7-3
7.2.2	本機側：お使いになるために必要な作業（管理者向け）	7-3
	LAN ケーブルの接続を確認する	7-3
	ネットワークの設定を確認する	7-4
	WS スキャン送信の使用環境を設定する	7-4
7.2.3	コンピューター側：お使いになるために必要な作業	7-4
7.2.4	本機側：必要に応じて行う作業（管理者向け）	7-6
	SSL で通信する	7-6
	プロキシサーバーを使用する	7-6
7.3	スキャン送信のしかた	7-7
7.4	コンピューターから取込む	7-9
8	TWAIN スキャンで画像を取込む	
8.1	TWAIN スキャン機能について	8-2
8.2	TWAIN スキャンの準備	8-3
8.2.1	本機側：お使いになるために必要な作業（管理者向け）	8-3
	LAN ケーブルの接続を確認する	8-3
	ネットワークの設定を確認する	8-3
	TWAIN スキャンの使用環境を確認する	8-3
8.2.2	コンピューター側：お使いになるために必要な作業	8-4
	コンピューターの動作環境	8-4
	TWAIN ドライバーをインストールする	8-4
8.3	TWAIN スキャンのしかた	8-5
	本機を操作してスキャンする	8-5
	コンピューターからスキャンする	8-5
9	スキャンサーバーを使って配信する	
9.1	スキャンサーバーについて	9-2
9.2	スキャンサーバー送信の準備（管理者向け）	9-3
9.2.1	準備の流れ	9-3
9.2.2	お使いになるために必要な作業	9-3
	LAN ケーブルの接続を確認する	9-3
	ネットワークの設定を確認する	9-3
	スキャンサーバー送信の使用環境を設定する	9-3
9.3	送信のしかた	9-4
10	Android/iOS 端末から本機を遠隔操作中にスキャンしたデータを送信する (Panel Link スキャン)	
10.1	Panel Link スキャン機能について	10-2
10.2	Panel Link スキャンの準備	10-3
10.2.1	準備の流れ	10-3
10.2.2	お使いになるために必要な作業（管理者向け）	10-3
	LAN ケーブルの接続を確認する	10-3
	ネットワークの設定を確認する	10-3
	Panel Link スキャン機能を有効にする	10-4
	Android 端末と連携するための設定をする	10-4
	iOS 端末と連携するための設定をする	10-4
	トップメニューに Panel Link スキャン機能のショートカットキーを配置する	10-4
	Remote Access で送信先を設定する	10-4
10.3	送信のしかた	10-5
	Android 端末をお使いの場合	10-5
	iOS 端末をお使いの場合	10-6

11 Android/iOS 端末に登録されているメールアドレスを宛先として指定する (Address Link)

11.1	Address Link 機能について	11-2
11.2	Address Link の準備	11-3
11.2.1	準備の流れ	11-3
11.2.2	お使いになるために必要な作業 (管理者向け)	11-3
	LAN ケーブルの接続を確認する	11-3
	ネットワークの設定を確認する	11-3
	Address Link 機能を有効にする	11-4
	Android 端末と連携するための設定をする	11-4
	iOS 端末と連携するための設定をする	11-4
11.3	宛先の指定のしかた	11-5
	Android 端末をお使いの場合	11-5
	iOS 端末をお使いの場合	11-5

12 宛先の管理

12.1	よく使う宛先を登録する (短縮宛先)	12-2
12.1.1	設定メニューから登録する	12-2
	短縮宛先について	12-2
	E-mail 宛先を登録する	12-2
	SMB 宛先を登録する	12-3
	FTP 宛先を登録する	12-5
	WebDAV 宛先を登録する	12-6
	ボックス宛先を登録する	12-8
12.1.2	ファクス/スキャン基本画面から登録する	12-9
	短縮宛先について	12-9
	E-mail 宛先を登録する	12-9
	SMB 宛先を登録する	12-10
	FTP 宛先を登録する	12-11
	WebDAV 宛先を登録する	12-12
	ボックス宛先を登録する	12-13
12.1.3	直接入力した宛先を短縮宛先として登録する	12-14
12.2	複数の宛先をグループで登録する (グループ宛先)	12-16
	グループ宛先について	12-16
	グループ宛先を登録する	12-16
12.3	宛先情報をインポート/エクスポートする (管理者向け)	12-17
	宛先情報をエクスポートする	12-17
	宛先情報をインポートする	12-17
12.4	宛先情報のリストを印刷する (管理者向け)	12-18
	宛先リストを印刷する	12-18
	グループ宛先リストを印刷する	12-19
	プログラム宛先リストを印刷する	12-20

1

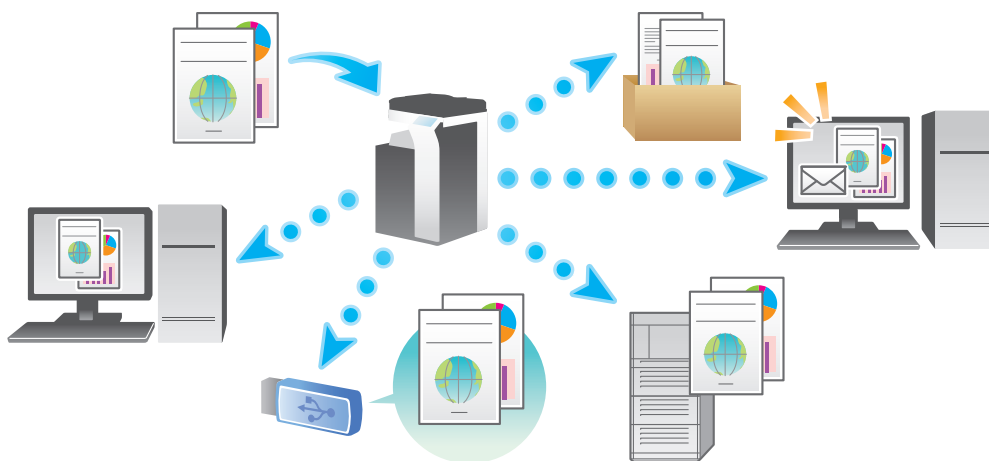
スキャン送信機能について

1 スキャン送信機能について

1.1 スキャン送信機能でできること

本機で読込んだ原稿データは、コンピューターやサーバーへ送信したり、本機のハードディスク（ボックス）に保存したりできます。

スキャン送信機能を使うには、あらかじめ設定が必要な場合があります。詳しくは、各機能の説明をごらんください。



スキャン送信機能には、次の種類があります。

機能	説明
E-mail 送信	変換したファイルを E-mail に添付して、任意のメールアドレスに送信します。
SMB 送信	変換したファイルをコンピューターの共有フォルダーへ送信します。送信先を自分のコンピューターやファイルサーバーなどにして使います。
FTP 送信	変換したファイルを FTP サーバーへ送信します。FTP サーバーを通じてファイルの受渡しをするときに便利です。
WebDAV 送信	変換したファイルを WebDAV サーバーへ送信します。WebDAV サーバーを通じてファイルの受渡しをするときに便利です。
ボックス保存	本機で読込んだ原稿データを本機のボックスに保存します。ボックスに保存した原稿データは、共有フォルダーへ送信したり、E-mail に添付して送信したりすることもできます。
WS スキャン	面倒な環境設定をすることなく、コンピューターからスキャンの指示をして原稿データを取込んだり、本機でスキャンした原稿データをコンピューターに送信したりできます。Windows Vista 以降のコンピューターで対応しています。
TWAIN スキャン	ネットワーク上のコンピューターから、TWAIN 機器に対応した各種アプリケーションを通じて、本機で読込んだ原稿データをファイルに変換して取込めます。
スキャンサーバー送信	変換したファイルをスキャンサーバーへ送信します。ファイルを受取ったスキャンサーバーは、ワークフローに従って E-mail に添付して送信したり、コンピューターの共有フォルダーに保存したりします。
Panel Link スキャン	本機で読込んだ原稿データを、端末のストレージまたは Google ドライブに送信します。 Remote Access の Panel Link 機能で、Android/iOS 端末から本機を遠隔操作しているときに利用できます。



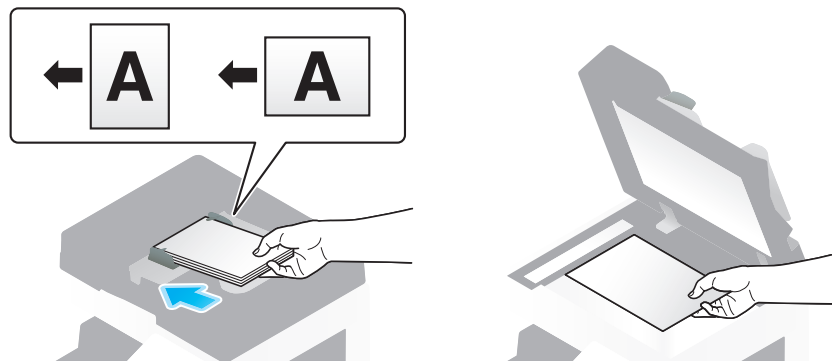
参照

本機で読込んだ原稿データを、本機に接続した USB メモリーに保存できます。詳しくは、「ユーザーズガイド [ボックス機能] / [USB メモリーを使う (外部メモリー)]」をごらんください。

1.2 送信のしかた

1.2.1 送信する（基本的な操作の流れ）

1 原稿をセットします。



2 「ファクス/スキャン」をタップします。



3 宛先を指定します。

- 宛先の指定のしかたについて詳しくは、1-11 ページをごらんください。
- 複数の宛先を指定することで、コンピューターへの送信、ファクス送信などが同時に実行できます。初期設定では、複数の宛先の指定が禁止されているため設定変更が必要です。詳しくは、「ユーザーズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [設定メニュー]」をごらんください。



- 必要に応じて、ファクス/スキャンモードのトップ画面の表示を変更できます（初期値：[登録宛先から]）。詳しくは、「ユーザーズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [設定メニュー]」をごらんください。

- 4 必要に応じて、スキャン送信のオプション設定をします。
→ オプション設定について詳しくは、以下の各項目をごらんください。

目的	参照先
カラーや原稿サイズなどの基本的なオプション設定をしたい	1-15 ページ
サイズの異なる原稿や本など、いろいろな原稿に合わせたオプション設定をしたい	1-17 ページ
新聞紙など、下地に色がついている原稿や、色の薄い原稿などの画質を調整したい	1-21 ページ
日時やページ番号を振りたい	1-22 ページ
その他のオプション設定	1-24 ページ

- 5 スタートを押します。
→ 必要に応じて、送信前に「設定確認」をタップし、指定した宛先や設定内容を確認します。
→ 宛先の指定や、オプション設定をやり直したいときは、リセットを押します。



送信が開始されます。

- 原稿の読み込み中にストップを押すと、読み込みを停止し、停止中のジョブの一覧を表示します。原稿の読み込みを中止したいときは、一覧から停止中のジョブを削除します。

関連設定

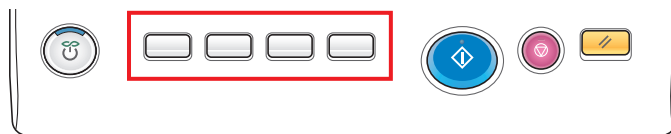
- お使いの環境に合わせて、スキャン送信のオプション設定の初期値を変更できます。詳しくは、「ユーザーズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [設定メニュー]」をごらんください。

1.2.2 仕上りを確認して送信する

- 1 原稿をセットします。
- 2 「ファクス/スキャン」をタップします。



- 3 宛先を指定します。
- 4 必要に応じて、スキャン送信のオプション設定をします。
- 5 プレビュー（初期値：登録キー 4）を押します。



- 6 原稿セット方向を選びます。
- 7 [実行] をタップするか、またはスタートを押します。
原稿が読みまれ、プレビュー画面が表示されます。
- 8 プレビュー表示を確認し、必要に応じてページの回転や設定を変更します。
 - 引続き原稿を読み込む場合は、原稿をセットしてから [読み開始] をタップします。
 - 送信を開始する場合は、[送信実行] をタップするか、またはスタートを押します。
 - 画面右側のタブキーをタップすると設定キーを表示したり、非表示にしたりできます。設定キーでは、ページの回転や削除ができます。



- 9 すべての原稿を読み終えたら、[送信実行] をタップするか、またはスタートを押します。
送信が開始されます。





関連設定（管理者向け）

- 通常は、すべての原稿を読み込んだあとプレビュー画像を表示しますが、原稿を読み込みながら 1 ページごとにプレビュー画像を表示するリアルタイムプレビューを利用することもできます（初期値：[しない]）。詳しくは、「ユーザーズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [設定メニュー]」をごらんください。
- プレビューを押したあとに、原稿セット方向を選ぶ画面を表示するかどうかを選べます（初期値：[する]）。詳しくは、「ユーザーズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [設定メニュー]」をごらんください。
- プレビュー画像の表示条件を選べます（初期値：[プレビューキー押下時]）。詳しくは、「ユーザーズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [設定メニュー]」をごらんください。

1.2.3 プログラムを呼出して送信する

ファクス/スキャンプログラムについて

プログラムは、よく使うオプション設定の組み合わせを、1つの呼出しキーとして登録する機能です。ファクス/スキャンモードで登録するプログラムのことを、ファクス/スキャンプログラムと呼びます。

ファクス/スキャンプログラムを登録すると、トップ画面からワンタッチでオプション設定の組み合わせを呼出せます。また、プログラムの登録に、宛先を含めることもできます。

ファクス/スキャンプログラムを登録する

ファクス/スキャンプログラムは 400 件まで登録できます。

すでにファクス/スキャンプログラムが 400 件登録されている場合は、不要なファクス/スキャンプログラムを削除してから登録します。

- 1 [ファクス/スキャン] をタップします。

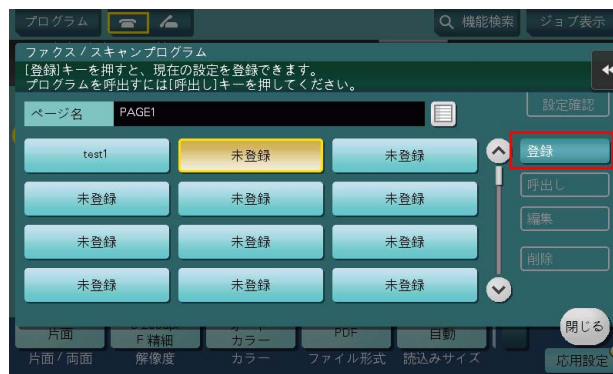


- 2 スキャン送信のオプション設定をします。
→ ここで設定した状態を、プログラムとして登録します。

3 [プログラム] をタップします。



4 未登録のキーを選び、[登録] をタップします。



5 プログラムの名前を入力し、[OK] をタップします。

→ 必要に応じて [宛先] を指定します。

設定	説明
[登録名]	プログラムの名前を入力します (半角 24 文字 / 全角 12 文字以内)。
[宛先]	プログラムに宛先を含めたいときに指定します。 直接入力して指定するか、本機に登録されている宛先の中から選びます。宛先は 1 件まで指定できます。
[URL 通知先]	原稿データの保存先を記載した E-mail を、指定のメールアドレスに通知できます。SMB 送信、FTP 送信、WebDAV 送信、ボックス保存の場合に有効です。 原稿データの保存先を通知する場合は、[URL 通知先] を選んでから、通知先のメールアドレスを指定します。

参考

- ファクス/スキャンプログラムには、通常のプログラムのほか、一時的に使うための一時プログラムがあります。一時プログラムは、**Web Connection** で登録します。あらかじめ、送信のための設定をしておくことで、送信時の本機での操作を簡単にすることができます。一時プログラムに登録した宛先に送信したり、本機の電源を OFF にしたりすると、一時プログラムは削除されます。
- 一時プログラムは、10 件まで登録できます。すでに一時プログラムが 10 件登録されている場合は、不要な一時プログラムを削除してから登録します。

参照

ファクス/スキャンプログラムは **Web Connection** でも登録できます。詳しくは、「ユーザーズガイド [Web 設定ツール] / [各種情報を登録する]」をご覧ください。

ファクス/スキャンプログラムを呼出して送信する

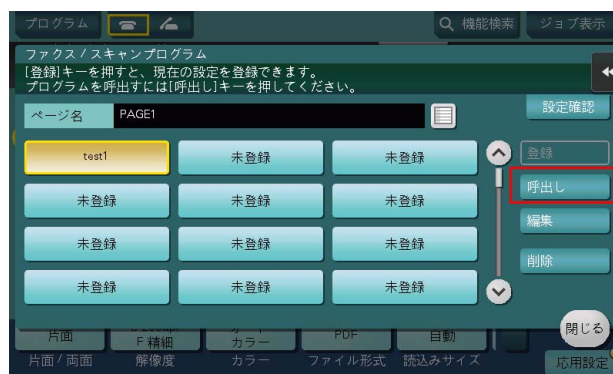
- 1 原稿をセットします。
- 2 [ファクス/スキャン] をタップします。



- 3 [プログラム] をタップします。



- 4 呼出したいプログラムを選び、[呼出し] をタップします。
プログラムの登録内容が反映されます。



→ 必要に応じて、プログラムのトップ画面に表示するページを変更できます（初期値：[PAGE1]）。詳しくは、「ユーザーズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [設定メニュー]」をごらんください。

- 5 プログラムに宛先が登録されていない場合は、宛先を指定します。

- 6 スタートを押します。
- 必要に応じて、送信前に「設定確認」をタップし、指定した宛先や設定内容を確認します。
 - 宛先の指定や、オプション設定をやり直したいときは、リセットを押します。



送信が開始されます。

- 原稿の読み込み中にストップを押すと、読み込みを停止し、停止中のジョブの一覧を表示します。原稿の読み込みを中止したいときは、一覧から停止中のジョブを削除します。

1.3 宛先の指定

登録宛先から選ぶ

〔登録宛先から〕で、本機に登録されている宛先を選びます。

複数の宛先を選ぶと、同報送信できます。同報送信は、E-mail 送信と SMB 送信を同時に行うなど、異なる送信機能でも使えます。

宛先の登録のしかたについては、12-2 ページをごらんください。



No.	説明
1	登録した宛先に設定した検索文字で、宛先を絞り込みます。〔宛先〕での絞り込みを併用するとさらに絞り込みます。 各キーは以下のような絞り込みをします。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [全て]：本機に登録したすべての短縮宛先を表示します。 ・ [常用]：検索文字として [常用] を指定した宛先を表示します。 ・ [英字]：検索文字としてアルファベットを指定した宛先を表示します。選んだキーのアルファベットで宛先を絞り込みます。[etc] をタップすると、登録名の頭文字がアルファベット以外の宛先を表示します。 ・ [かな]：検索文字として「かな」を指定した宛先を表示します。選んだキーの「かな」で宛先を絞り込みます。
2	登録した宛先の表示を、ボタン表示またはリスト表示に切換えます。 リスト表示にすると、宛先を登録番号、宛先種類、登録名で並替えることができます。
3	登録した宛先の種類で、宛先を絞り込みます。検索文字での絞り込みを併用するとさらに絞り込みます。
4	登録した宛先の表示エリアでスクロールが必要な場合、表示エリアを広げます。

🔗 関連設定

- [登録宛先から] を表示したとき、最初に表示する検索文字や宛先種類を選べます (初期値: [常用 (よく使う宛先)] / [全て])。詳しくは、「ユーザーズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [設定メニュー]」をごらんください。
- [登録宛先から] に表示する宛先の並び順を、登録番号順にするか、登録名順にするかを選べます (初期値: [登録番号順])。詳しくは、「ユーザーズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [設定メニュー]」をごらんください。
- [登録宛先から] の初期表示を、ボタン表示にするか、リスト表示にするかを選べます (初期値: [ボタン型])。詳しくは、「ユーザーズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [設定メニュー]」をごらんください。

🔗 関連設定 (管理者向け)

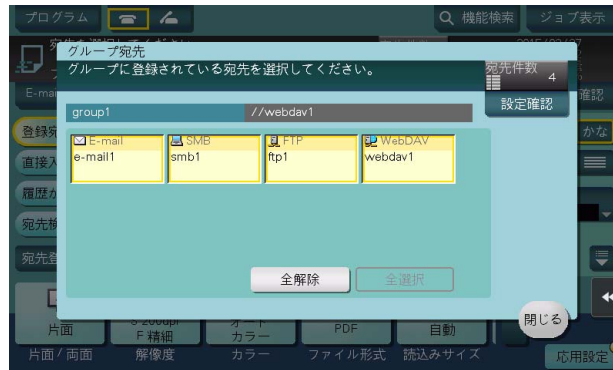
- ユーザーに対して、複数の宛先の指定 (同報送信) を禁止するかどうかを選べます (初期値: [する])。詳しくは、「ユーザーズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [設定メニュー]」をごらんください。
- 送信先を本機に登録されている宛先から選ぶとき、宛先を選ぶたびに、選んだ宛先の登録内容を表示するかどうかを選べます (初期値: [OFF])。誤送信を防ぐために便利な機能です。詳しくは、「ユーザーズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [設定メニュー]」をごらんください。

グループ宛先を指定する

同報送信することが多い場合は、複数の宛先をまとめたグループ宛先が便利です。

[登録宛先から] でグループ宛先を選んだときは、グループに登録した宛先の中から送信したい宛先を選びます。グループに登録されている宛先から、一時的に送信を除外したい宛先がある場合は、[全選択] をタップしてから除外したい宛先をタップして、選択を解除します。

グループ宛先の登録のしかたについて詳しくは、12-16 ページをごらんください。



宛先を検索する

宛先の登録件数が多い場合は、宛先の登録名や宛先（メールアドレスやコンピューター名）の文字で検索します。

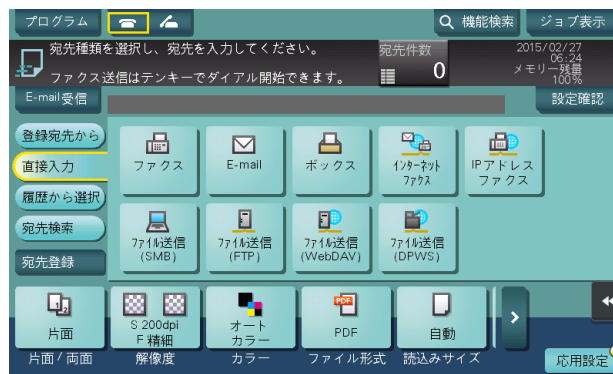
- 1 [宛先検索] - [検索] - [名称検索] または [宛先検索] をタップします。
 - 宛先の登録名で検索するときは、[名称検索] をタップします。
 - メールアドレスやコンピューター名で検索するときは、[宛先検索] をタップします。
- 2 検索したい文字を入力し、[検索実行] をタップします。
- 3 検索結果から、宛先を選びます。

④ 関連設定

- 宛先を検索するときに、アルファベットの大文字と小文字を区別するかどうかを選べます（初期値：[区別する]）。また、大文字と小文字を区別するかどうかを切替えるチェックボックスを、検索画面に表示するかどうかを選べます（初期値：[表示しない]）。詳しくは、「ユーザーズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [設定メニュー]」をごらんください。

直接入力する

〔直接入力〕で、保存または送信したい宛先の種類のキーをタップしてから、宛先情報を入力します。



目的	参照先
ファイルを E-mail に添付して送信したい	〔ユーザーズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [ファクス / スキャン]]
本機のボックスに保存したい	〔ユーザーズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [ファクス / スキャン]]
コンピューターやサーバーの共有フォルダーへ送信したい	〔ユーザーズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [ファクス / スキャン]]
FTP サーバーへ送信したい	〔ユーザーズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [ファクス / スキャン]]
WebDAV サーバーへ送信したい	〔ユーザーズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [ファクス / スキャン]]
Windows Vista/7/8.1/10 の Web サービスでスキャン送信したい	〔ユーザーズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [ファクス / スキャン]]
スキャンサーバーを使ってスキャン送信のワークフローを自動化したい	〔ユーザーズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [ファクス / スキャン]]

参照

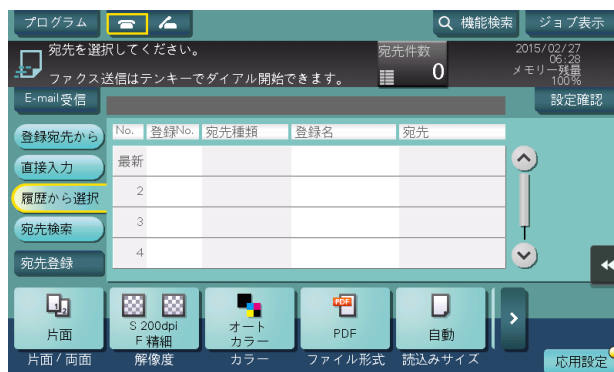
直接入力した宛先を、短縮宛先に登録することもできます。詳しくは、12-14 ページをごらんください。

関連設定 (管理者向け)

- ユーザーに対して、宛先の直接入力を許可するかどうかを選べます (初期値: [全て許可])。詳しくは、「ユーザーズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [設定メニュー]」をごらんください。

履歴から選ぶ

「履歴から選択」で、スキャン送信または保存した履歴から、宛先を選びます。履歴は、最新の5件を表示します。履歴から複数の宛先を選ぶこともできます。



参考

- 登録宛先の編集や、ボックスの編集、主電源の OFF/ON を行った場合、履歴の情報は削除されます。

メールアドレスを LDAP サーバーから検索する

LDAP サーバーや Windows Server の Active Directory をお使いの場合は、サーバーからメールアドレスを検索して選べます。

- ✓ 宛先の指定に LDAP サーバーや Active Directory を使うには、本機にサーバーの登録が必要です。登録のしかたについては、**Web Connection** を使って説明します。詳しくは、「ユーザズガイド [Web 設定ツール] / [スキャン送信の使用環境を設定する]」をごらんください。

- 1 「宛先検索」 - 「検索」 - 「LDAP 検索」または「LDAP 複合検索」をタップします。
 - 1つのキーワードで検索するときは、「LDAP 検索」をタップします。
 - カテゴリー別のキーワードを組合わせて検索するときは、「LDAP 複合検索」をタップします。
- 2 キーワードを入力し、「検索実行」をタップします。
- 3 検索結果から、宛先を選びます。

同報宛先リストを表示する

複数の宛先を指定したあと、「宛先件数」をタップすると、同報宛先リストを表示し、指定した宛先の確認や削除ができます。リスト上部をドラッグすることで、リストの表示場所を移動できます。



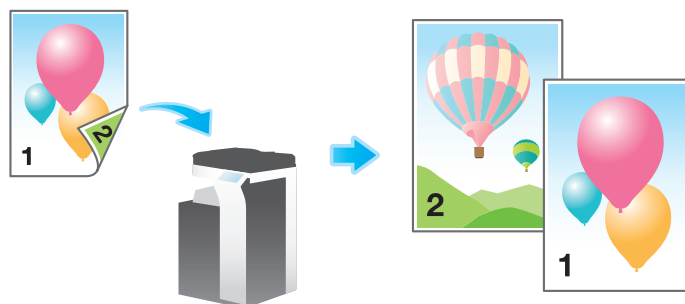
1.4 スキャン送信のオプション設定

1.4.1 カラーや原稿サイズなどの基本的なオプション設定

原稿の両面を読み込む（〔片面 / 両面〕）

ADF を使うと、原稿の表と裏を自動で読みめます。また、原稿の最初のページだけ片面を読み込み、残りのページを両面で読み込んだりすることもできます。

詳しくは、「ユーザーズガイド〔機能 / 設定キーの説明〕 / 〔ファクス / スキャン〕」をごらんください。



原稿を読み込む解像度を設定する（〔解像度〕）

原稿を読み込むときの解像度を選びます。

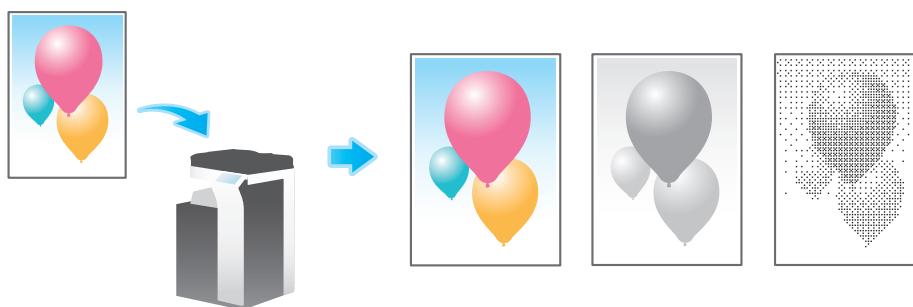
詳しくは、「ユーザーズガイド〔機能 / 設定キーの説明〕 / 〔ファクス / スキャン〕」をごらんください。

原稿を読み込むカラーモードを選ぶ（〔カラー〕）

選んだカラーモードで読み込みます。

カラーモードには、原稿の色に合わせて読み込む〔オートカラー〕のほか、〔フルカラー〕、〔グレースケール〕、〔白黒2値〕があります。

詳しくは、「ユーザーズガイド〔機能 / 設定キーの説明〕 / 〔ファクス / スキャン〕」をごらんください。



読み込んだ原稿データを保存するファイル形式を設定する（〔ファイル形式〕）

ファイル形式は、PDF や TIFF、JPEG のほかに、XPS や PPTX、DOCX、XLSX などの形式も選べます。重要な原稿は、ファイルを暗号化できる PDF 形式をおすすめします。

詳しくは、「ユーザーズガイド〔機能 / 設定キーの説明〕 / 〔ファクス / スキャン〕」をごらんください。

参考

- ファイル形式として DOCX、XLSX を指定するには、オプションの拡張メモリーと i-Option8（ファイル形式拡張パッケージ）が必要です。
- ファイル形式の XPS、コンパクト XPS、PPTX は、Web ブラウザー機能が無効の場合に利用できません。オプションの拡張メモリーを装着している場合は、Web ブラウザー機能の有効／無効に関わらず利用できます。

読込む原稿のサイズを設定する（〔読み込みサイズ〕）

読込む原稿のサイズを選びます。

読み込みサイズは、原稿の大きさに合わせる〔自動〕のほか、〔A系・B系〕や〔インチ系〕、〔写真サイズ〕などがあります。

詳しくは、「ユーザーズガイド〔機能 / 設定キーの説明〕 / 〔ファクス / スキャン〕」をごらんください。

ファイル名を変更する（〔文書名 / 件名 / 他〕）

必要に応じて、読込んだ原稿データのファイル名を変更します。詳しくは、「ユーザーズガイド〔機能 / 設定キーの説明〕 / 〔ファクス / スキャン〕」をごらんください。

ファイル名を変更しない場合は、「機能の頭文字」+「装置名」+「日付」+「連番」+「ページ番号」+「拡張子」の規則で自動的に命名します。ファイル名を構成する情報は、次のとおりです。

項目	説明
機能の頭文字	読込んだときのモードを示します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ C：コピー ・ S：ファクス/スキャン、ボックス ・ P：プリンター ・ R：受信ファクス
装置名	〔設定メニュー〕 - 〔管理者設定〕 - 〔管理者 / 本体登録〕 - 〔本体アドレス登録〕 - 〔装置名〕で登録されている本機の名前です。
日付	原稿を読込んだ年、月、日、時、分を示します。 たとえば、「11050115230」は、2011年5月1日15時23分に読込んだファイルを示しています。 最後の1桁(0)は、1分間に複数のファイル変換をした場合の、変換順を示しています。 15:23分から24分間に、原稿データのファイル変換を2回実施した場合は、最後の1桁が231、232のようになります。
連番	複数ページの原稿を、1ページ単位でファイルに変換した場合に付与される番号で、原稿のページ番号を示します。 ページ番号は、ファイルの保存または送信時に、自動的にファイル名の一部として付けられます。FTP送信などで、FTPサーバーにファイル名受付の条件がある場合は、この部分も考慮してファイル名を付けてください。
拡張子	保存するファイルの拡張子です。 拡張子は、ファイルの保存または送信時に、自動的にファイル名の一部として付けられます。



関連設定

- 送信先でのファイル名の重複を回避するため、ファイル名に自動で文字列を付加できます。詳しくは、「ユーザーズガイド〔機能 / 設定キーの説明〕 / 〔設定メニュー〕」をごらんください。



関連設定（管理者向け）

- ファイル名の初期値を変更できます。機能の頭文字を付与するかどうかの設定や、装置名の代わりに任意の文字列の指定ができます。詳しくは、「ユーザーズガイド〔機能 / 設定キーの説明〕 / 〔設定メニュー〕」をごらんください。

E-mail の件名と本文を変更する（〔文書名 / 件名 / 他〕）

E-mail には、初期値として設定されている件名と本文が自動で挿入されます。E-mail の件名と本文を複数登録している場合は、初期値から変更できます。

また、E-mail 送信の発信元のメールアドレス (From アドレス) を変更することもできます。

詳しくは、「ユーザーズガイド〔機能 / 設定キーの説明〕 / 〔ファクス / スキャン〕」をごらんください。

🔗 関連設定

- E-mail の件名と本文の定型文を登録できます。詳しくは、「ユーザーズガイド〔機能 / 設定キーの説明〕 / 〔設定メニュー〕」をごらんください。

🔗 関連設定（管理者向け）

- ユーザーに対して、E-mail 送信の発信元のメールアドレス (From アドレス) の変更を許可するかどうかを選べます（初期値：〔許可〕）。詳しくは、「ユーザーズガイド〔機能 / 設定キーの説明〕 / 〔設定メニュー〕」をごらんください。

1.4.2 いろいろな原稿に合わせた設定（応用設定）

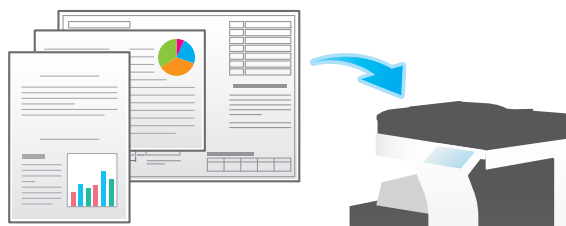
異なるサイズの原稿をまとめて読込む（〔混載原稿〕）

サイズの異なる複数ページの原稿でも、ADF を使うことで、原稿ごとにサイズを検知して読み込みます。

詳しくは、「ユーザーズガイド〔機能 / 設定キーの説明〕 / 〔ファクス / スキャン〕」をごらんください。

重要

すべての原稿は ADF の左側と奥側を基準にしてセットします。



普通紙よりも薄い原稿を読込む（〔薄紙原稿〕）

ADF の原稿を搬送する速度を遅くして、薄い紙を巻込みにくくします。

詳しくは、「ユーザーズガイド〔機能 / 設定キーの説明〕 / 〔ファクス / スキャン〕」をごらんください。



折りぐせのある原稿を読み込む（〔Z 折れ原稿〕）

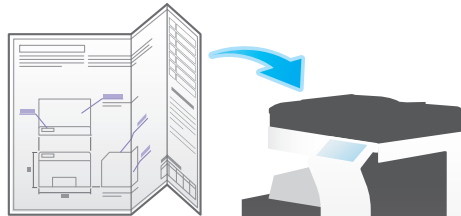
折りぐせのついた原稿でも、原稿サイズを正確に検知します。

折りぐせのついた原稿を ADF にセットすると、原稿サイズを正確に検知できないことがあります。折りぐせのついた原稿を ADF から読み込むときは、〔Z 折れ原稿〕で読み込んでください。

詳しくは、「ユーザーズガイド〔機能 / 設定キーの説明〕 / 〔ファクス / スキャン〕」をごらんください。

重要

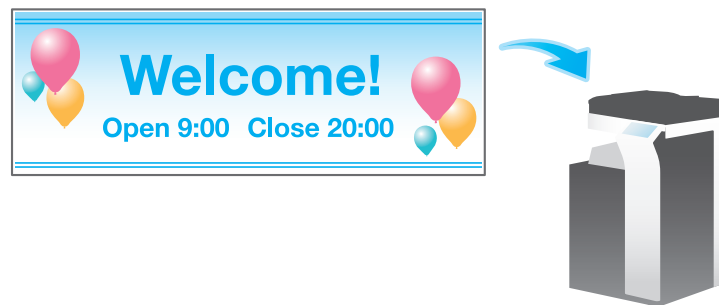
折りぐせのついた原稿は、ADF にセットする前に伸ばしてください。伸ばさずに読み込むと、紙づまりやサイズ誤検知の原因になります。



長い原稿を読み込む（〔長尺原稿〕）

原稿ガラスにセットできない、定形サイズ (A3 または 11 × 17) よりも通紙方向が長い原稿は、ADF にセットします。あらかじめ原稿のサイズを入力しなくても、ADF が自動で検出します。

詳しくは、「ユーザーズガイド〔機能 / 設定キーの説明〕 / 〔ファクス / スキャン〕」をごらんください。



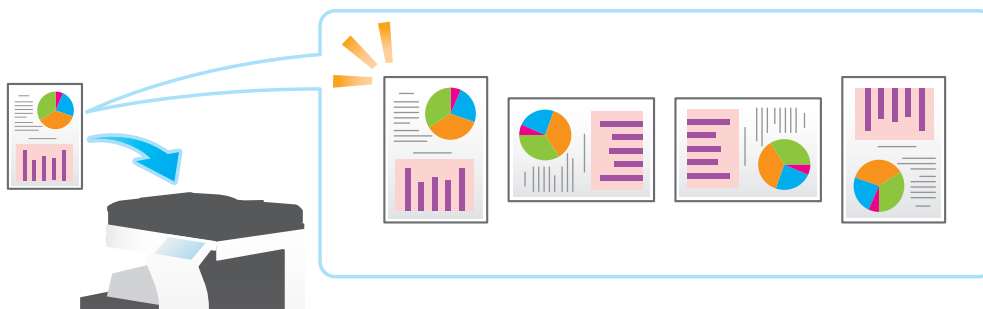
参考

- この機能は、Web ブラウザー機能が無効の場合に利用できます。オプションの拡張メモリーを装着している場合は、Web ブラウザー機能の有効／無効に関わらず利用できます。

原稿をセットした方向を指定する（〔原稿セット方向〕）

両面原稿を読み込む場合などに、読み込んだあとの上下が正しくなるように原稿をセットした向きを指定できます。

詳しくは、「ユーザーズガイド〔機能 / 設定キーの説明〕 / 〔ファクス / スキャン〕」をごらんください。



原稿のとじしろを指定する（「原稿のとじしろ」）

両面原稿を読み込むときは、とじしろの位置が逆にならないよう「原稿のとじしろ」で原稿のとじしろ位置を指定します。

詳しくは、「ユーザーズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [ファクス / スキャン]」をごらんください。



スリットガラスのゴミを除去しながら読む（「汚れ軽減モード」）

ADFで原稿を読み込むときに、原稿の読み込みとスリットガラスのゴミの除去を交互に行い、常にきれいなスリットガラスで読み込みます。

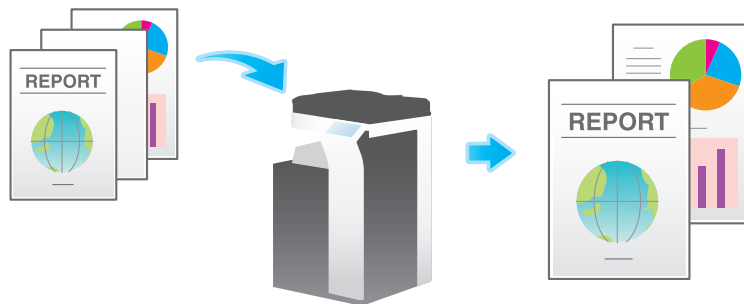
通常と比べて、原稿の読み込み時間が長くなります。

詳しくは、「ユーザーズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [ファクス / スキャン]」をごらんください。

白紙ページを読飛ばす（「白紙原稿除去」）

ADFにセットした原稿に白紙ページが含まれている場合に、白紙ページをスキャン対象から除外します。

詳しくは、「ユーザーズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [ファクス / スキャン]」をごらんください。



本やカタログの左右ページを分割して読む（「ブック原稿」）

本やカタログなどの見開き原稿を、左右のページそれぞれに分割したり、見開きのままを1ページとして読み込んだりします。本やカタログなどは、原稿ガラスにセットして、ADFを開いたまま読み込みます。

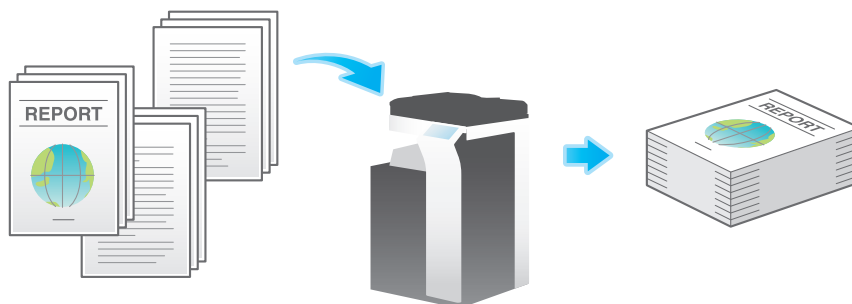
詳しくは、「ユーザーズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [ファクス / スキャン]」をごらんください。



大量の原稿を数回に分けて読む（〔連続読み〕）

原稿の枚数が多く、1度のセットで ADF に載せきれない場合でも、原稿を数回に分けて読んで、1つのジョブとして扱えます。

〔連続読み〕は、ADF と原稿ガラスとを交互に使い分けて、原稿を読むこともできます。



- 1 原稿をセットします。

重要

原稿給紙トレイに1度にセットする原稿は100枚(80 g/m²)以内とし、なおかつ▼マークを超えてセットしないでください。原稿づまりや原稿の破損、ADFの故障の原因になります。

- 2 〔応用設定〕 - 〔原稿〕 - 〔連続読み〕 をタップして、〔ON〕 に設定します。

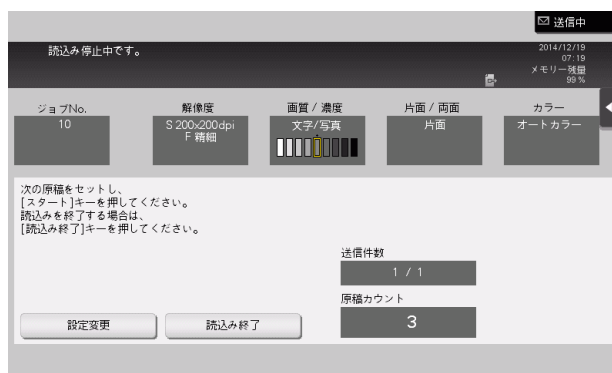


- 3 スタートを押します。

原稿が読み込まれます。

- 4 次の原稿をセットして、スタートを押します。

→ 必要に応じて〔設定変更〕をタップし、新しく読む原稿に合わせて、オプション設定を変更します。



- 5 すべての原稿を読み込むまで、手順4の操作を続けます。

- 6 すべての原稿を読み終えたら「読み終了」をタップし、スタートを押します。
送信が開始されます。

④ 関連設定

- 原稿ガラスから原稿を読み込むとき、「連続読み」を設定しなくても常に連続読みをするかどうかを選べます（初期値：「しない」）。詳しくは、「ユーザーズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [設定メニュー]」をごらんください。

1.4.3 画質／濃度の調整（応用設定）

原稿の内容に適した画質を選ぶ（「原稿画質」）

原稿の記載内容に適した設定を選び、最適な画質で読みます。

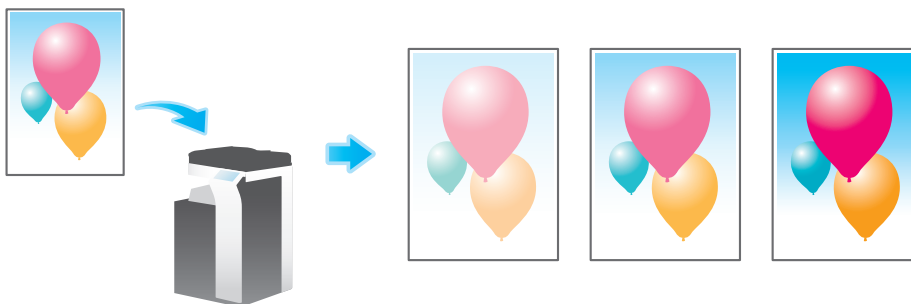
詳しくは、「ユーザーズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [ファクス / スキャン]」をごらんください。



原稿を読み込む濃度を調整する（「濃度」）

原稿を読み込む濃度（こく、うすく）を調整します。

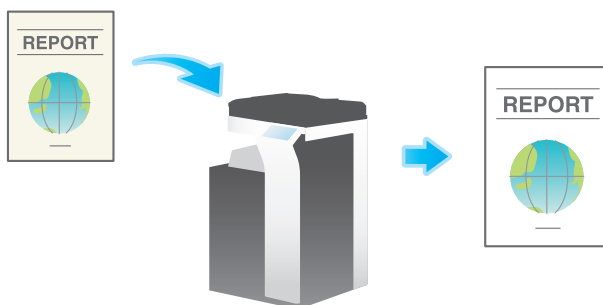
詳しくは、「ユーザーズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [ファクス / スキャン]」をごらんください。



読み込む原稿の下地の濃度を調整する（「下地調整」）

新聞紙や再生紙など、下地に色が付いている原稿や、裏面が透けてしまう薄い原稿などを読み込む場合に下地の濃度を調整できます。

詳しくは、「ユーザーズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [ファクス / スキャン]」をごらんください。



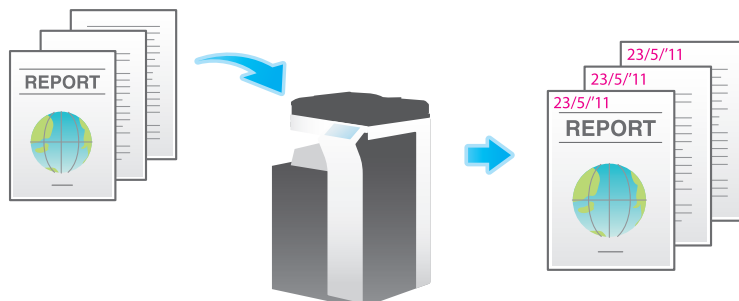
1.4.4 スタンプ／ページ番号の追加（応用設定）

日付／時刻を追加する（〔日付 / 時刻〕）

印字する位置や表記のしかたを選び、原稿を読込んだ日付や時刻を追加します。

全ページに追加したり、先頭ページだけに追加したりすることもできます。

詳しくは、「ユーザーズガイド〔機能 / 設定キーの説明〕 / 〔ファクス / スキャン〕」をごらんください。



参考

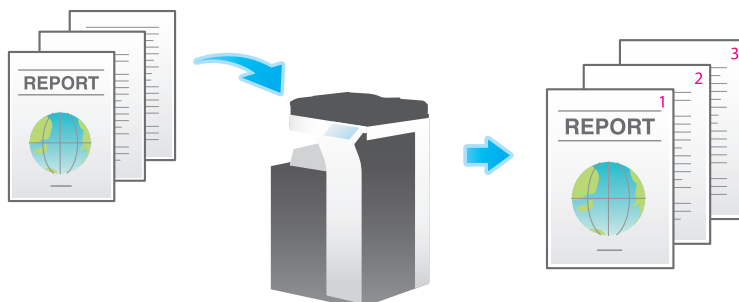
- この機能は、Web ブラウザー機能が無効の場合に利用できます。オプションの拡張メモリーを装着している場合は、Web ブラウザー機能の有効／無効に関わらず利用できます。

ページ番号を追加する（〔ページ番号〕）

印字する位置や表記のしかたを選び、ページ番号や章番号を追加します。

ページ番号や章番号は、全ページに追加されます。

詳しくは、「ユーザーズガイド〔機能 / 設定キーの説明〕 / 〔ファクス / スキャン〕」をごらんください。



参考

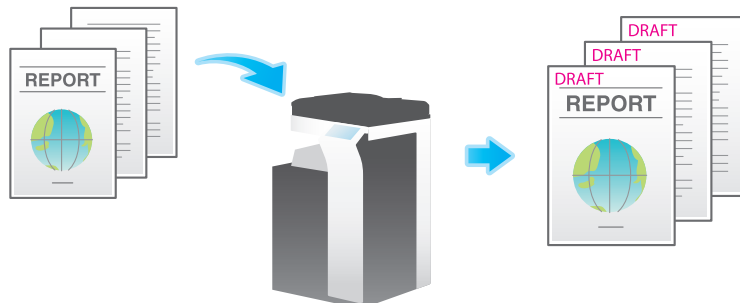
- この機能は、Web ブラウザー機能が無効の場合に利用できます。オプションの拡張メモリーを装着している場合は、Web ブラウザー機能の有効／無効に関わらず利用できます。

スタンプを追加する（[スタンプ]）

先頭ページまたはすべてのページに、「回覧」や「複製厳禁」などの文字を追加します。追加する文字は、登録済みの定型のスタンプや、任意で登録したスタンプから選べます。

原稿に手を加えることなく文字を追加できるので、追記したり、手を加えたりできない重要な資料などの取扱いに便利です。

詳しくは、「ユーザーズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [ファクス / スキャン]」をごらんください。



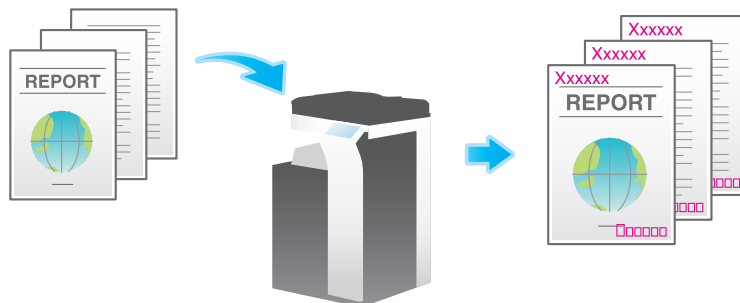
参考

- この機能は、Web ブラウザー機能が無効の場合に利用できます。オプションの拡張メモリーを装着している場合は、Web ブラウザー機能の有効/無効に関わらず利用できます。

ヘッダー/フッターに情報を追加する（[ヘッダー / フッター]）

指定したページの上下の余白部分（ヘッダー/フッター）に、日付や時刻をはじめ、任意の文字を追加します。ヘッダー/フッターに追加する情報は、あらかじめ本機に登録しておく必要があります。

詳しくは、「ユーザーズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [ファクス / スキャン]」をごらんください。



参考

- この機能は、Web ブラウザー機能が無効の場合に利用できます。オプションの拡張メモリーを装着している場合は、Web ブラウザー機能の有効/無効に関わらず利用できます。



関連設定（管理者向け）

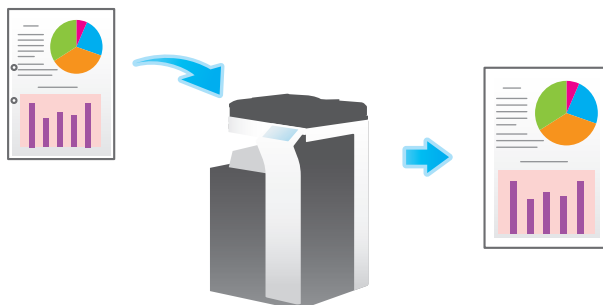
- ヘッダー/フッターに追加する情報の登録のしかたについて詳しくは、「ユーザーズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [設定メニュー]」をごらんください。

1.4.5 その他のオプション設定（応用設定）

原稿の端部（ふち）にある文字や影を消去して読込む（「粹消し」）

原稿の周囲 4 辺を、指定した幅で消去します。辺ごとに消去する幅を設定できます。

ファクスのヘッダーやフッターにある受信記録や、原稿のパンチ穴の影を消したいときなどに便利です。詳しくは、「ユーザーズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [ファクス / スキャン]」をごらんください。

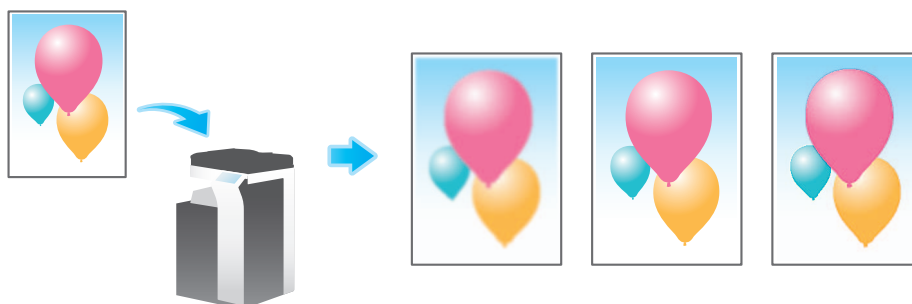


文字などの境界をくっきりさせる（「シャープネス」）

表文字、グラフィックなど、画像のエッジ部分を強調して、読みやすくします。

画像の輪郭で、ガタガタした部分をなめらかにしたり、ぼやけた部分をくっきりさせたりします。

詳しくは、「ユーザーズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [ファクス / スキャン]」をごらんください。



原稿データにファイリング番号を付加する（「ファイリングナンバーボックス」）

ファイリングナンバーボックスは、原稿データに対してジョブ単位やページ単位でファイリング番号を付加する機能を持ったボックスです。

ファイリングナンバーボックスからファイルを印刷、送信するとき、あらかじめ設定しておいた管理用の日時やファイリング番号を、画像内のヘッダーまたはフッターに自動的に付加します。作成元や作成日時を特定できる文書を作成することで、不正な利用を抑止します。

詳しくは、「ユーザーズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [ファクス / スキャン]」をごらんください。



参考

- この機能は、Web ブラウザー機能が無効の場合に利用できます。オプションの拡張メモリーを装着している場合は、Web ブラウザー機能の有効／無効に関わらず利用できます。

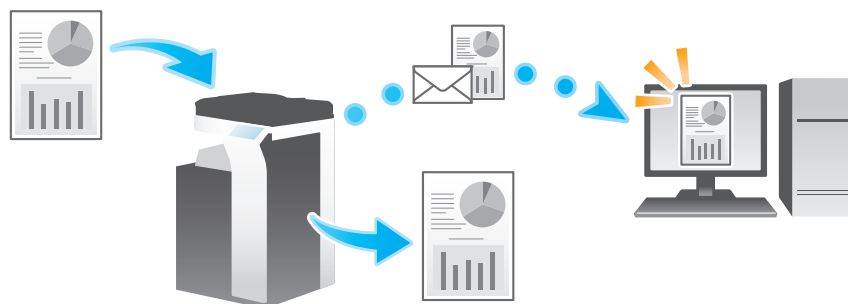
参照

ファイリングナンバーボックスは、あらかじめ登録が必要です。登録のしかたについて詳しくは、「ユーザーズガイド [ボックス機能] / [ファイルにファイリング番号を追加する (ファイリングナンバー)]」をごらんください。

送信と同時に印刷する（「同時印刷」）

E-mail 送信などの各スキャン送信時や、ボックスに保存すると同時に、印刷ができます。

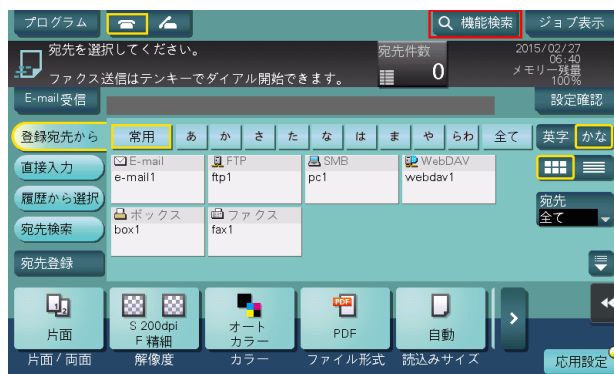
詳しくは、「ユーザーズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [ファクス / スキャン]」をごらんください。



1.5 スキャン送信機能の設定項目を検索する

スキャン送信機能の設定項目を検索し、検索結果から対象の機能の画面へ移動することができます。

- 1 「機能検索」をタップします。



- 2 検索のキーワードを入力します（半角 32 文字／全角 16 文字以内）。
→ キーワードの入力と同時に検索が開始され、入力とともに検索結果が更新されます。
- 3 検索結果の一覧から目的の項目を選択します。
対象の機能の画面へ移動します。

参考

- 検索対象は、コピー機能、ファクス / スキャン機能の設定項目です。

関連設定

- 検索機能を使用するかしないかを設定できます（初期値：[検索する]）。詳しくは「ユーザーズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [設定メニュー]」をごらんください。

2

E-mail に添付して送信する
(E-mail 送信)

2 E-mail に添付して送信する (E-mail 送信)

2.1 E-mail 送信機能について

E-mail 送信は、本機で読込んだ原稿データを、コンピュータで扱えるファイルに変換して、E-mail の添付ファイルとして任意のメールアドレスに送信する機能です。

普段、E-mail を使うような操作でファイルを送信できるため、操作も手軽で、導入も容易です。

S/MIME や SSL/TLS などの暗号化や、POP before SMTP 認証などにも対応しており、セキュリティへの対策もできます。また、LDAP サーバーや Windows Server の Active Directory でユーザーを管理している場合は、サーバーからメールアドレスを検索することもできます。



2.2 E-mail 送信の準備 (管理者向け)

2.2.1 準備の流れ

本機をネットワークに接続する

- LAN ケーブルの接続を確認する
 - ネットワーク設定を確認する
 - 本機に IP アドレスが割当てられていることを確認します。
-



E-mail 環境を準備する

- E-mail 送信機能を有効にする
 - 通常は初期設定の状態でお使いいただけます。
 - メールサーバー (SMTP) を登録する
 - 管理者のメールアドレスを登録する
 - 送信元のアドレス (From アドレス) になります。
-



お使いの環境に合わせて設定する

- よく送信するメールアドレスを登録する
 - 送信のたびに宛先入力する手間を省けます。
 - 宛先の指定に LDAP サーバーを使う
 - LDAP サーバーや Active Directory をお使いの場合に、サーバーで宛先検索ができます。
 - 送信する E-mail の件名と本文を登録する
 - E-mail の件名と本文を定型として登録しておけば、送信時に選べます。
 - 宛先の Prefix と Suffix を登録する
 - メールアドレスの接頭辞 (Prefix) と接尾辞 (Suffix) を登録して、メールアドレスの入力が簡単になります。
 - SMTP 認証を使う
 - 本機は SMTP 認証に対応しています。お使いの環境で SMTP 認証を導入している場合に設定します。
 - POP before SMTP 認証を使う
 - 本機は POP before SMTP 認証に対応しています。お使いの環境で POP before SMTP 認証を導入している場合に設定します。
 - SSL/TLS で通信する
 - 本機は SMTP over SSL と Start TLS に対応しています。お使いの環境でメールサーバーとの通信を SSL で暗号化している場合に設定します。
 - S/MIME を使う
 - 本機は E-mail の盗聴や送信者のなりすましなどのリスクを回避する、S/MIME に対応しています。お使いの環境で S/MIME を導入している場合に設定します。
-

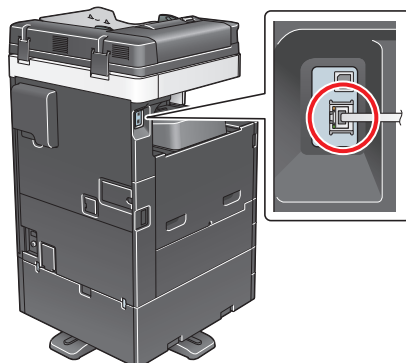


準備完了

2.2.2 お使いになるために必要な作業

LAN ケーブルの接続を確認する

本機の LAN ポートに、ネットワークに接続された LAN ケーブルが接続されていることを確認します。



ネットワークの設定を確認する

本機に IP アドレスが割当てられていることを確認します。[設定メニュー] - [装置情報表示] をタップし、IP アドレスが表示されていることを確認します。



参照

IP アドレスが表示されていない場合は、ネットワーク設定が必要です。詳しくは、「ユーザーズガイド [Web 設定ツール] / [お使いになるために必要な作業]」をごらんください。

E-mail 送信の使用環境を設定する

E-mail 送信機能を有効にします。また、E-mail 送信に使うメールサーバーと、管理者のメールアドレスを登録します。

登録のしかたについては、**Web Connection** を使って説明します。詳しくは、「ユーザーズガイド [Web 設定ツール] / [スキャン送信の使用環境を設定する]」をごらんください。

2.2.3 必要に応じて行う作業

よく送信する宛先を登録する

よく送信するメールアドレスは、あらかじめ本機に宛先として登録することで、送信のたびに入力する手間が省けます。

登録のしかたについては、12-2 ページをごらんください。



参照

Address Link 機能を使えば、Android 端末のアドレス帳に登録されているメールアドレスを宛先として指定することができます。Address Link 機能について詳しくは、11-2 ページをごらんください。

宛先の指定に LDAP サーバーを使う

ユーザー管理に LDAP サーバーや Active Directory をお使いの場合は、サーバーを使ってメールアドレスの検索や指定ができます。宛先の指定にサーバーを使う場合は、お使いのサーバーを本機に登録します。

登録のしかたについては、**Web Connection** を使って説明します。詳しくは、「ユーザーズガイド [Web 設定ツール] / [スキャン送信の使用環境を設定する]」をごらんください。



参照

LDAP サーバーを使った検索のしかたについては、1-14 ページをごらんください。

送信する E-mail の件名と本文を登録する

E-mail には、初期値として設定されている件名と本文が自動で挿入されます。あらかじめ E-mail の件名と本文の定型文を複数登録しておくことで、送信先に応じて使い分けることができます。

登録のしかたについては詳しくは、「ユーザズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [設定メニュー]」をごらんください。

宛先の Prefix と Suffix を登録する

メールアドレスの接頭辞 (Prefix) と接尾辞 (Suffix) を登録します。

所属が同じメールアドレスが多い場合は、@ マーク以降の文字列 (ドメイン名) を登録します。登録することで、メールアドレスを入力する際に、登録したドメイン名を呼出して、入力を補完します。

ドメイン名の長いメールアドレスなど、ドメイン名を登録して入力のミスを防ぎます。

登録のしかたについては詳しくは、「ユーザズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [設定メニュー]」をごらんください。

SMTP 認証を使う

本機は SMTP 認証に対応しています。お使いの環境で SMTP 認証を導入している場合に設定します。

設定のしかたについては、**Web Connection** を使って説明します。詳しくは、「ユーザズガイド [Web 設定ツール] / [スキャン送信の使用環境を設定する]」をごらんください。

POP before SMTP 認証を使う

本機は POP before SMTP 認証に対応しています。お使いの環境で POP before SMTP 認証を導入している場合に設定します。

設定のしかたについては、**Web Connection** を使って説明します。詳しくは、「ユーザズガイド [Web 設定ツール] / [スキャン送信の使用環境を設定する]」をごらんください。

SSL/TLS で通信する

本機は SMTP over SSL と Start TLS に対応しています。お使いの環境でメールサーバーとの通信を SSL で暗号化している場合に設定します。

設定のしかたについては、**Web Connection** を使って説明します。詳しくは、「ユーザズガイド [Web 設定ツール] / [スキャン送信の使用環境を設定する]」をごらんください。

S/MIME を使う

本機は、E-mail の盗聴や送信者のなりすましなどのリスクを回避する、S/MIME に対応しています。お使いの環境で S/MIME を導入している場合に設定します。

設定のしかたについては、**Web Connection** を使って説明します。詳しくは、「ユーザズガイド [Web 設定ツール] / [スキャン送信の使用環境を設定する]」をごらんください。

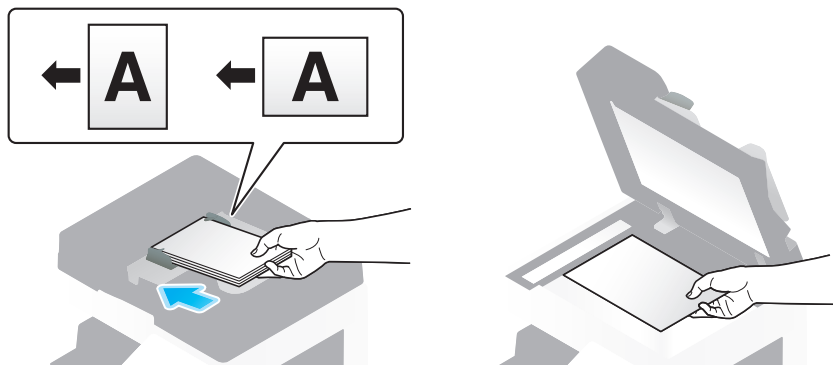


参照

S/MIME を使った送信のしかたについては詳しくは、2-10 ページをごらんください。

2.3 送信のしかた

1 原稿をセットします。



2 [ファクス/スキャン] をタップします。



3 送信先のメールアドレスを指定します。

- 宛先の指定のしかたについて詳しくは、1-11 ページをごらんください。
- 複数の宛先を指定することで、コンピューターへの送信、ファクス送信などが同時に実行できます。初期設定では、複数の宛先の指定が禁止されているため設定変更が必要です。詳しくは、「ユーザズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [設定メニュー]」をごらんください。
- 宛先を指定後、From が設定されていないというメッセージが表示されたときは、オプション設定の [文書名 / 件名 / 他] で [From] に送信元とするメールアドレスを入力してください。



- 必要に応じて、ファクス/スキャンモードのトップ画面の表示を変更できます（初期値：[登録宛先から]）。詳しくは、「ユーザズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [設定メニュー]」をごらんください。

- 4 必要に応じて、スキャン送信のオプション設定をします。
 → オプション設定について詳しくは、以下の各項目をごらんください。

目的	参照先
カラーや原稿サイズなどの基本的なオプション設定をしたい	1-15 ページ
サイズの異なる原稿や本など、いろいろな原稿に合わせたオプション設定をしたい	1-17 ページ
新聞紙など、下地に色がついている原稿や、色の薄い原稿などの画質を調整したい	1-21 ページ
日時やページ番号を振りたい	1-22 ページ
その他のオプション設定	1-24 ページ

- 5 スタートを押します。
 → 必要に応じて、送信前に〔設定確認〕をタップし、指定した宛先や設定内容を確認します。
 → 宛先の指定や、オプション設定をやり直したいときは、リセットを押します。



送信が開始されます。

- 原稿の読み込み中にストップを押すと、読み込みを停止し、停止中のジョブの一覧を表示します。原稿の読み込みを中止したいときは、一覧から停止中のジョブを削除します。

参照

プレビュー機能を使うと、仕上り状態を確認してから送信できます。送信のしかたについて詳しくは、1-5 ページをごらんください。

よく送信する宛先は、ファクス/スキャンプログラムに登録すると便利です。プログラムについて詳しくは、1-7 ページをごらんください。

2.4 応用機能の紹介

2.4.1 自分宛てに送信する (Scan to Me)

Scan to Me について

[登録宛先から] 画面に表示されている [Me] キーを選ぶと、自分のメールアドレスを宛先とした E-mail 送信ができます。ユーザー認証を導入している本機にログインすると [登録宛先から] 画面に [Me] キーが表示されます。[Me] キーには、ログインしたユーザー用のメールアドレスが登録されています。自分のメールアドレスを短縮宛先に登録する必要がなく、便利です。



お使いになるために必要な作業 (管理者向け)

ユーザーの登録情報にメールアドレスを登録します。

登録のしかたについては、Web Connection を使って説明します。詳しくは、「ユーザーズガイド [Web 設定ツール] / [本機を使えるユーザーを制限する]」をごらんください。

参考

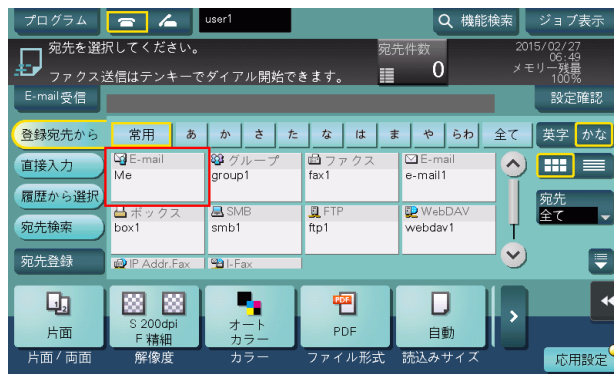
- 認証サーバーとして Active Directory をお使いの場合は、Active Directory に、ユーザーのメールアドレスを登録する必要があります。

操作の流れ

- 1 原稿をセットします。
- 2 ユーザー情報を入力して、ログインします。
→ ログインのしかたについて詳しくは、「ユーザーズガイド [操作パネルについて] / [ログイン画面について]」をごらんください。
- 3 [ファクス/スキャン] をタップします。



4 [Me] を選びます。



5 必要に応じて、スキャン送信のオプション設定をします。

6 スタートを押します。

- 必要に応じて、送信前に「設定確認」をタップし、指定した宛先や設定内容を確認します。
- 宛先の指定や、オプション設定をやり直したいときは、リセットを押します。



送信が開始されます。

- 原稿の読み込み中にストップを押すと、読み込みを停止し、停止中のジョブの一覧を表示します。原稿の読み込みを中止したいときは、一覧から停止中のジョブを削除します。

2.4.2 E-mail の暗号化とデジタル署名の付加をする (S/MIME)

S/MIME について

S/MIME は、E-mail の暗号化方式の 1 つです。S/MIME を使うことで、本機から送信する E-mail を暗号化して、送信する過程での第三者による盗聴を防ぎます。また、E-mail にデジタル署名を付加することで、送信元の保証やデータが改ざんされていないことを証明します。

お使いになるために必要な作業（管理者向け）

S/MIME を有効にします。E-mail を暗号化する場合は、暗号化に使う証明書を E-mail 宛先に登録します。

設定のしかたについては、**Web Connection** を使って説明します。詳しくは、「ユーザーズガイド [Web 設定ツール] / [スキャン送信の使用環境を設定する]」をごらんください。

操作の流れ

- 1 原稿をセットします。
- 2 [ファクス/スキャン] をタップします。



- 3 [応用設定] - [応用] - [メールの暗号化] と [デジタル署名] を設定します。
 - E-mail を暗号化するときは、[メールの暗号化] を [ON] に設定します。
 - デジタル署名を付加するときは、[デジタル署名] を [ON] に設定します。
 - [デジタル署名] で、[ON] または [OFF] のいずれかの状態から変更できない場合は、管理者によって常に署名するかしないかが設定されています。



4 送信先の E-mail 宛先を指定します。

- E-mail を暗号化するときは、証明書が登録されている E-mail 宛先を選びます。証明書が登録されている E-mail 宛先には鍵マークのアイコンを表示します。
- E-mail は 10 件まで同報送信できます。



5 スタートを押します。

- 必要に応じて、送信前に「設定確認」をタップし、指定した宛先や設定内容を確認します。
- 宛先の指定や、オプション設定をやり直したいときは、リセットを押します。



送信が開始されます。

- 原稿の読み込み中にストップを押すと、読み込みを停止し、停止中のジョブの一覧を表示します。原稿の読み込みを中止したいときは、一覧から停止中のジョブを削除します。

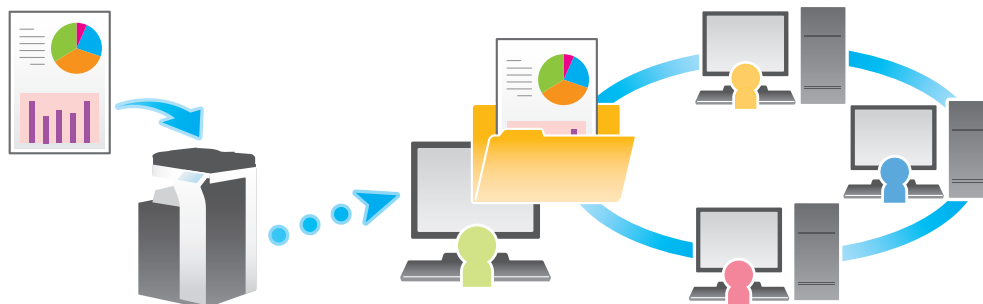
3

コンピューターの共有フォルダに送信する (SMB 送信)

3 コンピューターの共有フォルダーに送信する (SMB 送信)

3.1 SMB 送信機能について

SMB 送信は、本機で読込んだ原稿データを、コンピューターで扱えるファイルに変換して、コンピューターやサーバーの共有フォルダーへ送信する機能です。自分のコンピューターはもちろん、普段からファイルの受渡しに使っているファイルサーバーへ送信して共有することもできます。



3.2 SMB 送信の準備

3.2.1 準備の流れ

送信先のコンピューターを準備する (Windows Vista/7/8.1/10、Mac OS X 10.6 以降)

- コンピューター名とユーザー名を確認する
 - 送信先のコンピューター名とアクセスできるユーザー名を確認します。
- 共有フォルダーを作成する
 - 送信先のフォルダーを作成して、共有を開始します。



本機をネットワークに接続する

- LAN ケーブルの接続を確認する
- ネットワーク設定を確認する
 - 本機に IP アドレスが割当てられていることを確認します。



SMB 送信の使用環境を準備する

- SMB 送信機能を有効にする
 - 通常は、初期設定の状態でお使いいただけます。



お使いの環境に合わせて設定する

- よく送信する宛先を登録する
 - 送信のたびに宛先入力する手間を省けます。
- WINS サーバーを使う
 - ネットワーク上の機器との通信に WINS(Windows Internet Name Service) をお使いの場合は、WINS サーバーを登録します。
- ダイレクトホスティング SMB サービスを使う
 - ネットワーク上の機器との通信にダイレクトホスティング SMB サービスをお使いの場合は、ダイレクトホスティング SMB サービスを有効にします (通常は、初期設定の状態でお使いいただけます)。
- LLMNR を使う
 - ネットワーク上の機器との通信に LLMNR(Link-local Multicast Name Resolution) をお使いの場合は、LLMNR を有効にします (通常は、初期設定の状態でお使いいただけます)。
- DFS を使う
 - お使いの環境で DFS(Distributed File System) を導入している場合に設定します (通常は、初期設定の状態でお使いいただけます)。



準備完了


3.2.2 コンピューター側：お使いになるために必要な作業

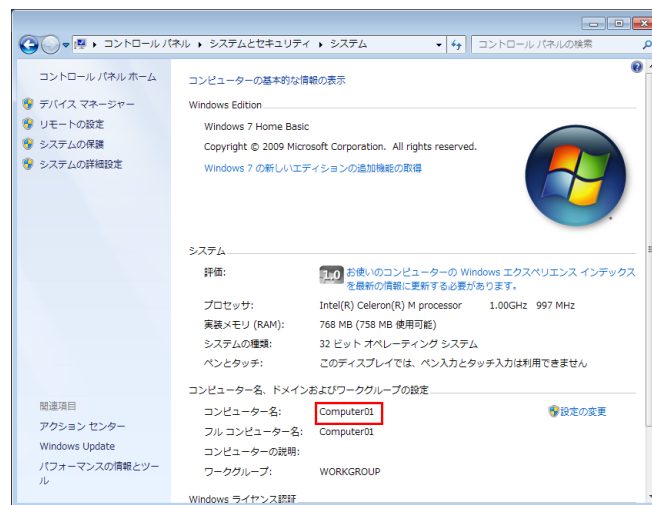
Windows 7/8.1/10 をお使いの場合

本機で読込んだ原稿データを、自分のコンピューターへ送信するための準備をします。

はじめに、コンピューターの名前とログインしているユーザー名を確認します。

✓ この作業を行うには、コンピューターの管理者権限が必要です。


- 1 スタートメニューから [コンピューター] - [システムのプロパティ] をクリックします。
 - Windows 8.1/10 の場合は、[Windows] () キーを押しながら [X] キーを押し、表示されたメニューから [システム] をクリックします。
- 2 [コンピューター名] を確認します。
 - コンピューター名は、宛先の指定で必要です。コンピューター名をメモしておいてください。



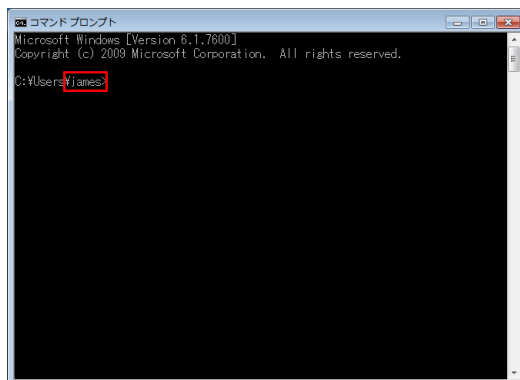
→ ドメインユーザーの場合、ドメイン名は、ユーザー名とともに宛先の指定で必要です。ドメイン名をメモしておいてください。



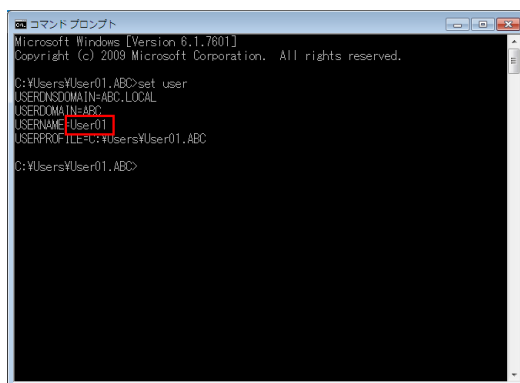
メモしたら、ウィンドウを閉じます。

- 3 スタートメニューから [すべてのプログラム] - [アクセサリ] - [コマンド プロンプト] をクリックします。
 - Windows 8.1/10 の場合は、[Windows] () キーを押しながら [X] キーを押し、表示されたメニューから [コマンド プロンプト] をクリックします。

- 4 コンピューターにログインしているユーザー名を確認します。
 - ユーザー名は、フォルダーの共有設定と宛先の指定で必要です。ユーザー名をメモしておいてください。



- ドメインユーザーの場合、「set user」を入力し、ユーザー名を確認します。

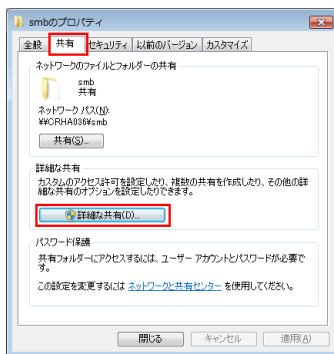


ユーザー名をメモしたら、ウィンドウを閉じます。

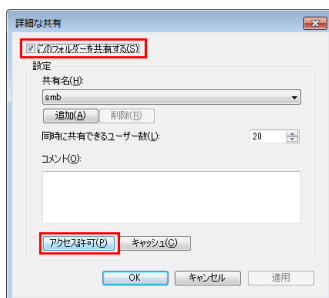
次に、読込んだ原稿データを送信するフォルダーを作成して、共有を開始します。

- 5 スタートメニューから [コントロールパネル] - [ネットワークとインターネット] - [ネットワークと共有センター] - [共有の詳細設定の変更] をクリックします。
 - Windows 8.1/10 の場合は、[Windows] (⊞) キーを押しながら [X] キーを押し、表示されたメニューから [コントロール パネル] - [ネットワークと共有センター] - [共有の詳細設定の変更] をクリックします。
- 6 [共有の詳細設定] 画面で [ファイルとプリンターの共有を有効にする] をクリックします。
[変更の保存] をクリックして、ウィンドウを閉じます。
- 7 任意の場所に新しいフォルダーを作り、名前を付けます。
 - フォルダー名は、宛先の指定が必要です。フォルダー名はメモしておいてください。
 - フォルダーの名前は、半角英数字をお使いください。
- 8 フォルダーを右クリックして、[プロパティ] をクリックします。

9 [共有] タブをクリックして、[詳細な共有] をクリックします。

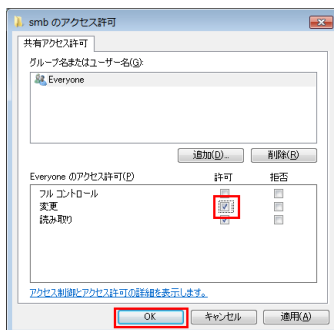


10 [このフォルダーを共有する] にチェックをつけて、[アクセス許可] をクリックします。



11 [グループ名またはユーザー名] で [Everyone] をクリックします。

12 [変更] を許可するチェックをつけて、[OK] をクリックします。



13 [OK] や [閉じる] をクリックして、各画面を閉じます。

以上で、コンピューター側の設定の完了です。ここでメモしたコンピューター名、ユーザー名、フォルダー名は、宛先の指定が必要です。

Windows Vista をお使いの場合

本機で読込んだ原稿データを、自分のコンピューターへ送信するための準備をします。

はじめに、コンピューターの名前とログインしているユーザー名を確認します。

✓ この作業を行うには、コンピューターの管理者権限が必要です。

1 スタートメニューから [コンピューター] - [システムのプロパティ] をクリックします。

2 [コンピューター名] を確認します。

→ コンピューター名は、宛先の指定で必要です。コンピューター名をメモしておいてください。



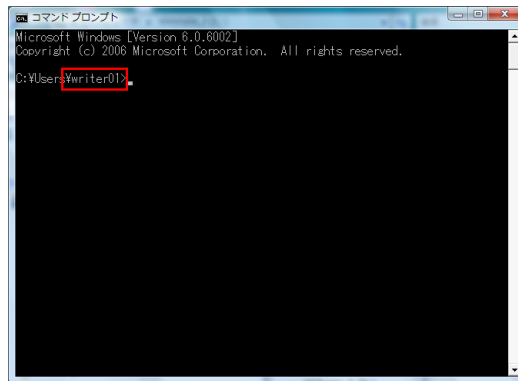
→ ドメインユーザーの場合、ドメイン名は、ユーザー名とともに宛先の指定で必要です。ドメイン名をメモしておいてください。



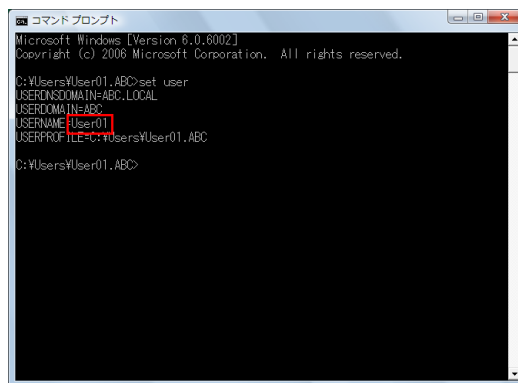
メモしたら、ウィンドウを閉じます。

3 スタートメニューから [すべてのプログラム] - [アクセサリ] - [コマンド プロンプト] をクリックします。

- 4 コンピューターにログインしているユーザー名を確認します。
 - ユーザー名は、フォルダーの共有設定と宛先の指定で必要です。ユーザー名をメモしておいてください。



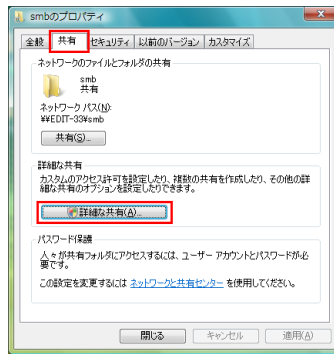
- ドメインユーザーの場合、「set user」を入力し、ユーザー名を確認します。



ユーザー名をメモしたら、ウィンドウを閉じます。
次に、読込んだ原稿データを送信するフォルダーを作成して、共有を開始します。

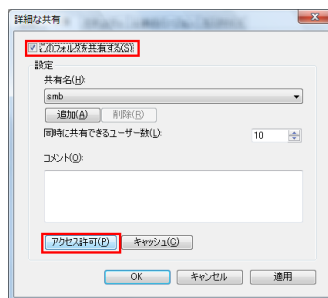
- 5 スタートメニューから [コントロールパネル] - [ネットワークとインターネット] - [ネットワークと共有センター] をクリックします。
- 6 [共有と探索] の [ファイル共有] で、[ファイル共有を有効にする] をクリックします。
[適用] をクリックして、ウィンドウを閉じます。
- 7 任意の場所に新しいフォルダーを作り、名前を付けます。
 - フォルダー名は、宛先の指定で必要です。フォルダー名はメモしておいてください。
 - フォルダーの名前は、半角英数字をお使いください。
- 8 フォルダーを右クリックして、[プロパティ] をクリックします。

9 [共有] タブをクリックして、[詳細な共有] をクリックします。



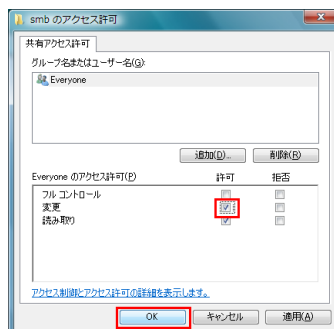
→ ファイル共有の開始を再確認する画面が表示されたときは、[続行] をクリックします。

10 [このフォルダを共有する] にチェックをつけて、[アクセス許可] をクリックします。



11 [グループ名またはユーザー名] で [Everyone] をクリックします。

12 [変更] を許可するチェックをつけて、[OK] をクリックします。



13 [OK] や [閉じる] をクリックして、各画面を閉じます。

以上で、コンピューター側の設定の完了です。ここでメモしたコンピューター名、ユーザー名、フォルダー名は、宛先の指定で必要です。

Mac OS X 10.6 以降をお使いの場合

本機で読込んだ原稿データを、自分のコンピューターへ送信するための準備をします。

はじめに、読込んだ原稿データを受取る、専用の共有フォルダーを作成します。次に IP アドレスとユーザー名を確認して、共有を開始します。

ここでは、Mac OS X 10.6 を例に説明します。

✓ この作業を行うには、コンピューターの管理者権限が必要です。

1 任意の場所に新しいフォルダーを作り、名前を付けます。

- フォルダー名は、宛先の指定が必要です。フォルダー名はメモしておいてください。
- フォルダーの名前は、半角英数字をお使いください。

2 アップルメニューから [この Mac について] を選びます。

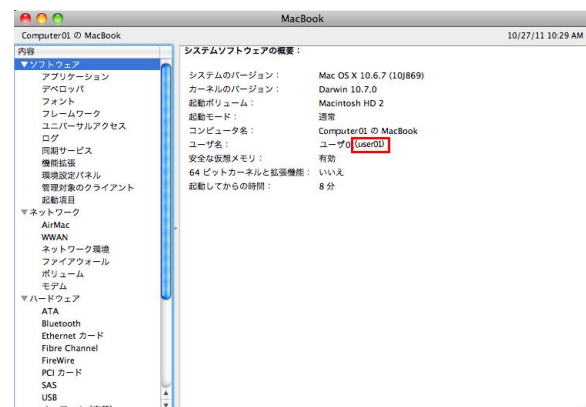
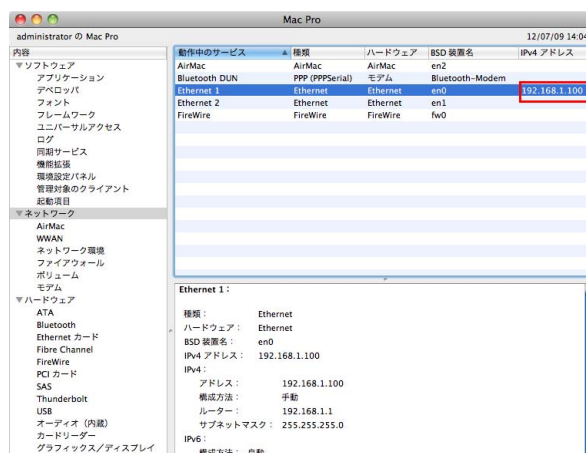
[この Mac について] の画面が表示されます。

3 [詳しい情報 ...] をクリックします。

→ Mac OS X 10.7 以降の場合は、[詳しい情報 ...] をクリックしたあと、[システムレポート ...] をクリックします。

4 IP アドレスとログインしているユーザー名を確認します。

→ IP アドレスとユーザー名は、フォルダーの共有設定と宛先の指定が必要です。どちらもメモしておいてください。

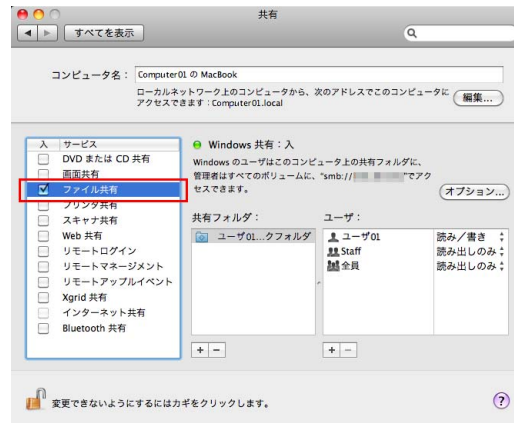


IP アドレスとユーザー名をメモしたら、ウィンドウを閉じます。

5 アップルメニューから [システム環境設定 ...] を選びます。

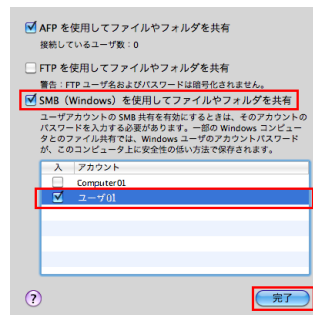
6 [システム環境設定 ...] 画面で [共有] をクリックします。

7 [ファイル共有] にチェックをつけます。



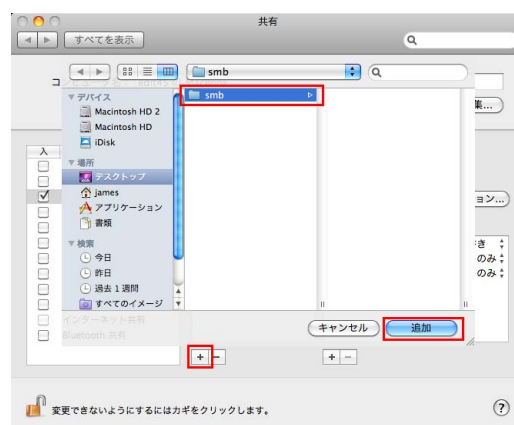
8 [オプション] をクリックして、[SMB(Windows) を使用してファイルやフォルダを共有] にチェックをつけてから、ログインしているユーザー名 (表示名) にチェックをつけます。

→ [認証] 画面が表示されたら、ログインしているユーザーのパスワードを入力して、[OK] をクリックします。



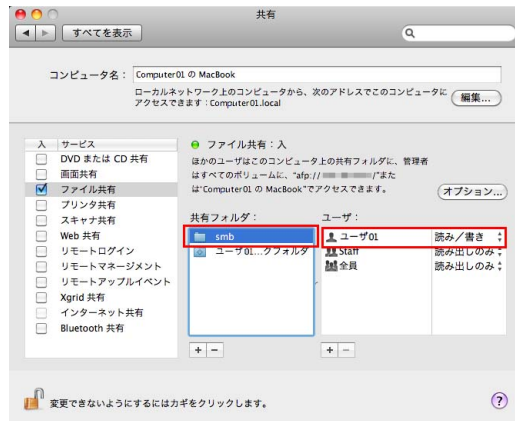
[完了] をクリックして、ウィンドウを閉じます。

9 [+] をクリックして表示されたウィンドウで、作成したフォルダーを選んでから、[追加] をクリックします。



10 作成したフォルダーのユーザー名とアクセス権を確認します。

→ 冒頭でメモしたユーザー名が表示されていて、アクセス権が「読み / 書き」になっていることを確認します。

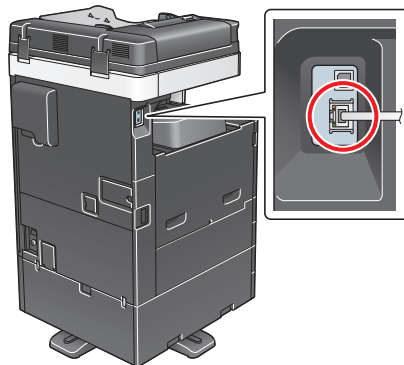


以上で、コンピューター側の設定の完了です。ここでメモした IP アドレス、ユーザー名、フォルダー名は、宛先の指定が必要です。

3.2.3 本機側：お使いになるために必要な作業（管理者向け）

LAN ケーブルの接続を確認する

本機の LAN ポートに、ネットワークに接続された LAN ケーブルが接続されていることを確認します。



ネットワーク設定を確認する

本機に IP アドレスが割り当てられていることを確認します。[設定メニュー] - [装置情報表示] をタップし、IP アドレスが表示されていることを確認します。

参照

IP アドレスが表示されていない場合は、ネットワーク設定が必要です。詳しくは、「ユーザーズガイド [Web 設定ツール] / [お使いになるために必要な作業]」をご覧ください。

SMB 送信の使用環境を設定する

SMB 送信機能を有効にします (通常は、初期設定の状態でお使いいただけます)。

設定のしかたについては、**Web Connection** を使って説明します。詳しくは、「ユーザズガイド [Web 設定ツール] / [スキャン送信の使用環境を設定する]」をごらんください。



Mac OS X 10.7 以降の場合は、次の設定が必要です。

- [SMB 認証設定] を [NTLM v1/v2] に設定します。詳しくは、「ユーザズガイド [Web 設定ツール] / [スキャン送信の使用環境を設定する]」をごらんください。
- ダイレクトホスティング SMB サービスを有効にします (通常は、初期設定の状態でお使いいただけます)。詳しくは、「ユーザズガイド [Web 設定ツール] / [スキャン送信の使用環境を設定する]」をごらんください。
- 本機とコンピューターの日時 (タイムゾーンを含む) を合わせます。本機の日時設定については、「ユーザズガイド [Web 設定ツール] / [本機の基本情報を設定する]」をごらんください。

3.2.4 必要に応じて行う作業

よく送信する宛先を登録する

よく送信するコンピューターやサーバーは、あらかじめ本機に宛先として登録することで、送信のたびに 入力する手間が省けます。

登録のしかたについては詳しくは、12-3 ページをごらんください。

WINS サーバーを使う

ネットワーク上の機器との通信に WINS (Windows Internet Name Service) をお使いの場合は、WINS サーバーを登録します。

登録のしかたについては、**Web Connection** を使って説明します。詳しくは、「ユーザズガイド [Web 設定ツール] / [スキャン送信の使用環境を設定する]」をごらんください。

ダイレクトホスティング SMB サービスを使う

ネットワーク上の機器との通信にダイレクトホスティング SMB サービスをお使いの場合は、ダイレクトホスティング SMB サービスを有効にします (通常は、初期設定の状態でお使いいただけます)。

IP アドレス (IPv4/IPv6) またはホスト名で、通信先を指定できます。IPv6 環境でお使いの場合は、必ず有効にする必要があります。

設定のしかたについては、**Web Connection** を使って説明します。詳しくは、「ユーザズガイド [Web 設定ツール] / [スキャン送信の使用環境を設定する]」をごらんください。

LLMNR を使う

ネットワーク上の機器との通信に LLMNR (Link-local Multicast Name Resolution) をお使いの場合は、LLMNR を有効にします (通常は、初期設定の状態でお使いいただけます)。

LLMNR は、DNS サーバーを持たないローカルネットワーク環境で、ネットワーク上の機器の名前を解決するためのプロトコルです。Windows Vista 以降で対応しています。

設定のしかたについては、**Web Connection** を使って説明します。詳しくは、「ユーザズガイド [Web 設定ツール] / [スキャン送信の使用環境を設定する]」をごらんください。

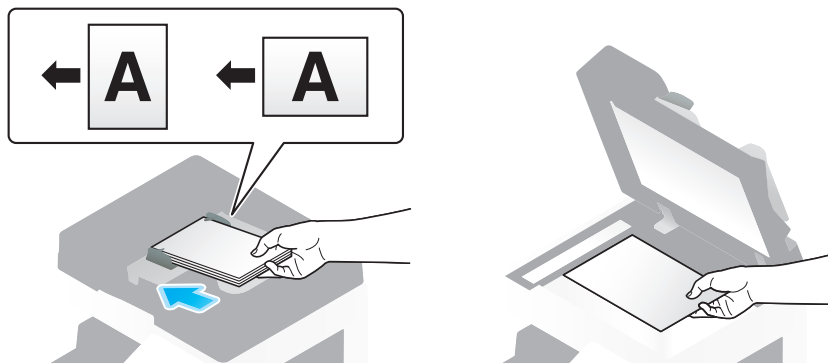
DFS 環境で使う

お使いの環境で DFS (Distributed File System) を導入している場合は、DFS を有効にします (通常は、初期設定の状態でお使いいただけます)。

設定のしかたについては、**Web Connection** を使って説明します。詳しくは、「ユーザズガイド [Web 設定ツール] / [スキャン送信の使用環境を設定する]」をごらんください。

3.3 送信のしかた

- 1 原稿をセットします。



- 2 [ファクス/スキャン] をタップします。



- 3 送信先のコンピューター名やユーザー名、フォルダー名を指定します。

- 宛先の指定のしかたについて詳しくは、1-11 ページをごらんください。
- 複数の宛先を指定することで、コンピューターへの送信、ファクス送信などが同時に実行できます。初期設定では、複数の宛先の指定が禁止されているため設定変更が必要です。詳しくは、「ユーザーズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [設定メニュー]」をごらんください。



- 必要に応じて、ファクス/スキャンモードのトップ画面の表示を変更できます (初期値: [登録宛先から])。詳しくは、「ユーザーズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [設定メニュー]」をごらんください。

- 4 必要に応じて、スキャン送信のオプション設定をします。
→ オプション設定について詳しくは、以下の各項目をごらんください。

目的	参照先
カラーや原稿サイズなどの基本的なオプション設定をしたい	1-15 ページ
サイズの異なる原稿や本など、いろいろな原稿に合わせたオプション設定をしたい	1-17 ページ
新聞紙など、下地に色がついている原稿や、色の薄い原稿などの画質を調整したい	1-21 ページ
日時やページ番号を振りたい	1-22 ページ
その他のオプション設定	1-24 ページ

- 5 スタートを押します。
→ 必要に応じて、送信前に〔設定確認〕をタップし、指定した宛先や設定内容を確認します。
→ 宛先の指定や、オプション設定をやり直したいときは、リセットを押します。



送信が開始されます。

- 原稿の読み込み中にストップを押すと、読み込みを停止し、停止中のジョブの一覧を表示します。原稿の読み込みを中止したいときは、一覧から停止中のジョブを削除します。

参照

プレビュー機能を使うと、仕上り状態を確認してから送信できます。送信のしかたについて詳しくは、1-5 ページをごらんください。

よく送信する宛先は、ファクス/スキャンプログラムに登録すると便利です。プログラムについて詳しくは、1-7 ページをごらんください。

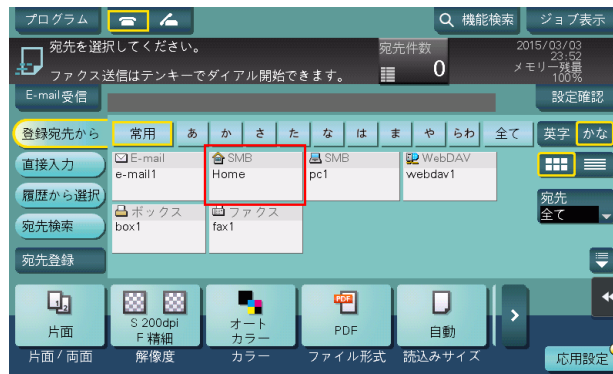
3.4 応用機能の紹介

3.4.1 自分のコンピューターに送信する (Scan to Home)

Scan to Home について

本機でユーザー認証を導入し、認証サーバーとして Active Directory をお使いの場合、本機にログインすると、[登録宛先から] 画面に [Home] キーを表示します。

読込んだ原稿データを、サーバー上の共有フォルダーや自分のコンピューターの共有フォルダーに送信したいときは、[Home] キーを選ぶと送信できます。



お使いになるために必要な作業 (管理者向け)

Scan to Home 機能を有効にします。

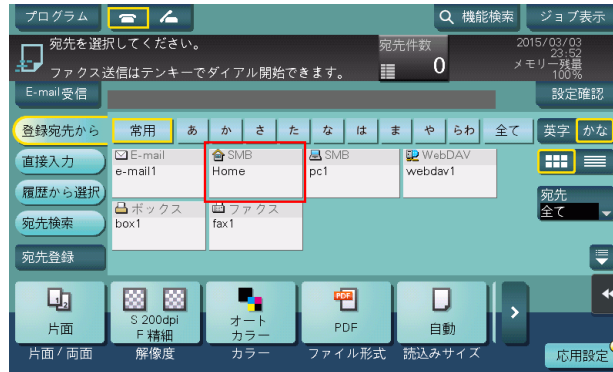
設定のしかたについては、Web Connection を使って説明します。詳しくは、「ユーザーズガイド [Web 設定ツール] / [本機を使えるユーザーを制限する]」をごらんください。

操作の流れ

- 1 原稿をセットします。
- 2 ユーザー情報を入力して、ログインします。
→ ログインのしかたについて詳しくは、「ユーザーズガイド [操作パネルについて] / [ログイン画面について]」をごらんください。
- 3 [ファクス/スキャン] をタップします。



4 [Home] を選びます。



5 必要に応じて、スキャン送信のオプション設定をします。

6 スタートを押します。

- 必要に応じて、送信前に「設定確認」をタップし、指定した宛先や設定内容を確認します。
- 宛先の指定や、オプション設定をやり直したいときは、リセットを押します。



送信が開始されます。

- 原稿の読み込み中にストップを押すと、読み込みを停止し、停止中のジョブの一覧を表示します。原稿の読み込みを中止したいときは、一覧から停止中のジョブを削除します。

3.4.2 原稿データの保存先を E-mail で知らせる (URL 通知)

URL 通知について

スキャン送信またはボックス保存の終了後に、原稿データの保存先を記載した E-mail を、指定のメールアドレスに送信します。

プロジェクトメンバー間で、共有フォルダーや FTP サーバー、WebDAV サーバーなどをファイルの受渡しに使っているときなど、お知らせメールの宛先にメーリングリスト用のメールアドレスを指定することで、情報共有がしやすくなります。

 参考

- 保存先のお知らせができるスキャン送信機能は、SMB 送信、FTP 送信、WebDAV 送信、ボックス保存に限ります。

お使いになるために必要な作業 (管理者向け)

E-mail 環境を準備します。

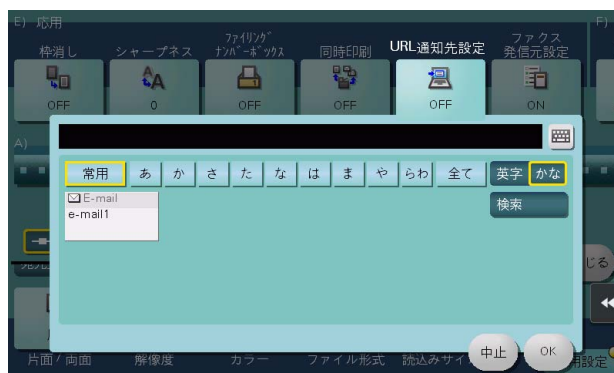
設定のしかたについては、Web Connection を使って説明します。詳しくは、「ユーザーズガイド [Web 設定ツール] / [スキャン送信の使用環境を設定する]」をご覧ください。

操作の流れ

- 1 原稿をセットします。
- 2 [ファクス/スキャン] をタップします。



- 3 送信先のコンピューターを指定します。
- 4 [応用設定] - [応用] - [URL 通知先設定] で、保存先をお知らせするメールアドレスを直接入力して指定するか、または短縮宛先 (E-mail 宛先) の中から選んで指定します。
 - 通知できる宛先 (メールアドレス) は 1 件だけなので、メーリングリストを運用している場合は、メーリングリスト用のメールアドレスを宛先として登録すると便利です。



- 5 スタートを押します。
 - 必要に応じて、送信前に「設定確認」をタップし、指定した宛先や設定内容を確認します。
 - 宛先の指定や、オプション設定をやり直したいときは、リセットを押します。



送信が開始されます。

- 原稿の読み込み中にストップを押すと、読み込みを停止し、停止中のジョブの一覧を表示します。原稿の読み込みを中止したいときは、一覧から停止中のジョブを削除します。

3.4.3 Active Directory のシングルサインオン環境で送信する

シングルサインオンについて

Active Directory の外部サーバー認証で本機にログインすれば、SMB 送信を行うとき、再度認証情報（ユーザー ID とパスワード）を入力しなくても共有フォルダーへ送信できます。

お使いになるために必要な作業（管理者向け）

シングルサインオン設定を有効にします。

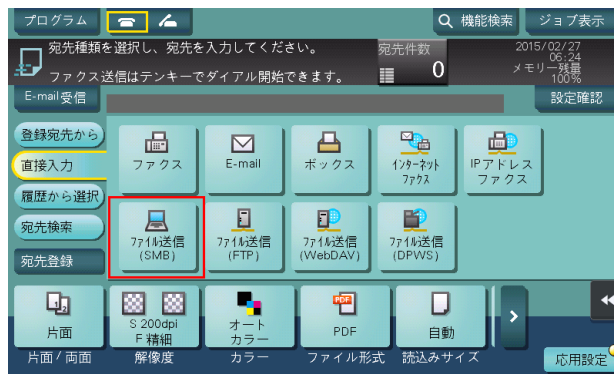
設定のしかたについては、Web Connection を使って説明します。詳しくは、「ユーザーズガイド [Web 設定ツール] / [本機を使えるユーザーを制限する]」をごらんください。

操作の流れ

- 1 原稿をセットします。
- 2 「ファクス / スキャン」をタップします。



- 3 [直接入力] をタップし、[ファイル送信 (SMB)] をタップします。



- 4 送信先のホスト名とファイルパスを直接入力するか、[参照] をタップして送信先の共有フォルダーを指定し、[OK] をタップします。



- 5 必要に応じて、スキャン送信のオプション設定をします。
- 6 スタートを押します。
- 必要に応じて、送信前に[設定確認]をタップし、指定した宛先や設定内容を確認します。
 - 宛先の指定や、オプション設定をやり直したいときは、リセットを押します。



送信が開始されます。

- 原稿の読み込み中にストップを押すと、読み込みを停止し、停止中のジョブの一覧を表示します。原稿の読み込みを中止したいときは、一覧から停止中のジョブを削除します。

4

FTP サーバーに送信する (FTP
送信)

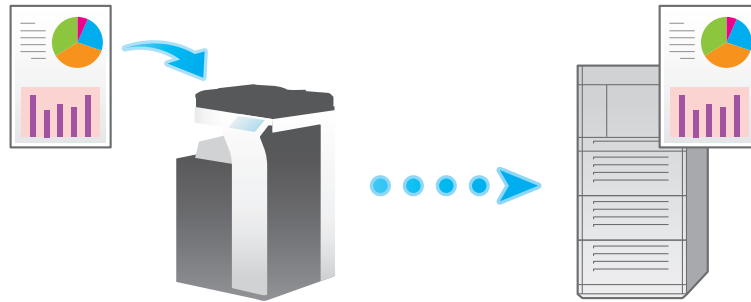
4 FTP サーバーに送信する (FTP 送信)

4.1 FTP 送信機能について

FTP 送信は、本機で読込んだ原稿データを、コンピューターで扱えるファイルに変換して、FTP サーバーにアップロードする機能です。

普段から、FTP サーバーを通じてファイルの受渡しをしている場合に便利です。

FTP サーバーにアップロードしたファイルは、コンピューターからダウンロードできます。



4.2 FTP 送信の準備 (管理者向け)

4.2.1 準備の流れ

本機をネットワークに接続する

- LAN ケーブルの接続を確認する
- ネットワーク設定を確認する
 - 本機に IP アドレスが割当てられていることを確認します。



FTP 送信の使用環境を準備する

- FTP 送信機能を有効にする
 - 通常は、初期設定の状態でお使いいただけます。



お使いの環境に合わせて設定する

- よく送信する宛先を登録する
 - 送信のたびに宛先入力する手間を省けます。
- プロキシサーバーを使う
 - お使いのネットワーク環境でプロキシサーバーを経由する場合に設定します。

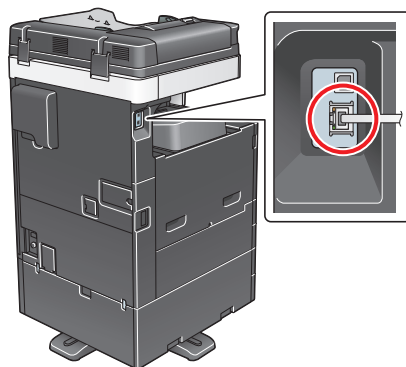


準備完了

4.2.2 お使いになるために必要な作業

LAN ケーブルの接続を確認する

本機の LAN ポートに、ネットワークに接続された LAN ケーブルが接続されていることを確認します。



ネットワーク設定を確認する

本機に IP アドレスが割当てられていることを確認します。[設定メニュー] - [装置情報表示] をタップし、IP アドレスが表示されていることを確認します。



IP アドレスが表示されていない場合は、ネットワーク設定が必要です。詳しくは、「ユーザーズガイド [Web 設定ツール] / [お使いになるために必要な作業]」をごらんください。

FTP 送信の使用環境を確認する

FTP 送信機能を有効にします (通常は、初期設定の状態でお使いいただけます)。

設定のしかたについては、**Web Connection** を使って説明します。詳しくは、「ユーザズガイド [Web 設定ツール] / [スキャン送信の使用環境を設定する]」をごらんください。

4.2.3 必要に応じて行う作業

よく送信する宛先を登録する

よく送信する FTP サーバーは、あらかじめ本機に宛先として登録することで、送信のたびに入力する手間が省けます。

登録のしかたについて詳しくは、12-5 ページをごらんください。

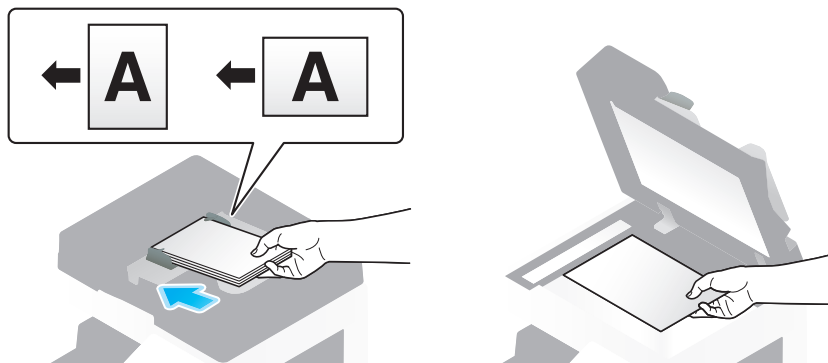
プロキシサーバーを使う

お使いのネットワーク環境でプロキシサーバーを経由する場合は、プロキシサーバーを登録します。

登録のしかたについては、**Web Connection** を使って説明します。詳しくは、「ユーザズガイド [Web 設定ツール] / [スキャン送信の使用環境を設定する]」をごらんください。

4.3 送信のしかた

- 1 原稿をセットします。



- 2 [ファクス/スキャン] をタップします。



- 3 送信先のFTPサーバーを指定します。

- 宛先の指定のしかたについて詳しくは、1-11 ページをごらんください。
- 複数の宛先を指定することで、FTPサーバーへの送信、ファクス送信などが同時に実行できます。初期設定では、複数の宛先の指定が禁止されているため設定変更が必要です。詳しくは、「ユーザーズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [設定メニュー]」をごらんください。



- 必要に応じて、ファクス/スキャンモードのトップ画面の表示を変更できます（初期値：[登録宛先から]）。詳しくは、「ユーザーズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [設定メニュー]」をごらんください。

- 4 必要に応じて、スキャン送信のオプション設定をします。
 → オプション設定について詳しくは、以下の各項目をごらんください。

目的	参照先
カラーや原稿サイズなどの基本的なオプション設定をしたい	1-15 ページ
サイズの異なる原稿や本など、いろいろな原稿に合わせたオプション設定をしたい	1-17 ページ
新聞紙など、下地に色がついている原稿や、色の薄い原稿などの画質を調整したい	1-21 ページ
日時やページ番号を振りたい	1-22 ページ
その他のオプション設定	1-24 ページ

- 5 スタートを押します。
 → 必要に応じて、送信前に〔設定確認〕をタップし、指定した宛先や設定内容を確認します。
 → 宛先の指定や、オプション設定をやり直したいときは、リセットを押します。



送信が開始されます。

- 原稿の読み込み中にストップを押すと、読み込みを停止し、停止中のジョブの一覧を表示します。原稿の読み込みを中止したいときは、一覧から停止中のジョブを削除します。

参照

プレビュー機能を使うと、仕上り状態を確認してから送信できます。送信のしかたについて詳しくは、1-5 ページをごらんください。

よく送信する宛先は、ファクス/スキャンプログラムに登録すると便利です。プログラムについて詳しくは、1-7 ページをごらんください。

4.4 応用機能の紹介

4.4.1 原稿データの保存先を E-mail で知らせる (URL 通知)

URL 通知について

スキャン送信またはボックス保存の終了後に、原稿データの保存先を記載した E-mail を、指定のメールアドレスに送信します。

プロジェクトメンバー間で、共有フォルダーや FTP サーバー、WebDAV サーバーなどをファイルの受渡しに使っているときなど、お知らせメールの宛先にメーリングリスト用のメールアドレスを指定することで、情報共有がしやすくなります。



参考

- 保存先のお知らせができるスキャン送信機能は、SMB 送信、FTP 送信、WebDAV 送信、ボックス保存に限ります。

お使いになるために必要な作業 (管理者向け)

E-mail 環境を準備します。

設定のしかたについては、**Web Connection** を使って説明します。詳しくは、「ユーザーズガイド [Web 設定ツール] / [スキャン送信の使用環境を設定する]」をごらんください。

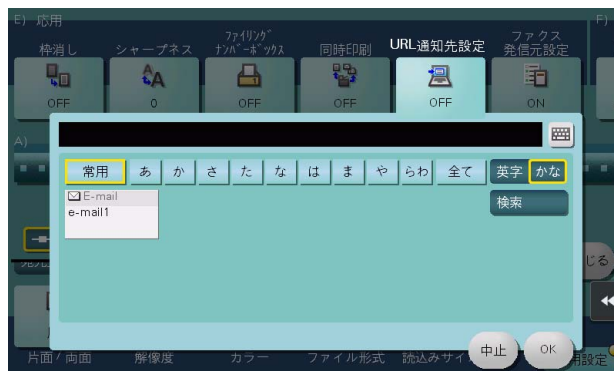
操作の流れ

- 1 原稿をセットします。
- 2 [ファクス/スキャン] をタップします。



- 3 送信先の FTP サーバーを指定します。

- 4 [応用設定] - [応用] - [URL 通知先設定] で、保存先をお知らせするメールアドレスを直接入力して指定するか、または短縮宛先 (E-mail 宛先) の中から選んで指定します。
- 通知できる宛先 (メールアドレス) は 1 件だけなので、メーリングリストを運用している場合は、メーリングリスト用のメールアドレスを宛先として登録すると便利です。



- 5 スタートを押します。
- 必要に応じて、送信前に [設定確認] をタップし、指定した宛先や設定内容を確認します。
 - 宛先の指定や、オプション設定をやり直したいときは、リセットを押します。



送信が開始されます。

- 原稿の読み込み中にストップを押すと、読み込みを停止し、停止中のジョブの一覧を表示します。原稿の読み込みを中止したいときは、一覧から停止中のジョブを削除します。

5

WebDAV サーバーに送信する
(WebDAV 送信)

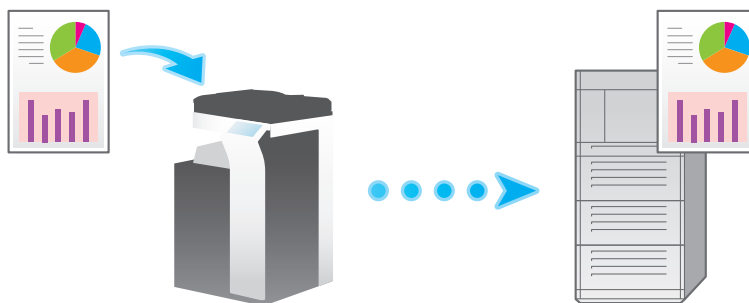
5 WebDAV サーバーに送信する (WebDAV 送信)

5.1 WebDAV 送信機能について

WebDAV 送信は、本機で読込んだ原稿データを、コンピューターで扱えるファイルに変換して、WebDAV サーバーにアップロードする機能です。

普段から、WebDAV サーバーを通じてファイルの受渡しをしている場合に便利です。

WebDAV サーバーにアップロードしたファイルは、コンピューターからダウンロードできます。



5.2 WebDAV 送信の準備 (管理者向け)

5.2.1 準備の流れ

本機をネットワークに接続する

- LAN ケーブルの接続を確認する
 - ネットワーク設定を確認する
 - 本機に IP アドレスが割当てられていることを確認します。
-



WebDAV 送信の使用環境を準備する

- WebDAV 送信機能を有効にする
 - 通常は、初期設定の状態でお使いいただけます。
-



お使いの環境に合わせて設定する

- よく送信する宛先を登録する
 - 送信のたびに宛先入力する手間を省けます。
 - プロキシサーバーを使う
 - お使いのネットワーク環境でプロキシサーバーを経由する場合に設定します。
 - SSL で通信する
 - お使いの環境で WebDAV サーバーとの通信を SSL で暗号化している場合に設定します。
-

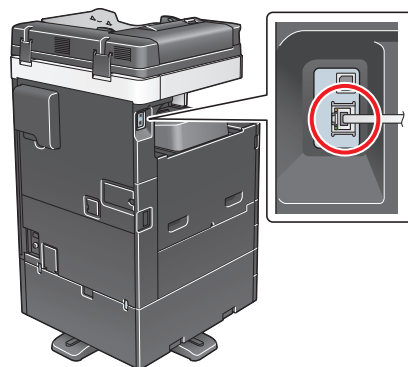


準備完了

5.2.2 お使いになるために必要な作業

LAN ケーブルの接続を確認する

本機の LAN ポートに、ネットワークに接続された LAN ケーブルが接続されていることを確認します。



ネットワーク設定を確認する

本機に IP アドレスが割当てられていることを確認します。[設定メニュー] - [装置情報表示] をタップし、IP アドレスが表示されていることを確認します。



参照

IP アドレスが表示されていない場合は、ネットワーク設定が必要です。詳しくは、「ユーザーズガイド [Web 設定ツール] / [お使いになるために必要な作業]」をごらんください。

WebDAV 送信の使用環境を確認する

WebDAV 送信機能を有効にします (通常は、初期設定の状態でお使いいただけます)。

設定のしかたについては、**Web Connection** を使って説明します。詳しくは、「ユーザズガイド [Web 設定ツール] / [スキャン送信の使用環境を設定する]」をごらんください。

5.2.3 必要に応じて行う作業

よく送信する宛先を登録する

よく送信する WebDAV サーバーは、あらかじめ本機に宛先として登録することで、送信のたびに入力する手間が省けます。

登録のしかたについて詳しくは、12-6 ページをごらんください。

プロキシサーバーを使う

お使いのネットワーク環境でプロキシサーバーを経由する場合は、プロキシサーバーを登録します。

登録のしかたについては、**Web Connection** を使って説明します。詳しくは、「ユーザズガイド [Web 設定ツール] / [スキャン送信の使用環境を設定する]」をごらんください。

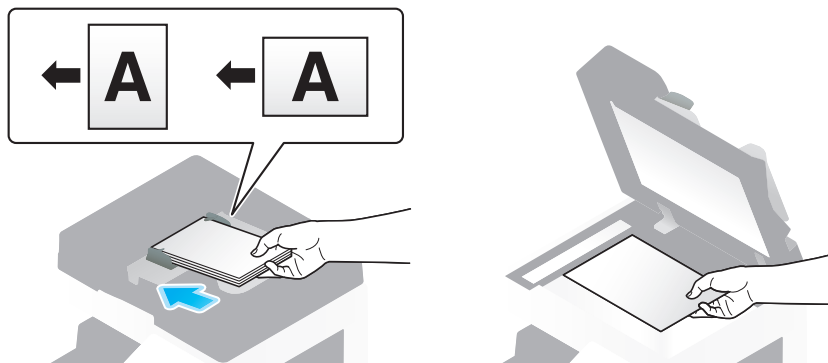
SSL で通信する

お使いの環境で WebDAV サーバーとの通信を SSL で暗号化している場合は、SSL 通信の設定をします。

設定のしかたについては、**Web Connection** を使って説明します。詳しくは、「ユーザズガイド [Web 設定ツール] / [スキャン送信の使用環境を設定する]」をごらんください。

5.3 送信のしかた

1 原稿をセットします。



2 [ファクス/スキャン] をタップします。



3 送信先の WebDAV サーバーを指定します。

- 宛先の指定のしかたについて詳しくは、1-11 ページをごらんください。
- 複数の宛先を指定することで、WebDAV サーバーへの送信、ファクス送信などが同時に実行できます。初期設定では、複数の宛先の指定が禁止されているため設定変更が必要です。詳しくは、「ユーザズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [設定メニュー]」をごらんください。



- 必要に応じて、ファクス/スキャンモードのトップ画面の表示を変更できます（初期値：[登録宛先から]）。詳しくは、「ユーザズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [設定メニュー]」をごらんください。

- 4 必要に応じて、スキャン送信のオプション設定をします。
 → オプション設定について詳しくは、以下の各項目をごらんください。

目的	参照先
カラーや原稿サイズなどの基本的なオプション設定をしたい	1-15 ページ
サイズの異なる原稿や本など、いろいろな原稿に合わせたオプション設定をしたい	1-17 ページ
新聞紙など、下地に色がついている原稿や、色の薄い原稿などの画質を調整したい	1-21 ページ
日時やページ番号を振りたい	1-22 ページ
その他のオプション設定	1-24 ページ

- 5 スタートを押します。
 → 必要に応じて、送信前に〔設定確認〕をタップし、指定した宛先や設定内容を確認します。
 → 宛先の指定や、オプション設定をやり直したいときは、リセットを押します。



送信が開始されます。

- 原稿の読み込み中にストップを押すと、読み込みを停止し、停止中のジョブの一覧を表示します。原稿の読み込みを中止したいときは、一覧から停止中のジョブを削除します。

参照

プレビュー機能を使うと、仕上り状態を確認してから送信できます。送信のしかたについて詳しくは、1-5 ページをごらんください。

よく送信する宛先は、ファクス/スキャンプログラムに登録すると便利です。プログラムについて詳しくは、1-7 ページをごらんください。

5.4 応用機能の紹介

5.4.1 原稿データの保存先を E-mail で知らせる (URL 通知)

URL 通知について

スキャン送信またはボックス保存の終了後に、原稿データの保存先を記載した E-mail を、指定のメールアドレスに送信します。

プロジェクトメンバー間で、共有フォルダーや FTP サーバー、WebDAV サーバーなどをファイルの受渡しに使っているときなど、お知らせメールの宛先にメーリングリスト用のメールアドレスを指定することで、情報共有がしやすくなります。



参考

- 保存先のお知らせができるスキャン送信機能は、SMB 送信、FTP 送信、WebDAV 送信、ボックス保存に限ります。

お使いになるために必要な作業 (管理者向け)

E-mail 環境を準備します。

設定のしかたについては、**Web Connection** を使って説明します。詳しくは、「ユーザーズガイド [Web 設定ツール] / [スキャン送信の使用環境を設定する]」をごらんください。

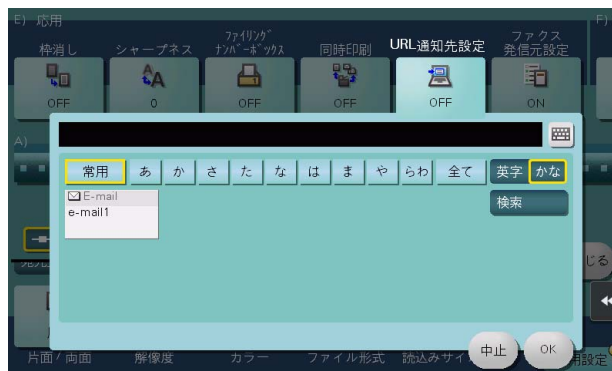
操作の流れ

- 1 原稿をセットします。
- 2 [ファクス/スキャン] をタップします。



- 3 送信先の WebDAV サーバーを指定します。

- 4 [応用設定] - [応用] - [URL 通知先設定] で、保存先をお知らせするメールアドレスを直接入力して指定するか、または短縮宛先 (E-mail 宛先) の中から選んで指定します。
- 通知できる宛先 (メールアドレス) は 1 件だけなので、メーリングリストを運用している場合は、メーリングリスト用のメールアドレスを宛先として登録すると便利です。



- 5 スタートを押します。
- 必要に応じて、送信前に [設定確認] をタップし、指定した宛先や設定内容を確認します。
 - 宛先の指定や、オプション設定をやり直したいときは、リセットを押します。



送信が開始されます。

- 原稿の読み込み中にストップを押すと、読み込みを停止し、停止中のジョブの一覧を表示します。原稿の読み込みを中止したいときは、一覧から停止中のジョブを削除します。

6

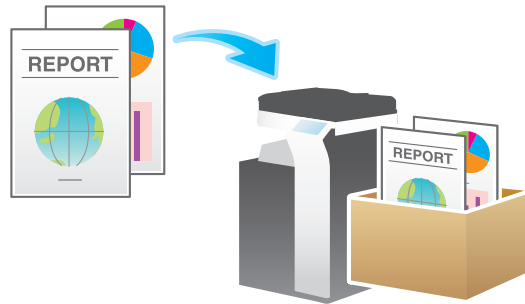
本機のボックスに保存する
(ボックス保存)

6 本機のボックスに保存する（ボックス保存）

6.1 ボックス保存機能について

ボックス保存は、本機で読込んだ原稿データを、本機のボックスに保存する機能です。

ボックスに保存した原稿データは、本機のタッチパネルやコンピューターからの操作で、いつでも印刷や送信ができます。



6.2 ボックス保存の準備

お使いになるために必要な作業

読込んだ原稿データを保存するボックスを登録します。

登録のしかたについて詳しくは、「ユーザーズガイド [ボックス機能] / [文書を複合機にファイルで保存、利用する]」をごらんください。

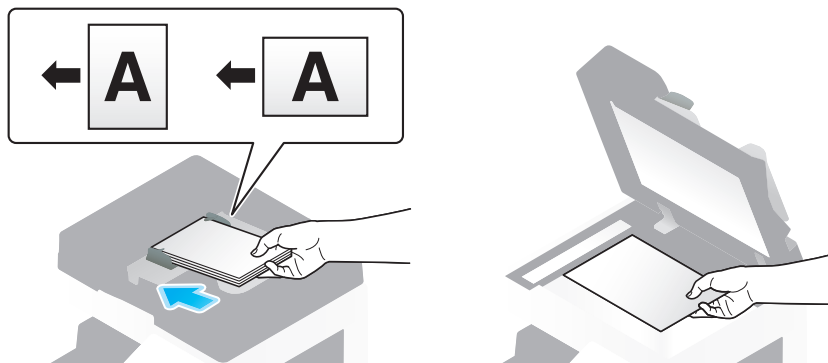
必要に応じて行う作業

よく保存するボックスは、あらかじめ本機に宛先として登録することで、保存のたびに入力する手間が省けます。

登録のしかたについて詳しくは、12-8 ページをごらんください。

6.3 保存のしかた

1 原稿をセットします。

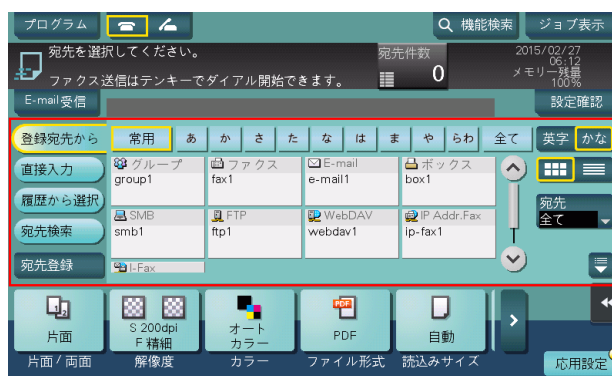


2 [ファクス/スキャン] をタップします。



3 保存するボックスを指定します。

- 宛先の指定のしかたについて詳しくは、1-11 ページをごらんください。
- 複数の宛先を指定することで、ボックスへの保存、ファクス送信などが同時に実行できます。初期設定では、複数の宛先の指定が禁止されているため設定変更が必要です。詳しくは、「ユーザーズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [設定メニュー]」をごらんください。



- 必要に応じて、ファクス/スキャンモードのトップ画面の表示を変更できます (初期値: [登録宛先から])。詳しくは、「ユーザーズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [設定メニュー]」をごらんください。

- 4 必要に応じて、ボックス保存のオプション設定をします。
 → オプション設定について詳しくは、以下の各項目をごらんください。

目的	参照先
カラーや原稿サイズなどの基本的なオプション設定をしたい	1-15 ページ
サイズの異なる原稿や本など、いろいろな原稿に合わせたオプション設定をしたい	1-17 ページ
新聞紙など、下地に色がついている原稿や、色の薄い原稿などの画質を調整したい	1-21 ページ
日時やページ番号を振りたい	1-22 ページ
その他のオプション設定	1-24 ページ

- 5 スタートを押します。
 → 必要に応じて、保存前に〔設定確認〕をタップし、指定した宛先や設定内容を確認します。
 → 宛先の指定や、オプション設定をやり直したいときは、リセットを押します。



保存が開始されます。

- 原稿の読み込み中にストップを押すと、読み込みを停止し、停止中のジョブの一覧を表示します。原稿の読み込みを中止したいときは、一覧から停止中のジョブを削除します。

参照

プレビュー機能を使うと、仕上り状態を確認してから送信できます。送信のしかたについて詳しくは、1-5 ページをごらんください。

よく保存する宛先は、ファクス/スキャンプログラムに登録すると便利です。プログラムについて詳しくは、1-7 ページをごらんください。

6.4 応用機能の紹介

6.4.1 ボックスに保存したファイルを活用する

操作パネルからボックスを操作する

ボックスに保存したファイルは、印刷はもちろん、他のスキャン送信のように、ボックスから E-mail に添付して送信したり、コンピューターの共有フォルダーへ送信したりできます。

- ボックスに保存したファイルの印刷のしかたについて詳しくは、「ユーザーズガイド [ボックス機能] / [文書を複合機にファイルで保存、利用する]」をごらんください。
- ボックスに保存したファイルの送信のしかたについて詳しくは、「ユーザーズガイド [ボックス機能] / [文書を複合機にファイルで保存、利用する]」をごらんください。

Web Connection からボックスを操作する

コンピューターから Web Connection を使って、ボックスを操作できます。ボックス内のファイルをサムネイル画像で確認しながら、印刷やコンピューターへのダウンロードなどができます。

詳しくは、「ユーザーズガイド [ボックス機能] / [文書を複合機にファイルで保存、利用する]」をごらんください。

Box Operator からボックスを操作する

Box Operator は、ボックスに保存したファイルを Windows コンピューターからアクセスするためのアプリケーションソフトウェアです。

ファイルの内容をサムネイル画像で確認でき、印刷、削除、コンピューターへコピーなどの操作ができます。

Box Operator をお使いになるには、Driver & Utilities CD-ROM Vol.1 または Driver & Utilities CD-ROM Vol.2 のメニューの [各種ユーティリティ] からユーティリティソフトウェアのダウンロードページを表示し、ダウンロードしてください。インストール方法や使い方について詳しくは、Box Operator のマニュアルをごらんください。

6.4.2 原稿データの保存先を E-mail で知らせる (URL 通知)

URL 通知について

スキャン送信またはボックス保存の終了後に、原稿データの保存先を記載した E-mail を、指定のメールアドレスに送信します。E-mail の本文には、URL が記載されています。この URL をクリックすると、Web Connection を通じてボックスにアクセスします。ボックス保存したファイルは、表示したボックスからダウンロードできます。

プロジェクトメンバー間で、共有フォルダーや FTP サーバー、WebDAV サーバーなどをファイルの受渡しに使っているときなど、お知らせメールの宛先にメーリングリスト用のメールアドレスを指定することで、情報共有がしやすくなります。



参考

- 保存先のお知らせができるスキャン送信機能は、SMB 送信、FTP 送信、WebDAV 送信、ボックス保存に限ります。

お使いになるために必要な作業 (管理者向け)

E-mail 環境を準備します。

設定のしかたについては、Web Connection を使って説明します。詳しくは、「ユーザーズガイド [Web 設定ツール] / [スキャン送信の使用環境を設定する]」をごらんください。

操作の流れ

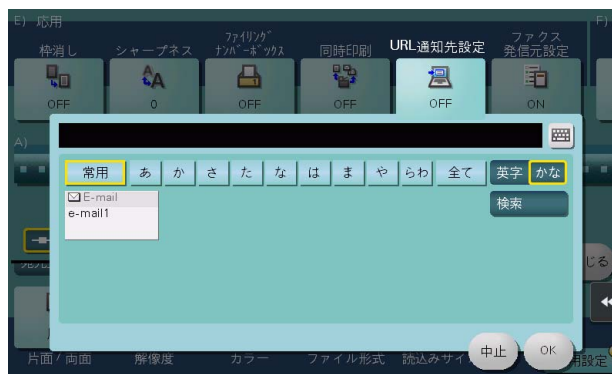
- 1 原稿をセットします。

- 2 [ファクス/スキャン] をタップします。



- 3 保存先のボックスを指定します。

- 4 [応用設定] - [応用] - [URL 通知先設定] で、保存先をお知らせするメールアドレスを直接入力して指定するか、または短縮宛先 (E-mail 宛先) の中から選んで指定します。
- 通知できる宛先 (メールアドレス) は 1 件だけなので、メーリングリストを運用している場合は、メーリングリスト用のメールアドレスを宛先として登録すると便利です。



- 5 スタートを押します。

- 必要に応じて、保存前に [設定確認] をタップし、指定した宛先や設定内容を確認します。
- 宛先の指定や、オプション設定をやり直したいときは、リセットを押します。



保存が開始されます。

- 原稿の読み込み中にストップを押すと、読みみを停止し、停止中のジョブの一覧を表示します。原稿の読み込みを中止したいときは、一覧から停止中のジョブを削除します。

7

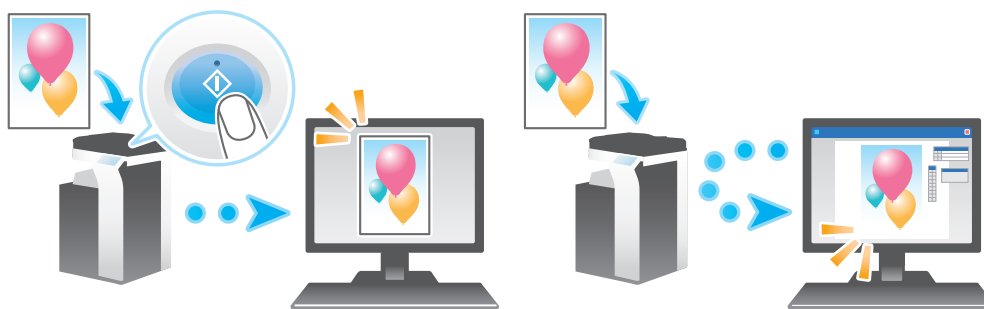
Web サービスで送信する (WS
スキャン)

7 Web サービスで送信する (WS スキャン)

7.1 WS スキャン機能について

WS スキャンは、面倒な環境設定をすることなく、コンピューターからスキャンの指示をして原稿データを取込んだり、本機でスキャンした原稿データをコンピューターに送信したりできます。

Windows Vista 以降 (Windows Vista/7/8.1/10/Server 2008/Server 2008 R2/Server 2012/Server 2012 R2) のコンピューターで対応しています。



7.2 WS スキャンの準備

7.2.1 準備の流れ

本機をネットワークに接続する

- LAN ケーブルの接続を確認する
 - ネットワーク設定を確認する
 - 本機に IP アドレスが割当てられていることを確認します。
-



WS スキャン送信の使用環境を準備する

- Web サービス機能を有効にする
 - Web サービス機能の設定とスキャナー名を確認します。
-



コンピューターの使用環境を準備する

- スキャナードライバーをインストールする
 - Web サービスで使うスキャナードライバーをインストールします。
-



お使いの環境に合わせて設定する

- SSL で通信する
 - お使いの環境で Web サービスを使った通信を SSL で暗号化している場合に設定します。
 - プロキシサーバーを使う
 - Web サービスを使った通信にプロキシサーバーをお使いの場合に設定します。
-

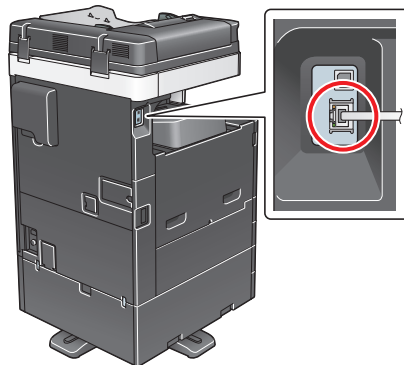


準備完了

7.2.2 本機側：お使いになるために必要な作業（管理者向け）

LAN ケーブルの接続を確認する

本機の LAN ポートに、ネットワークに接続された LAN ケーブルが接続されていることを確認します。



ネットワークの設定を確認する

本機に IP アドレスが割当てられていることを確認します。[設定メニュー] - [装置情報表示] をタップし、IP アドレスが表示されていることを確認します。



参照

IP アドレスが表示されていない場合は、ネットワーク設定が必要です。詳しくは、「ユーザーズガイド [Web 設定ツール] / [お使いになるために必要な作業]」をごらんください。

WS スキャン送信の使用環境を設定する

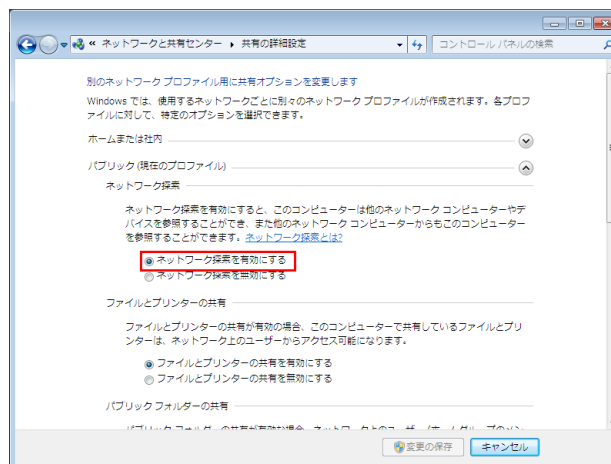
Web サービスによるスキャンを有効にします。あわせて、Web サービスを使って本機を検出するための設定や、スキャナーとしての本機の情報、本機との接続方法などを設定します。

設定のしかたについては、Web Connection を使って説明します。詳しくは、「ユーザーズガイド [Web 設定ツール] / [スキャン送信の使用環境を設定する]」をごらんください。

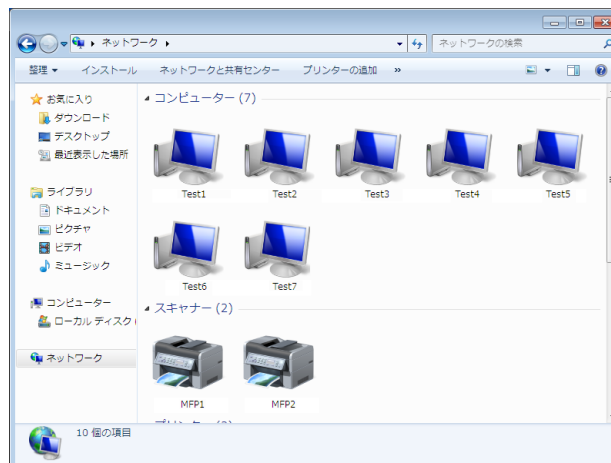
7.2.3 コンピューター側：お使いになるために必要な作業

コンピューターに、WS スキャンで使うスキャナードライバーをインストールします。インストール後、ドライバーに、スキャン送信後の動作を設定します。ここでは、Windows 7 を例に説明します。

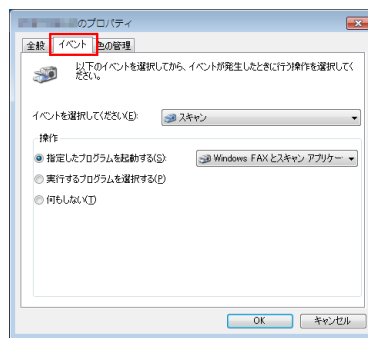
インストールの前に、スタートメニューから [コントロールパネル] - [ネットワークとインターネット] - [ネットワークと共有センター] - [共有の詳細設定の変更] で、[ネットワーク探索] が有効に設定されていることを確認してください。



- 1 スタートメニューから [コンピューター] - [ネットワーク] をクリックします。ネットワークに接続されている機器が表示されます。



- 2 本機のスキャナーアイコンを右クリックして、[インストール] を選びます。
 - コンピューター側の設定によっては、UAC(User Account Control) 画面が表示されることがあります。内容を確認し、続行してください。
 - 本機の Web サービスの設定で、スキャン機能とプリンター機能の両方が有効になっている場合、本機はプリンターアイコンで表示されます。
 - Windows 8.1/10/Server 2012/Server 2012 R2 の場合は、ツールバーから [ネットワーク] - [デバイスとプリンターの追加] をクリックします。表示された画面で、本機のデバイス名を選び、[次へ] をクリックします。
 ドライバーが自動的にインストールされます。確認画面が表示されたら [閉じる] をクリックします。
- 3 スタートメニューから [デバイスとプリンター] をクリックします。
- 4 本機のアイコンを右クリックして、[スキャン プロパティ] をクリックします。
- 5 [イベント] タブをクリックして、スキャン送信 (WS スキャン) したときの、送信先のコンピューターの動作 (原稿データの保存のしかた) を設定します。



設定	説明
[イベントを選択してください]	[スキャン] を選びます。
[操作]	<p>本機でスキャン送信したときの、送信先のコンピューターの動作を選びます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ [指定したプログラムを起動する]：WS スキャンの宛先に選んだコンピューターにインストールされている、WS スキャンができるアプリケーションソフトウェアを起動して、読み込んだ原稿データをアプリケーションウィンドウに表示します。起動するアプリケーションは、リストから選びます。 ・ [実行するプログラムを選択する]：お使いのコンピューター (送信先のコンピューター) にインストールされている WS スキャンができるアプリケーションソフトウェアの一覧を、スキャン送信したコンピューターの画面に表示します。 ・ [何もしない]：アプリケーションソフトウェアを起動せず、以下のフォルダーにファイルとして保存します。 コンピューターのスタートメニュー - [ドキュメント] - [Scanned Documents]

- 6 本機の操作パネルで、ファクス/スキャンモードの [直接入力] - [ファイル送信 (DPWS)] をタップし、送信したいコンピューターが表示されることを確認します。
- 以上で、コンピューター側の設定の完了です。

7.2.4 本機側：必要に応じて行う作業（管理者向け）

SSL で通信する

お使いの環境で Web サービスを使った通信を SSL で暗号化している場合は、SSL 通信の設定をします。設定のしかたについては、**Web Connection** を使って説明します。詳しくは、「ユーザーズガイド [Web 設定ツール] / [スキャン送信の使用環境を設定する]」をごらんください。



- Windows 8.1/10 の場合は、Web サービスを使った通信を SSL で暗号化することはできません。

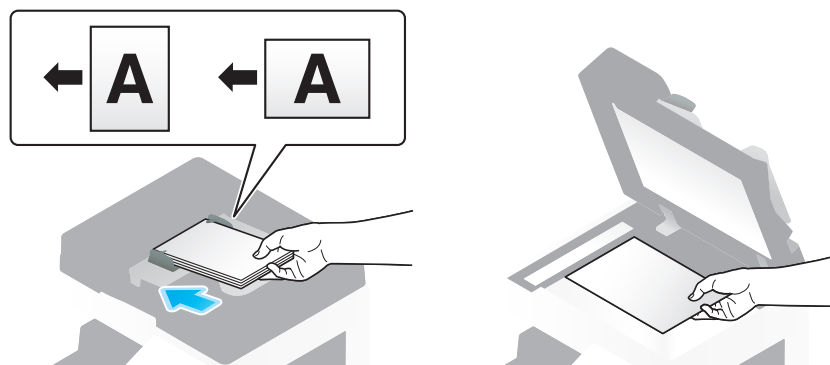
プロキシサーバーを使用する

サブネットを越えたコンピューターで WS スキャン機能を利用するために、ディスカバリプロキシサーバーを導入している場合は、ディスカバリプロキシサーバーを登録します。

登録のしかたについては、**Web Connection** を使って説明します。詳しくは、「ユーザーズガイド [Web 設定ツール] / [スキャン送信の使用環境を設定する]」をごらんください。

7.3 スキャン送信のしかた

1 原稿をセットします。



2 [ファクス/スキャン] をタップします。

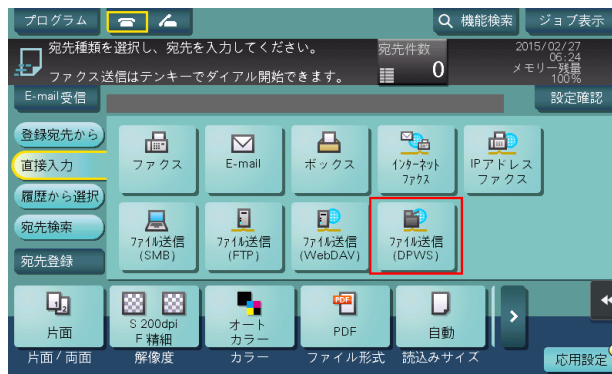


3 必要に応じて、スキャン送信のオプション設定をします。

→ オプション設定について詳しくは、以下の各項目をごらんください。

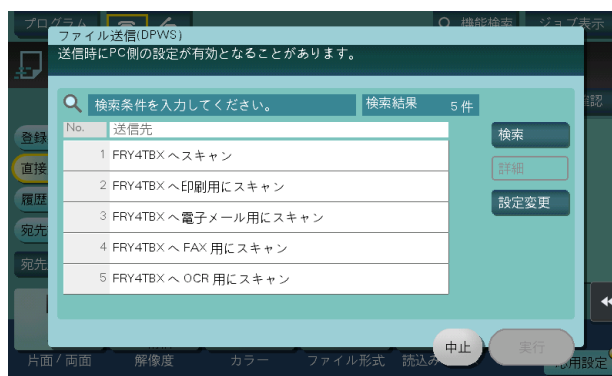
目的	参照先
カラーや原稿サイズなどの基本的なオプション設定をしたい	1-15 ページ
サイズの異なる原稿や本など、いろいろな原稿に合わせたオプション設定をしたい	1-17 ページ
新聞紙など、下地に色がついている原稿や、色の薄い原稿などの画質を調整したい	1-21 ページ
日時やページ番号を振りたい	1-22 ページ
その他のオプション設定	1-24 ページ

4 [直接入力] - [ファイル送信 (DPWS)] を選びます。



本機を Web サービスを使ったスキャナーとして登録している、ネットワーク上のコンピューターが、宛先として表示されます。

5 送信先のコンピューターを選びます。



- [検索] をタップすると、宛先の名前に含まれるキーワードを入力して、宛先を検索できます。
- [詳細] をタップすると、宛先の名前と URL を表示します。
- [設定変更] をタップすると、[カラー] や [読み込みサイズ] などのオプション設定を変更できます。

6 [実行] をタップします。

- 宛先の指定や、オプション設定をやり直したいときは、リセットを押します。送信が開始されます。

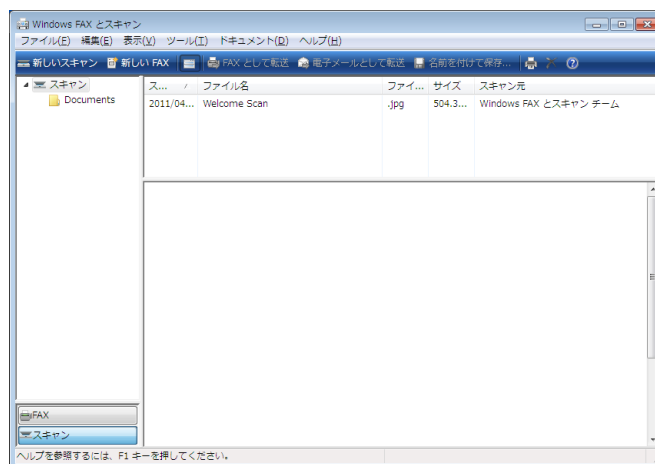
7 送信先に選んだコンピューターを操作して、原稿の取込みに起動するアプリケーションソフトウェアを操作したり、スキャン送信で保存したファイルを確認します。

- 本機からスキャン送信した場合は、送信先のコンピューターのアプリケーションを起動して原稿データを取込むか、特定のフォルダーに保存するかの、2種類の保存のしかたがあります。詳しくは、7.4 ページをごらんください。

7.4 コンピューターから取込む

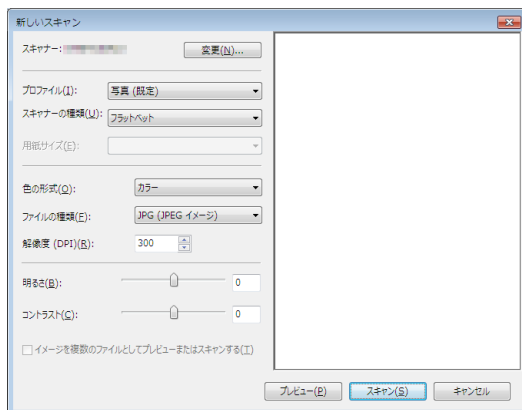
コンピューターのアプリケーションソフトウェアを通じて本機を操作して、読込んだ原稿データを取込みます。取込んだ原稿データは編集したり、そのままコンピューターに保存したりできます。ここでは、Windows 7 とアプリケーションソフトウェア [Windows FAX とスキャン] を使って説明します。

- 1 スタートメニューから [すべてのプログラム] - [Windows FAX とスキャン] をクリックします。



- 2 [新しいスキャン] をクリックします。
[新しいスキャン] ウィンドウが表示されます。

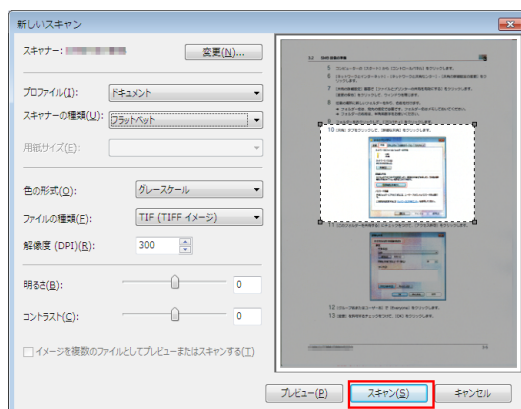
3 読み込む原稿に合わせて、以下の各項目を任意で設定します。



設定	説明
[スキャナー]	本機のスキャナー名を表示します。 他のスキャナーに切換えたいときは、[変更] をクリックします。
[プロファイル]	本機にセットする原稿に合わせて、プロファイルを選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [写真]：写真が多い原稿を読み込むときに選びます。 ・ [ドキュメント]：文字が多い原稿を読み込むときに選びます。 ・ [最後に使用された設定]：前回読み込んだ時の設定値を使って読み込むときに選びます。 ・ [プロファイルの追加]：上記の選択肢以外に新たなプロファイルを作成して、選択肢を追加するときに選びます。[プロファイルの追加] を選ぶと、[新しいプロファイルの追加] ウィンドウを表示します。
[スキャナーの種類]	原稿をセットする場所を選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [フラットベッド]：原稿を原稿ガラスにセットするときに選びます。[フラットベッド] を選ぶと、読み込み機能である [プレビュー] を使用できます。 ・ [フィーダー]：原稿を ADF にセットするときに選びます。
[用紙サイズ]	[スキャナーの種類] で [フィーダー] を選ぶと [自動検出ページサイズ] がはたらき、ADF にセットした原稿サイズを自動で検出します。ADF にセットした原稿のサイズを自動で検出せず、常に同じサイズで読み込みたいときは、任意のサイズを選びます。
[色の形式]	原稿を読み込むカラーモードを、[カラー] または [グレースケール] から選びます。原稿の色に関わらず、選んだカラーモードで読み込みます。
[ファイルの種類]	保存するファイル形式を選びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ [BMP]：Windows に付属のソフト「ペイント」で採用する画像ファイルの保存形式です。保存するデータの圧縮機能を持たないため、JPEG や PNG 等に比べ、ファイルサイズは大きくなります。 ・ [JPG]：デジタルカメラでよく使われているファイルの保存形式で、写真の保存に適したファイル形式です。JPEG は、1つのファイルに複数ページを保存できません。 ・ [PNG]：ファイル生成時に圧縮しても品質が劣化しない、画像ファイルの保存形式です。古い Web ブラウザーでは、表示できないものもあるので、注意が必要です。 ・ [TIF]：汎用度の高い画像形式の1つです。TIFF は、1つのファイルに複数ページを持つマルチページに対応しています。 ・ [XPS]：Windows Vista から採用されたファイル形式です。
[解像度 (DPI)]	原稿を読み込むときの解像度を指定します。
[明るさ]	原稿を読み込むときの明るさを指定します。 明るさのレベルは、スライダーをドラッグするか、数値で指定します。
[コントラスト]	原稿を読み込むときのコントラストを指定します。 コントラストのレベルは、スライダーをドラッグするか、数値で指定します。

4 [スキャン] をクリックします。

- [スキャナーの種類] で [フラットベッド] を選んだときは、ファイルとして保存する前に [プレビュー] をクリックして、読込んだ原稿の画像を確認できます。
必要に応じて、表示された画像をトリミングしたり、[明るさ] や [コントラスト]、[解像度 (DPI)] などを変更します。読込んだ原稿を確認したら、[スキャン] をクリックします。



原稿が読み込まれ、[Windows FAX とスキャン] のアプリケーションウィンドウに表示されます。



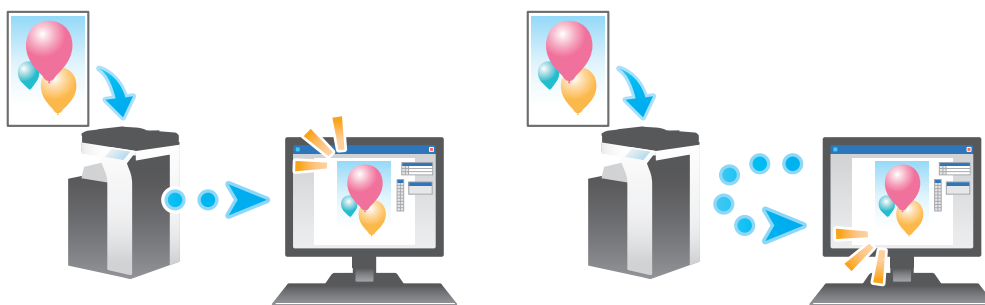
TWAIN スキャンで画像を取込む

8 TWAIN スキャンで画像を取込む

8.1 TWAIN スキャン機能について

コンピューターから、TWAIN 機器に対応した各種アプリケーションを通じて本機を操作して、読込んだ原稿データを取込みます。

取込んだデータは編集したり、そのままコンピューターに保存したりできます。

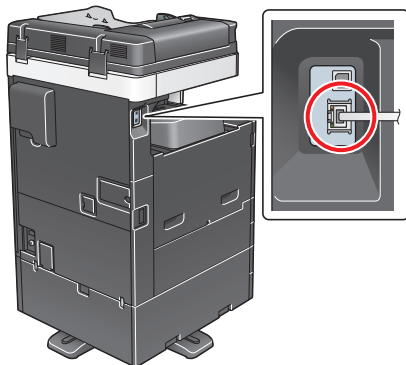


8.2 TWAIN スキャンの準備

8.2.1 本機側：お使いになるために必要な作業（管理者向け）

LAN ケーブルの接続を確認する

本機の LAN ポートに、ネットワークに接続された LAN ケーブルが接続されていることを確認します。



ネットワークの設定を確認する

本機に IP アドレスが割り当てられていることを確認します。[設定メニュー] - [装置情報表示] をタップし、IP アドレスが表示されていることを確認します。



参照

IP アドレスが表示されていない場合は、ネットワーク設定が必要です。詳しくは、「ユーザーズガイド [Web 設定ツール] / [お使いになるために必要な作業]」をごらんください。

TWAIN スキャンの使用環境を確認する

本機をスキャナーとして使うための設定がされていることを確認します（通常は、初期設定の状態でお使いいただけます）。

設定のしかたについては、Web Connection を使って説明します。詳しくは、「ユーザーズガイド [Web 設定ツール] / [スキャン送信の使用環境を設定する]」をごらんください。

8.2.2 コンピューター側：お使いになるために必要な作業

コンピューターの動作環境

項目	仕様
対応 OS	Windows Vista Home Basic (SP2 以降)* Windows Vista Home Premium (SP2 以降)* Windows Vista Business (SP2 以降)* Windows Vista Enterprise (SP2 以降)* Windows Vista Ultimate (SP2 以降)* Windows 7 Home Basic (SP1 以降)* Windows 7 Home Premium (SP1 以降)* Windows 7 Professional (SP1 以降)* Windows 7 Enterprise (SP1 以降)* Windows 7 Ultimate (SP1 以降)* Windows 8.1* Windows 8.1 Pro* Windows 8.1 Enterprise* Windows 10 Home* Windows 10 Pro* Windows 10 Enterprise* Windows 10 Education* * 32 ビット (x86) / 64 ビット (x64) 環境に対応。
コンピューター	OS の仕様に準ずる
メモリー	OS の仕様に準ずる
ネットワーク	TCP/IP プロトコルの設定が正しく行われているコンピューター
ハードディスク	20 MB 以上の空き容量が必要

最新対応 OS は弊社ホームページよりご確認ください。
(<http://www.muratec.jp/ce/support/driver/models.html>)



参考

- TWAIN に対応した画像処理アプリケーションソフトウェアが必要です。
- Service Pack などの最新情報に関しては、Readme を参照してください。

TWAIN ドライバーをインストールする

本機に付属の CD-ROM からコンピューターに TWAIN ドライバーをインストールします。

- 1 Windows を起動します。
- 2 コンピューターの CD-ROM ドライブに Driver & Utilities CD-ROM Vol.2 をセットします。
- 3 [スキャナーのインストール] から [TWAIN ドライバー] を選び、画面の指示に従って操作します。
インストールが開始され、必要なファイルがコピーされます。コピーが終了すると、インストールの完了画面が表示されます。
- 4 [完了] をクリックします。
以上で、インストールの完了です。

8.3 TWAIN スキャンのしかた

本機を操作してスキャンする

操作パネルを操作して、スキャンを実行します。スキャンした画像データは、TWAIN ドライバーに対応したアプリケーションソフトウェアのウィンドウに表示されます。

ここでは、Adobe Photoshop を例に説明します。

- 1 Adobe Photoshop を起動します。
- 2 ファイルメニューで [読み込み] を選び、お使いの TWAIN ドライバーを選びます。
→ TWAIN ドライバーは、「GENERIC TWAIN」と表示されています。
- 3 [デバイス選択] 画面から本機を選んで、[接続] をクリックします。
メインダイアログ画面が開きます。
- 4 [プッシュスキャン] にチェックをつけます。
→ 必要に応じて、[設定] タブで読み込み設定をします。
- 5 [読み込み] をクリックします。
[スキャン開始待ち] ダイアログ画面が表示されたら、本機の前に移動します。
- 6 本機に原稿をセットします。
- 7 操作パネルのスタートを押します。
原稿が読みまれ、コンピューターのアプリケーションウィンドウに画像が表示されます。

コンピューターからスキャンする

コンピューターの操作でスキャンを実行します。スキャンした画像データは、TWAIN ドライバーに対応したアプリケーションソフトウェアのウィンドウに表示されます。

ここでは、Adobe Photoshop を例に説明します。

- 1 本機に原稿をセットします。
原稿をセットしたら、TWAIN スキャンをするコンピューターの前に移動します。
- 2 Adobe Photoshop を起動します。
- 3 ファイルメニューで [読み込み] を選び、お使いの TWAIN ドライバーを選びます。
→ TWAIN ドライバーは、「GENERIC TWAIN」と表示されています。
- 4 [デバイス選択] 画面から本機を選んで、[接続] をクリックします。
メインダイアログ画面が開きます。
→ 必要に応じて、[設定] タブで読み込み設定をします。
- 5 [読み込み] をクリックします。
原稿が読みまれ、コンピューターのアプリケーションウィンドウに画像が表示されます。

関連設定

- コンピューターからの TWAIN スキャン時は、本機の操作パネルをロックします。必要に応じて、ロックを自動解除するまでの時間を変更できます (初期値: [120 秒])。詳しくは、「ユーザーズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [設定メニュー]」をごらんください。

9

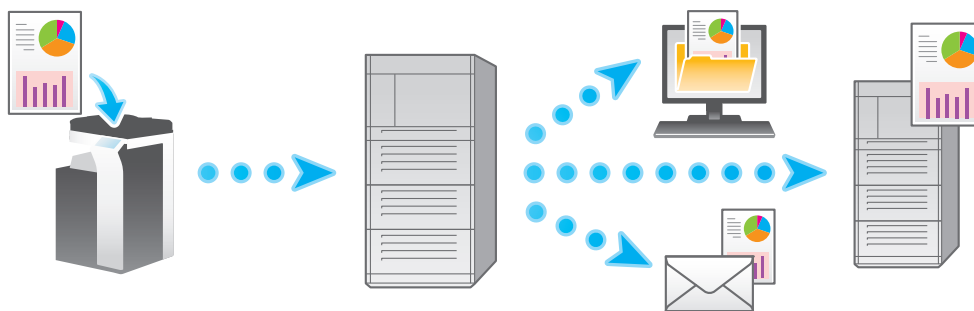
スキャンサーバーを使って配信
する

9 スキャンサーバーを使って配信する

9.1 スキャンサーバーについて

本機で読込んだ原稿データを、コンピュータで扱えるファイルに変換して、スキャンサーバーへ送信します。ファイルを受取ったスキャンサーバーは、登録済みのスキャンプロセスに従って、SMB フォルダや E-mail アドレス、Microsoft Office SharePoint Server への送信を行います。

スキャンサーバーは、Windows Server 2008 R2/Server 2012/Server 2012 R2 の分散スキャンサーバー機能を使います。



参考

- 分散スキャンサーバー機能について詳しくは、Windows Server 2008 R2/Server 2012/Server 2012 R2 のマニュアルを参照してください。

9.2 スキャンサーバー送信の準備（管理者向け）

9.2.1 準備の流れ

本機をネットワークに接続する

- LAN ケーブルの接続を確認する
 - ネットワーク設定を確認する
 - 本機に IP アドレスが割当てられていることを確認します。
-



スキャンサーバー送信の環境を準備する

- Distributed Scan 送信機能を有効にする
-

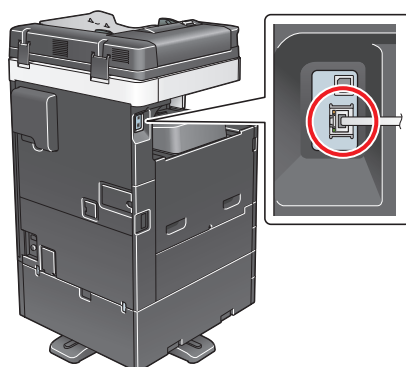


準備完了

9.2.2 お使いになるために必要な作業

LAN ケーブルの接続を確認する

本機の LAN ポートに、ネットワークに接続された LAN ケーブルが接続されていることを確認します。



ネットワークの設定を確認する

本機に IP アドレスが割当てられていることを確認します。[設定メニュー] - [装置情報表示] をタップし、IP アドレスが表示されていることを確認します。



参照

IP アドレスが表示されていない場合は、ネットワーク設定が必要です。詳しくは、「ユーザーズガイド [Web 設定ツール] / [お使いになるために必要な作業]」をごらんください。

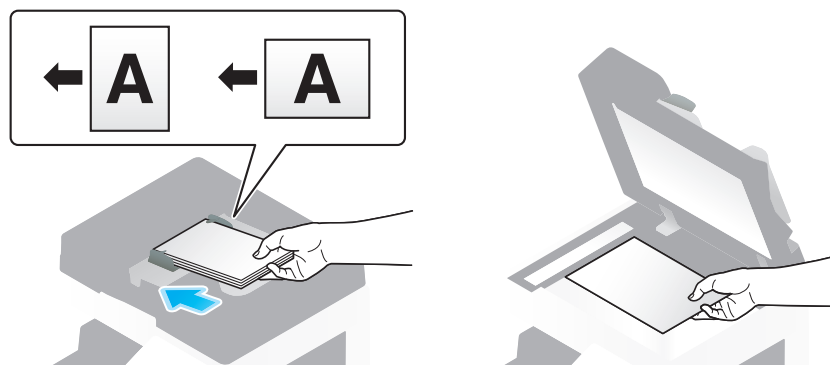
スキャンサーバー送信の使用環境を設定する

Distributed Scan 送信機能を有効にします。

設定のしかたについては、Web Connection を使って説明します。詳しくは、「ユーザーズガイド [Web 設定ツール] / [外部のアプリケーションと連携する]」をごらんください。

9.3 送信のしかた

1 原稿をセットします。



2 [ファクス/スキャン] をタップします。



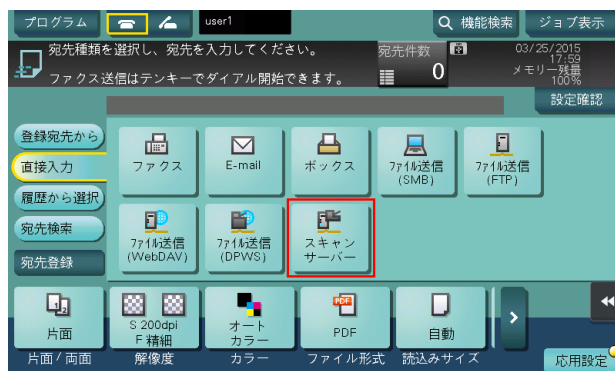
3 必要に応じて、スキャン送信のオプション設定をします。

→ オプション設定について詳しくは、以下の各項目をごらんください。

目的	参照先
カラーや原稿サイズなどの基本的なオプション設定をしたい	1-15 ページ
サイズの異なる原稿や本など、いろいろな原稿に合わせたオプション設定をしたい	1-17 ページ
新聞紙など、下地に色がついている原稿や、色の薄い原稿などの画質を調整したい	1-21 ページ
日時やページ番号を振りたい	1-22 ページ
その他のオプション設定	1-24 ページ

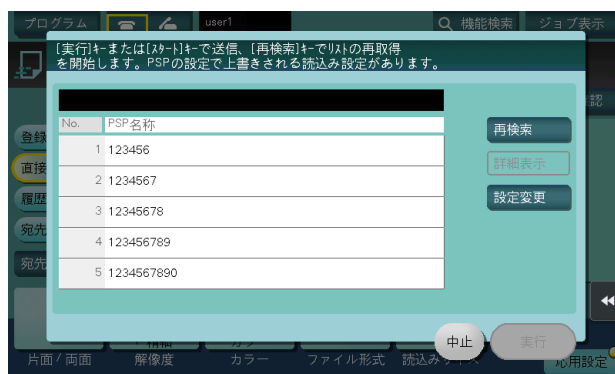
4 [直接入力] - [スキャンサーバー] を選びます。

- スキャンサーバー送信をするときは、同時に他の宛先へ送信したり、ファクス/スキャンプログラムを利用したりすることはできません。



5 スキャンプロセスを選びます。

- スキャンプロセスとは、スキャンサーバーからの配信先など、あらかじめ決められたスキャンに関するワークフローを自動化したものです。スキャンプロセスは、Windows Server 2008 R2/Server 2012/Server 2012 R2 のアプリケーションで作成したもので、Active Directory に登録されています。
- スキャンプロセスは、50 件まで取得できます。ただし、送信先に複数のスキャンプロセスを選ぶことはできません。



- [再検索] をタップすると、スキャンプロセスのリストを最新の情報に更新します。
- [詳細表示] をタップすると、選んだスキャンプロセスの詳細を表示します。
- [設定変更] をタップすると、[カラー] や [読み込みサイズ] などのオプション設定を変更できます。

6 [実行] をタップします。

送信が開始されます。

- スキャンプロセスを選んでいない場合や、スキャンプロセスに配信先が設定されていない場合は、送信できません。



関連設定

- スキャンプロセスに設定されたファイル形式が PDF 形式の場合に、スキャンサーバーへ送信するときのファイル形式を、[PDF] または [コンパクト PDF] から選べます。詳しくは、「ユーザーズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [設定メニュー]」をごらんください。
- スキャンプロセスに設定されたファイル形式が XPS 形式の場合に、スキャンサーバーへ送信するときのファイル形式を、[XPS] または [コンパクト XPS] から選べます。詳しくは、「ユーザーズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [設定メニュー]」をごらんください。

10

Android/iOS 端末から本機を
遠隔操作中にスキャンしたデー
タを送信する (Panel Link ス
キャン)

10 Android/iOS 端末から本機を遠隔操作中にスキャンしたデータを送信する (Panel Link スキャン)

10.1 Panel Link スキャン機能について

Panel Link スキャンは、本機で読込んだ原稿データを、端末のストレージまたは Google ドライブに送信する機能です。Remote Access の Panel Link 機能で、Android/iOS 端末から本機を遠隔操作しているときに利用できます。

ファイル形式は、PDF またはコンパクト PDF から選べます。コンパクト PDF を選んだ場合は、テキスト検索可能な PDF (サーチャブル PDF) を作成できます。

参考

- この機能を使うには、Android/iOS 端末に Remote Access のインストールが必要です。
- Panel Link スキャン機能は、本機ของผู้認證機能に対応していません。ユーザー認證を導入している環境で Panel Link スキャン機能を使うには、パブリックユーザーを許可する必要があります (初期値: [許可しない])。パブリックユーザーについて詳しくは、「ユーザーズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [設定メニュー]」をごらんください。
- iOS 端末をお使いの場合、送信先として iOS 端末のストレージを指定することはできません。送信先には Google ドライブを指定してください。
- Panel Link スキャン機能で Google ドライブに送信するには、Android/iOS 端末が本機と Google ドライブの両方に接続できるネットワークに接続されている必要があります。
- テキスト検索可能な PDF (サーチャブル PDF) を作成する場合は、Google ドライブへの接続が必要です。

10.2 Panel Link スキャンの準備

10.2.1 準備の流れ

本機をネットワークに接続する

- LAN ケーブルの接続を確認する
- ネットワーク設定を確認する
 - 本機に IP アドレスが割当てられていることを確認します。



Panel Link スキャンの使用環境を準備する

- Panel Link スキャン機能を有効にする
 - 本機で、Android/iOS 端末からの Remote Access を使った接続を許可し、Panel Link スキャン機能を有効に設定します。
- Android 端末と連携するための設定をする
 - 本機で NFC を使用できるように設定します。あわせて、Android 端末を本機に接続するときに必要な本機のネットワーク情報を設定します。
- iOS 端末と連携するための設定をする
 - 本機で Bluetooth LE を使用できるように設定します。あわせて、iOS 端末を本機に接続するときに必要な本機のネットワーク情報を設定します。
- トップメニューに Panel Link スキャン機能のショートカットキーを配置する
- Remote Access で送信先を設定する
 - Panel Link スキャンの送信先として端末のストレージまたは Google ドライブのどちらかを設定します。

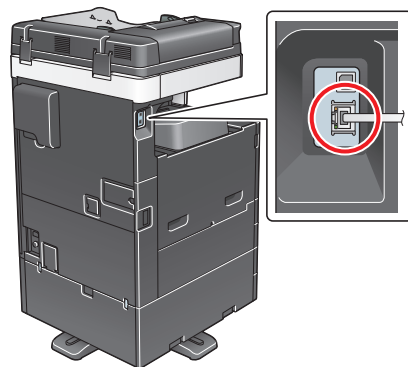


準備完了

10.2.2 お使いになるために必要な作業（管理者向け）

LAN ケーブルの接続を確認する

本機の LAN ポートに、ネットワークに接続された LAN ケーブルが接続されていることを確認します。



ネットワークの設定を確認する

本機に IP アドレスが割当てられていることを確認します。[設定メニュー] - [装置情報表示] をタップし、IP アドレスが表示されていることを確認します。



参照

IP アドレスが表示されていない場合は、ネットワーク設定が必要です。詳しくは、「ユーザーズガイド [Web 設定ツール] / [お使いになるために必要な作業]」をごらんください。

Panel Link スキャン機能を有効にする

本機で、Android/iOS 端末からの Remote Access を使った接続を許可し、Panel Link スキャン機能を有効に設定します。

設定のしかたについては、Web Connection を使って説明します。詳しくは、「ユーザーズガイド [Web 設定ツール] / [外部のアプリケーションと連携する]」をごらんください。

Android 端末と連携するための設定をする

Android 端末から Remote Access を使って本機に接続するときは、本機の NFC 機能を使用すると便利です。本機の NFC 機能を使用すれば、Android 端末を本機の操作パネルのモバイルタッチエリアにかざすだけで、Remote Access で簡単に本機に接続することができます。

本機で NFC を使用できるように設定します。あわせて、Android 端末を本機に接続するときに必要な本機のネットワーク情報を設定します。

設定のしかたについては、Web Connection を使って説明します。詳しくは、「ユーザーズガイド [Web 設定ツール] / [外部のアプリケーションと連携する]」をごらんください。

iOS 端末と連携するための設定をする

iOS 端末から Remote Access を使って本機に接続するときは、本機の Bluetooth LE 機能を使用すると便利です。本機の Bluetooth LE 機能を使用すれば、本機に iOS 端末を近づけて Remote Access を操作することにより、本機への接続が簡単にできます。

本機で Bluetooth LE を使用できるように設定します。あわせて、iOS 端末を本機に接続するときに必要な本機のネットワーク情報を設定します。

設定のしかたについては、Web Connection を使って説明します。詳しくは、「ユーザーズガイド [Web 設定ツール] / [外部のアプリケーションと連携する]」をごらんください。

参考

- この機能を使うには、オプションのローカル接続キット（音声ガイド/Bluetooth 用）が必要です。また、サービスエンジニアによる設定が必要です。詳しくは、サービス実施店にお問い合わせください。

トップメニューに Panel Link スキャン機能のショートカットキーを配置する

Panel Link スキャン画面へのショートカットをトップメニューに配置します。

トップメニューにショートカットキーを配置する方法について詳しくは、「ユーザーズガイド [操作パネルについて] / [タッチパネルの操作と主な画面の紹介]」をごらんください。

Remote Access で送信先を設定する

Panel Link スキャンの送信先として端末のストレージまたは Google ドライブのどちらかを設定します。

設定方法について詳しくは、Remote Access のヘルプをごらんください。

参考

- Panel Link スキャン機能で Google ドライブに送信するには、Android/iOS 端末が本機と Google ドライブの両方に接続できるネットワークに接続されている必要があります。
- iOS 端末をお使いの場合、送信先として iOS 端末のストレージを指定することはできません。送信先には Google ドライブを指定してください。

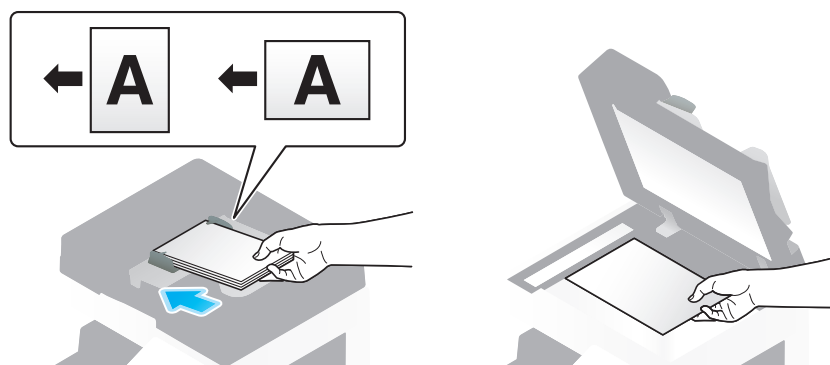
10.3 送信のしかた

Android 端末をお使いの場合

NFC を使って Remote Access で本機に接続し、Panel Link スキャンを実行する手順を説明します。

- ✓ Remote Access を使って本機に接続するときに NFC を使用する場合は、あらかじめ本機または本機へ接続可能なアクセスポイントに Android 端末を接続しておいてください。
- ✓ あらかじめ Remote Access で送信先を設定しておいてください。設定方法については、Remote Access のヘルプをごらんください。
- ✓ Panel Link スキャン機能で Google ドライブに送信するには、Android 端末が本機と Google ドライブの両方に接続できるネットワークに接続されている必要があります。

- 1 原稿をセットします。



- 2 Android 端末で Remote Access を起動し、[Panel Link] をタップします。
- 3 Android 端末を本機の操作パネルのモバイルタッチエリアにかざします。
 - Android 端末がスリープモード（スクリーンオフ）または画面ロック状態の場合は、Android 端末のスリープモードを解除し、画面ロックを解除してから、モバイルタッチエリアにかざしてください。
 Remote Access で本機に接続されます。
- 4 Android 端末の画面で、トップメニューの [Panel Link スキャン] をタップします。
- 5 必要に応じて、[Panel Link スキャン] の画面で、スキャン送信のオプション設定をします。
 - ファイル形式は、PDF またはコンパクト PDF から選べます。コンパクト PDF を選んだ場合は、テキスト検索可能な PDF (サーチャブル PDF) を作成できます。
- 6 Android 端末の画面で、[スタート] をタップします。

Android 端末のストレージまたは Google ドライブへの送信が開始されます。

参考

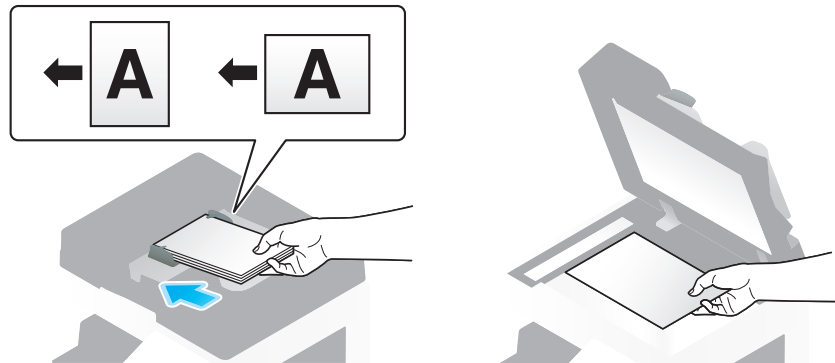
- Android 端末で設定されている言語が、本機と異なる場合、読み込んだ原稿データのファイル名が端末側で正しく表示されない場合があります。
- Remote Access を起動するときの優先起動モードを [Panel Link] に設定している場合、Remote Access を起動せずに Android 端末をモバイルタッチエリアにかざすと、自動的に Panel Link モードで接続します。設定については、「ユーザーズガイド [Web 設定ツール] / [外部のアプリケーションと連携する]」をごらんください。
- テキスト検索可能な PDF (サーチャブル PDF) を作成する場合は、Google ドライブへの接続が必要です。Android 端末が本機と Google ドライブの両方に接続できるネットワークに接続されている必要があります。
- Panel Link スキャンの操作方法については、Remote Access のヘルプをごらんください。

iOS 端末をお使いの場合

Bluetooth LE を使って Remote Access で本機に接続し、Panel Link スキャンを実行する手順を説明します。

- ✓ Remote Access を使って本機に接続するときに Bluetooth LE を使用する場合は、あらかじめ本機または本機へ接続可能なアクセスポイントに iOS 端末を接続しておいてください。
- ✓ あらかじめ Remote Access で Google ドライブを利用するための設定をしておいてください。設定方法について詳しくは、Remote Access のヘルプをごらんください。
- ✓ Panel Link スキャン機能で Google ドライブに送信するには、iOS 端末が本機と Google ドライブの両方に接続できるネットワークに接続されている必要があります。

- 1 原稿をセットします。



- 2 iOS 端末で Remote Access を起動し、[Panel Link] をタップします。
- 3 iOS 端末の画面で装置を検索し、検索結果に表示される Bluetooth LE 装置から本機を選択します。
- 4 Remote Access で [Connect] をタップします。
Remote Access で本機に接続されます。
- 5 iOS 端末の画面で、トップメニューの [Panel Link スキャン] をタップします。
- 6 必要に応じて、[Panel Link スキャン] の画面で、スキャン送信のオプション設定をします。
→ ファイル形式は、PDF またはコンパクト PDF から選べます。コンパクト PDF を選んだ場合は、テキスト検索可能な PDF(サーチャブル PDF) を作成できます。
- 7 iOS 端末の画面で、[スタート] をタップします。
送信が開始されます。

参考

- iOS 端末で設定されている言語が、本機と異なる場合、読み込んだ原稿データのファイル名が端末側で正しく表示されない場合があります。
- テキスト検索可能な PDF(サーチャブル PDF) を作成する場合は、Google ドライブへの接続が必要です。iOS 端末が本機と Google ドライブの両方に接続できるネットワークに接続されている必要があります。
- Panel Link スキャンの操作方法について詳しくは、Remote Access のヘルプをごらんください。

11

Android/iOS 端末に登録されているメールアドレスを宛先として指定する (Address Link)

11 Android/iOS 端末に登録されているメールアドレスを宛先として指定する (Address Link)

11.1 Address Link 機能について

Address Link は、Android/iOS 端末のアドレス帳に登録されているメールアドレスを、Remote Access を使って本機の操作パネルに転送し、宛先として指定する機能です。

本機で読込んだ原稿データを、Android/iOS 端末のアドレス帳に登録されているメールアドレスに送信したいとき、Address Link 機能を使うことで、本機の操作パネルでメールアドレスを入力する手間を省くことができます。

参考

- この機能を使うには、Android/iOS 端末に Remote Access のインストールが必要です。

11.2 Address Link の準備

11.2.1 準備の流れ

本機をネットワークに接続する

- LAN ケーブルの接続を確認する
- ネットワーク設定を確認する
 - 本機に IP アドレスが割当てられていることを確認します。



Address Link の使用環境を準備する

- Address Link 機能を有効にする
 - 本機で、Android/iOS 端末からの Remote Access を使った接続を許可し、Address Link 機能を有効に設定します。
- Android 端末と連携するための設定をする
 - 本機で NFC を使用できるように設定します。あわせて、Android 端末を本機に接続するときに必要な本機のネットワーク情報を設定します。
- iOS 端末と連携するための設定をする
 - 本機で Bluetooth LE を使用できるように設定します。あわせて、iOS 端末を本機に接続するときに必要な本機のネットワーク情報を設定します。

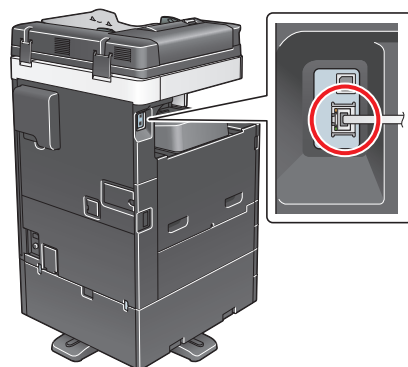


準備完了

11.2.2 お使いになるために必要な作業（管理者向け）

LAN ケーブルの接続を確認する

本機の LAN ポートに、ネットワークに接続された LAN ケーブルが接続されていることを確認します。



ネットワークの設定を確認する

本機に IP アドレスが割当てられていることを確認します。[設定メニュー] - [装置情報表示] をタップし、IP アドレスが表示されていることを確認します。



参考

- IP アドレスが表示されていない場合は、ネットワーク設定が必要です。詳しくは、「ユーザーズガイド [Web 設定ツール] / [お使いになるために必要な作業]」をごらんください。

Address Link 機能を有効にする

本機で、Android/iOS 端末からの Remote Access を使った接続を許可し、Address Link 機能を有効に設定します。

設定のしかたについては、Web Connection を使って説明します。詳しくは、「ユーザーズガイド [Web 設定ツール] / [外部のアプリケーションと連携する]」をごらんください。

Android 端末と連携するための設定をする

Android 端末から Remote Access を使って本機に接続するときは、本機の NFC 機能を使用すると便利です。本機の NFC 機能を使用すれば、Android 端末を本機の操作パネルのモバイルタッチエリアにかざすだけで、Remote Access で簡単に本機に接続することができます。

本機で NFC を使用できるように設定します。あわせて、Android 端末を本機に接続するときに必要な本機のネットワーク情報を設定します。

設定のしかたについては、Web Connection を使って説明します。詳しくは、「ユーザーズガイド [Web 設定ツール] / [外部のアプリケーションと連携する]」をごらんください。

iOS 端末と連携するための設定をする

iOS 端末から Remote Access を使って本機に接続するときは、本機の Bluetooth LE 機能を使用すると便利です。本機の Bluetooth LE 機能を使用すれば、本機に iOS 端末を近づけて Remote Access を操作することにより、本機への接続が簡単にできます。

本機で Bluetooth LE を使用できるように設定します。あわせて、iOS 端末を本機に接続するときに必要な本機のネットワーク情報を設定します。

設定のしかたについては、Web Connection を使って説明します。詳しくは、「ユーザーズガイド [Web 設定ツール] / [外部のアプリケーションと連携する]」をごらんください。

参考

- この機能を使うには、オプションのローカル接続キット（音声ガイド/Bluetooth 用）が必要です。また、サービスエンジニアによる設定が必要です。詳しくは、サービス実施店にお問い合わせください。

11.3 宛先の指定のしかた

Android 端末をお使いの場合

NFC を使って Remote Access で本機に接続し、Address Link を実行する手順を説明します。

- ✓ Remote Access を使って本機に接続するときに NFC を使用する場合は、あらかじめ本機または本機へ接続可能なアクセスポイントに Android 端末を接続しておいてください。

- 1 Android 端末で Remote Access を起動し、[Address Link] をタップします。
- 2 アドレス帳からメールアドレスを選択します。
 - アドレス帳が複数ある場合は、利用したいアドレス帳を選択し、メールアドレスを選択します。
 - 一つの宛先に複数のメールアドレスが登録されている場合は、どのメールアドレスを使うかを選択する画面が表示されます。
- 3 Android 端末を本機の操作パネルのモバイルタッチエリアにかざします。
 - Android 端末がスリープモード（スクリーンオフ）または画面ロック状態の場合は、Android 端末のスリープモードを解除し、画面ロックを解除してから、モバイルタッチエリアにかざしてください。Remote Access で本機に接続されます。
- 4 本機の操作パネルで [スキャン宛先に使用] または [ボックス宛先に使用] をタップします。
 - コピーモードのトップ画面またはファクス/スキャンモードのトップ画面を表示しているときに本機に接続すると、[スキャン宛先に使用] が表示されます。
 - ボックスモードのファイル送信画面を表示しているときに本機に接続すると、[ボックス宛先に使用] が表示されます。選択したメールアドレスが宛先として指定されます。



参考

- Address Link の操作方法について詳しくは、Remote Access のヘルプをごらんください。

iOS 端末をお使いの場合

Bluetooth LE を使って Remote Access で本機に接続し、Address Link を実行する手順を説明します。

- ✓ Remote Access を使って本機に接続するときに Bluetooth LE を使用する場合は、あらかじめ本機または本機へ接続可能なアクセスポイントに iOS 端末を接続しておいてください。
- 1 iOS 端末で Remote Access を起動し、[Address Link] をタップします。
専用のアドレス帳が起動します。
 - 2 アドレス帳からメールアドレスを選択します。
 - 3 iOS 端末の画面で装置を検索し、検索結果に表示される Bluetooth LE 装置から本機を選択します。
 - 4 本機の操作パネルで [スキャン宛先に使用] または [ボックス宛先に使用] をタップします。
 - コピーモードのトップ画面またはファクス/スキャンモードのトップ画面を表示しているときに本機に接続すると、[スキャン宛先に使用] が表示されます。
 - ボックスモードのファイル送信画面を表示しているときに本機に接続すると、[ボックス宛先に使用] が表示されます。
 - 5 Remote Access で [Send] をタップします。
選択したメールアドレスが本機に転送され、宛先として指定できます。



参考

- Address Link の操作方法について詳しくは、Remote Access のヘルプをごらんください。

12

宛先の管理

12 宛先の管理

12.1 よく使う宛先を登録する（短縮宛先）

12.1.1 設定メニューから登録する

短縮宛先について

よく送信する宛先を本機に登録することで、送信のたびに宛先を入力する手間が省けます。本機に登録した宛先を、短縮宛先と呼びます。

短縮宛先は、2000 件まで登録できます。登録できる宛先の種類は、送信のしかたによってメールアドレスやコンピューター名などになります。

④ 関連設定（管理者向け）

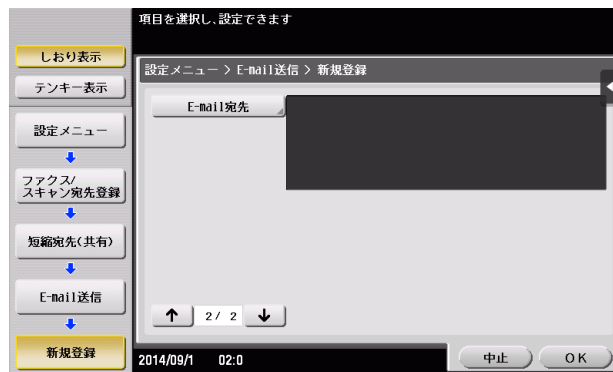
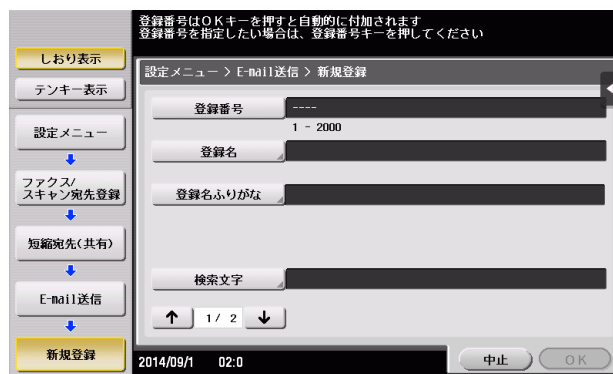
- ユーザーに対して、宛先の登録や変更を許可するかどうかを選べます（初期値：[許可]）。詳しくは、「ユーザーズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [設定メニュー]」をごらんください。

E-mail 宛先を登録する

宛先とするメールアドレスを登録します。

- 1 [設定メニュー] - [宛先 / ボックス登録] - [ファクス / スキャン宛先登録] - [短縮宛先（共有）] - [E-mail 送信] - [新規登録] をタップします。

→ 管理者の場合は、[管理者設定] - [宛先 / ボックス登録] から同じ操作ができます。



- 2 宛先情報を入力し、[OK] をタップします。

→ 登録内容について詳しくは、「ユーザーズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [設定メニュー]」をごらんください。

参考

- 登録した宛先の設定内容を確認するときは、登録名を選び、[設定内容] をタップします。
- 登録した宛先の設定内容を変更するときは、登録名を選び、[編集] をタップします。
- 登録した宛先を削除するときは、登録名を選び、[削除] をタップします。

参照

E-mail 宛先は Web Connection でも登録できます。詳しくは、「ユーザズガイド [Web 設定ツール] / [各種情報を登録する]」をごらんください。

SMB 宛先を登録する

宛先とするコンピューターのコンピューター名（ホスト名）または IP アドレスを登録します。また、ファイルを保存するフォルダーや、フォルダーへのアクセス情報も登録します。

- 1 [設定メニュー] - [宛先 / ボックス登録] - [ファクス / スキャン宛先登録] - [短縮宛先（共有）] - [ファイル送信（SMB）] - [新規登録] をタップします。

→ 管理者の場合は、[管理者設定] - [宛先 / ボックス登録] から同じ操作ができます。

登録番号はOKキーを押すと自動的に付加されます
登録番号を指定したい場合は、登録番号キーを押してください

設定メニュー > ファイル送信(SMB) > 新規登録

登録番号 1 - 2000

登録名

登録名ふりがな

検索文字

↑ 1 / 3 ↓

2014/09/1 02:0 中止 OK

項目を選択し、設定できます

設定メニュー > ファイル送信(SMB) > 新規登録

ユーザーID

パスワード

↑ 2 / 3 ↓

2014/09/1 02:0 中止 OK

項目を選択し、設定できます

設定メニュー > ファイル送信(SMB) > 新規登録

ホストアドレス

接続確認実行

ファイルパス

ホスト名検索 参照

↑ 3 / 3 ↓

2014/09/1 02:0 中止 OK

2 宛先情報を入力し、[OK] をタップします。

→ 登録内容について詳しくは、「ユーザーズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [設定メニュー]」をごらんください。



参考

- 登録した宛先の設定内容を確認するときは、登録名を選び、[設定内容] をタップします。
- 登録した宛先の設定内容を変更するときは、登録名を選び、[編集] をタップします。
- 登録した宛先を削除するときは、登録名を選び、[削除] をタップします。



関連設定（管理者向け）

- シングルサインオン環境でお使いの場合に SMB 宛先を登録するとき、[認証情報登録可否] の設定によっては、本機へのログイン時の認証情報を SMB 宛先の登録情報に含めるかどうかを選択する画面が表示されます。[認証情報登録可否] の設定について詳しくは、「ユーザーズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [設定メニュー]」をごらんください。



参照

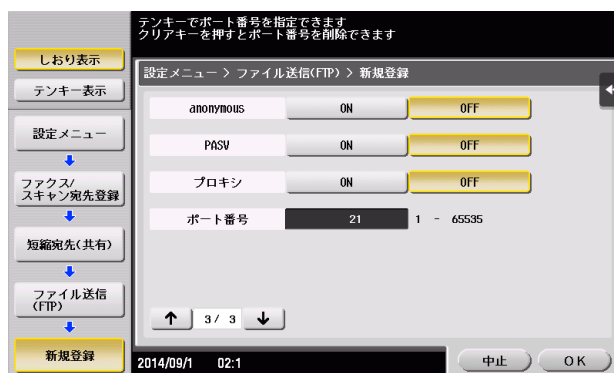
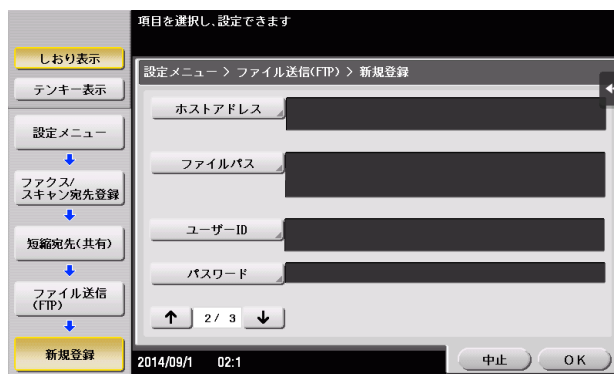
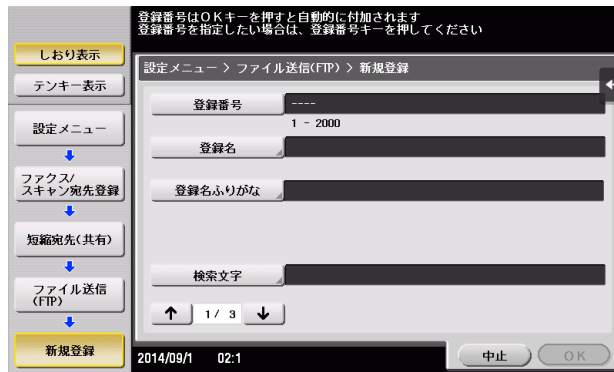
SMB 宛先は Web Connection でも登録できます。詳しくは、「ユーザーズガイド [Web 設定ツール] / [各種情報を登録する]」をごらんください。

FTP 宛先を登録する

宛先とする FTP サーバーのホスト名または IP アドレスを登録します。また、ファイルを保存するフォルダや、アカウント情報も登録します。

- 1 [設定メニュー] - [宛先 / ボックス登録] - [ファクス / スキャン宛先登録] - [短縮宛先 (共有)] - [ファイル送信 (FTP)] - [新規登録] をタップします。

→ 管理者の場合は、[管理者設定] - [宛先 / ボックス登録] から同じ操作ができます。



- 2 宛先情報を入力し、[OK] をタップします。

→ 登録内容について詳しくは、「ユーザーズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [設定メニュー]」をごらんください。

参考

- 登録した宛先の設定内容を確認するときは、登録名を選び、[設定内容] をタップします。
- 登録した宛先の設定内容を変更するときは、登録名を選び、[編集] をタップします。
- 登録した宛先を削除するときは、登録名を選び、[削除] をタップします。

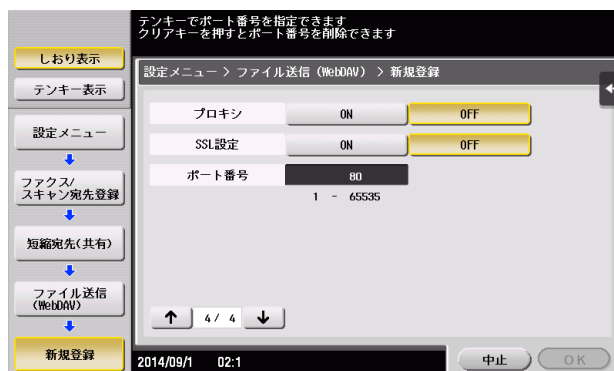
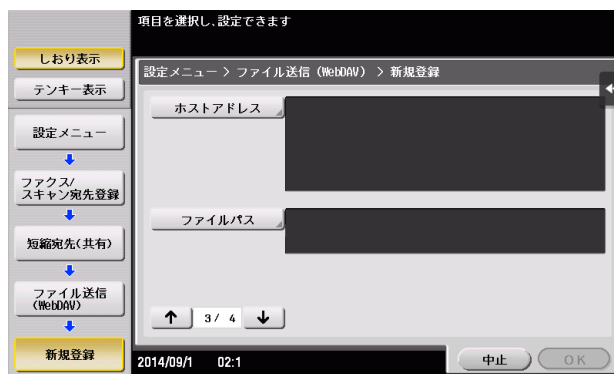
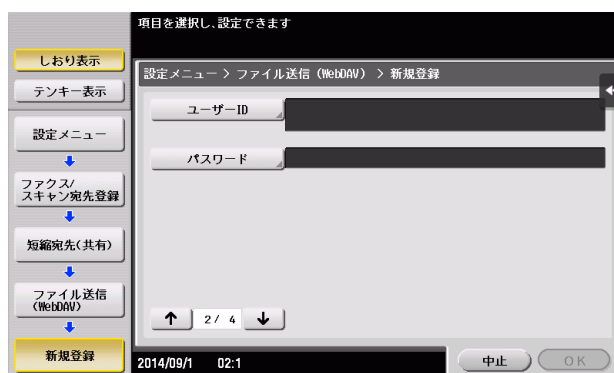
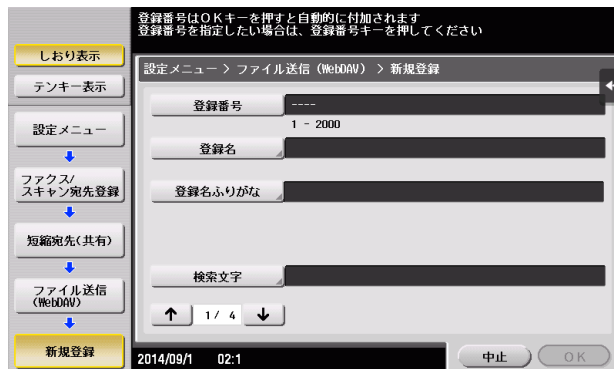
参照

FTP 宛先は **Web Connection** でも登録できます。詳しくは、「ユーザーズガイド [Web 設定ツール] / [各種情報を登録する]」をごらんください。

WebDAV 宛先を登録する

宛先とする WebDAV サーバーのホスト名または IP アドレスを登録します。また、ファイルを保存するフォルダーや、アカウント情報も登録します。

- 1 [設定メニュー] - [宛先 / ボックス登録] - [ファクス / スキャン宛先登録] - [短縮宛先 (共有)] - [ファイル送信 (WebDAV)] - [新規登録] をタップします。
→ 管理者の場合は、[管理者設定] - [宛先 / ボックス登録] から同じ操作ができます。



2 宛先情報を入力し、[OK] をタップします。

→ 登録内容について詳しくは、「ユーザーズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [設定メニュー]」をごらんください。

参考

- 登録した宛先の設定内容を確認するときは、登録名を選び、[設定内容] をタップします。
- 登録した宛先の設定内容を変更するときは、登録名を選び、[編集] をタップします。
- 登録した宛先を削除するときは、登録名を選び、[削除] をタップします。

参照

WebDAV 宛先は **Web Connection** でも登録できます。詳しくは、「ユーザーズガイド [Web 設定ツール] / [各種情報を登録する]」をごらんください。

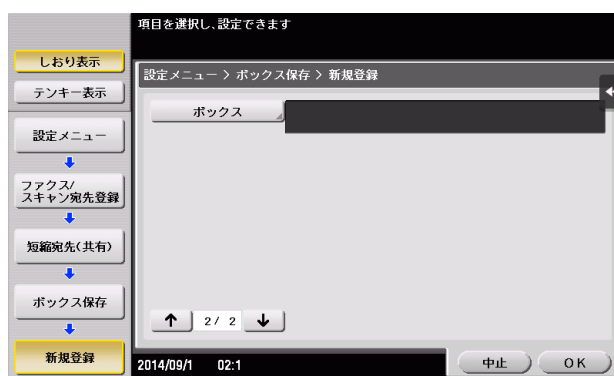
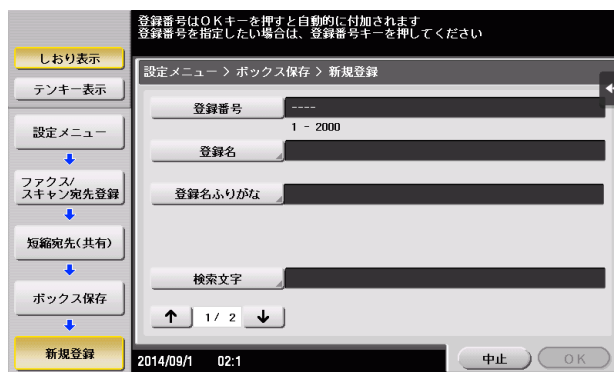
ボックス宛先を登録する

保存先のボックスを登録します。

- ✓ ボックス宛先を登録するには、あらかじめボックスの登録が必要です。詳しくは、「ユーザーズガイド [ボックス機能] / [文書を複合機にファイルで保存、利用する]」をごらんください。

- 1 [設定メニュー] - [宛先 / ボックス登録] - [ファクス / スキャン宛先登録] - [短縮宛先 (共有)] - [ボックス保存] - [新規登録] をタップします。

→ 管理者の場合は、[管理者設定] - [宛先 / ボックス登録] から同じ操作ができます。



- 2 宛先情報を入力し、[OK] をタップします。

→ 登録内容について詳しくは、「ユーザーズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [設定メニュー]」をごらんください。

参考

- 登録した宛先の設定内容を確認するときは、登録名を選び、[設定内容] をタップします。
- 登録した宛先の設定内容を変更するときは、登録名を選び、[編集] をタップします。
- 登録した宛先を削除するときは、登録名を選び、[削除] をタップします。

参照

ボックス宛先は Web Connection でも登録できます。詳しくは、「ユーザーズガイド [Web 設定ツール] / [各種情報を登録する]」をごらんください。

12.1.2 ファクス/スキャン基本画面から登録する

短縮宛先について

よく送信する宛先を本機に登録することで、送信のたびに宛先を入力する手間が省けます。本機に登録した宛先を、短縮宛先と呼びます。

短縮宛先は、2000 件まで登録できます。登録できる宛先の種類は、送信のしかたによってメールアドレスやコンピューター名などになります。

④ 関連設定（管理者向け）

- ユーザーに対して、宛先の登録や変更を許可するかどうかを選べます（初期値：[許可]）。詳しくは、「ユーザーズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [設定メニュー]」をごらんください。

E-mail 宛先を登録する

宛先とするメールアドレスを登録します。

- 1 [ファクス/スキャン] をタップします。



- 2 [宛先登録] をタップします。



- 3 [新規入力] をタップします。

- 4 [E-mail] をタップします。

- 5 宛先情報を入力し、[登録] をタップします。

→ 登録内容については、設定メニューから登録する場合と同じです。詳しくは、「ユーザーズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [設定メニュー]」をごらんください。

参考

- 登録した宛先の設定内容を確認、変更、削除するときは、設定メニューから行います。詳しくは、「ユーザーズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [設定メニュー]」をごらんください。



参照

E-mail 宛先は Web Connection でも登録できます。詳しくは、「ユーザーズガイド [Web 設定ツール] / [各種情報を登録する]」をごらんください。

SMB 宛先を登録する

宛先とするコンピューターのコンピューター名（ホスト名）または IP アドレスを登録します。また、ファイルを保存するフォルダーや、フォルダーへのアクセス情報も登録します。

- 1 「ファクス/スキャン」をタップします。



- 2 「宛先登録」をタップします。



- 3 「新規入力」をタップします。

- 4 「ファイル送信 (SMB)」をタップします。

- 5 宛先情報を入力し、「登録」をタップします。

→ 登録内容については、設定メニューから登録する場合と同じです。詳しくは、「ユーザーズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [設定メニュー]」をごらんください。



参考

- 登録した宛先の設定内容を確認、変更、削除するときは、設定メニューから行います。詳しくは、「ユーザーズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [設定メニュー]」をごらんください。



関連設定（管理者向け）

- シングルサインオン環境でお使いの場合に SMB 宛先を登録するとき、「認証情報登録可否」の設定によっては、本機へのログイン時の認証情報を SMB 宛先の登録情報に含めるかどうかを選択する画面が表示されます。「認証情報登録可否」の設定について詳しくは、「ユーザーズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [設定メニュー]」をごらんください。



参照

SMB 宛先は Web Connection でも登録できます。詳しくは、「ユーザーズガイド [Web 設定ツール] / [各種情報を登録する]」をごらんください。

FTP 宛先を登録する

宛先とする FTP サーバーのホスト名または IP アドレスを登録します。また、ファイルを保存するフォルダーや、アカウント情報も登録します。

- 1 「ファクス / スキャン」 をタップします。



- 2 「宛先登録」 をタップします。



- 3 「新規入力」 をタップします。
- 4 「ファイル送信 (FTP)」 をタップします。
- 5 宛先情報を入力し、「登録」 をタップします。

→ 登録内容については、設定メニューから登録する場合と同じです。詳しくは、「ユーザズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [設定メニュー]」をごらんください。

参考

- 登録した宛先の設定内容を確認、変更、削除するときは、設定メニューから行います。詳しくは、「ユーザズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [設定メニュー]」をごらんください。

参照

FTP 宛先は **Web Connection** でも登録できます。詳しくは、「ユーザズガイド [Web 設定ツール] / [各種情報を登録する]」をごらんください。

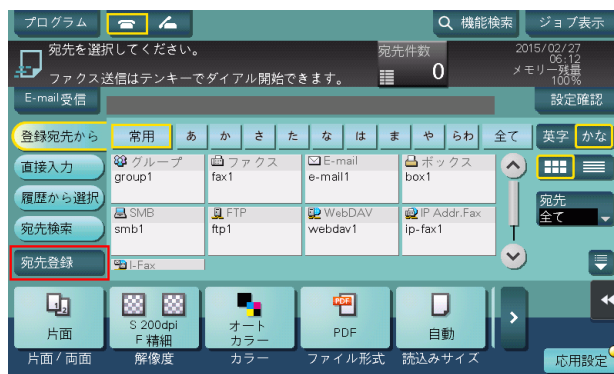
WebDAV 宛先を登録する

宛先とする WebDAV サーバーのホスト名または IP アドレスを登録します。また、ファイルを保存するフォルダーや、アカウント情報も登録します。

- 1 [ファクス / スキャン] をタップします。



- 2 [宛先登録] をタップします。



- 3 [新規入力] をタップします。
- 4 [ファイル送信 (WebDAV)] をタップします。
- 5 宛先情報を入力し、[登録] をタップします。

→ 登録内容については、設定メニューから登録する場合と同じです。詳しくは、「ユーザズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [設定メニュー]」をごらんください。

参考

- 登録した宛先の設定内容を確認、変更、削除するときは、設定メニューから行います。詳しくは、「ユーザズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [設定メニュー]」をごらんください。

参照

WebDAV 宛先は **Web Connection** でも登録できます。詳しくは、「ユーザズガイド [Web 設定ツール] / [各種情報を登録する]」をごらんください。

ボックス宛先を登録する

保存先のボックスを登録します。

- ✓ ボックス宛先を登録するには、あらかじめボックスの登録が必要です。詳しくは、「ユーザーズガイド [ボックス機能] / [文書を複合機にファイルで保存、利用する]」をごらんください。

- 1 [ファクス/スキャン] をタップします。



- 2 [宛先登録] をタップします。



- 3 [新規入力] をタップします。

- 4 [ボックス] をタップします。

- 5 宛先情報を入力し、[登録] をタップします。

→ 登録内容については、設定メニューから登録する場合と同じです。詳しくは、「ユーザーズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [設定メニュー]」をごらんください。

参考

- 登録した宛先の設定内容を確認、変更、削除するときは、設定メニューから行います。詳しくは、「ユーザーズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [設定メニュー]」をごらんください。

参照

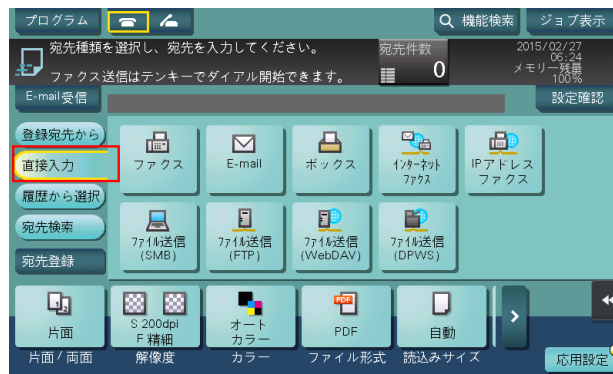
ボックス宛先は Web Connection でも登録できます。詳しくは、「ユーザーズガイド [Web 設定ツール] / [各種情報を登録する]」をごらんください。

12.1.3 直接入力した宛先を短縮宛先として登録する

- 1 「ファクス/スキャン」をタップします。



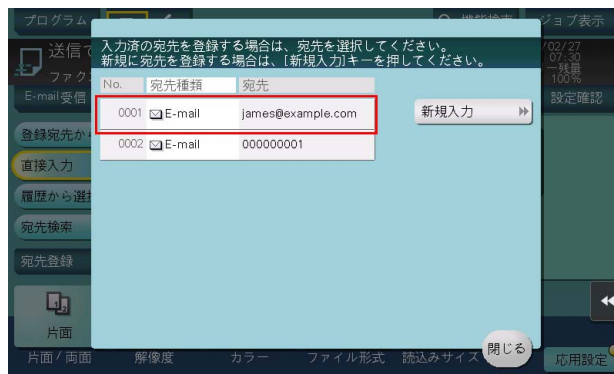
- 2 「直接入力」をタップしてから宛先の種類を選び、宛先を入力します。



- 3 宛先を入力したら「宛先登録」をタップします。



4 短縮宛先に登録したい宛先をタップします。



→ [新規入力] をタップすると、まだ入力していない新規の宛先を登録することができます。登録方法について詳しくは、12-9 ページをごらんください。

5 宛先の登録名を入力します。

→ 必要に応じて、検索文字を追加したり、ふりがなを入力します。

設定	説明
[宛先種類]	[直接入力] したときに選んだ宛先の種類を表示します。
[検索文字]	宛先を登録名でインデックス検索できるように、該当する文字を選びます。 ・ たとえば、登録名が「ジェームズ」の場合は、[さ] をタップします。 ・ よく送信する宛先は、あわせて [常用] も選びます。[常用] を選ぶと、宛先がファクス/スキャンモードのトップ画面に表示されるため、宛先の指定が簡単になります。
[登録名]	タッチパネルに表示する、宛先の名前を入力します（半角 24 文字／全角 12 文字以内）。 登録する宛先に、わかりやすい名前をつけます。
[登録名ふりがな]	登録名のふりがなを入力します（半角 24 文字／全角 12 文字以内）。 宛先を登録名順に並替えることができます。
[宛先]	直接入力した宛先を表示します。

6 [登録] をタップし、[閉じる] をタップします。

直接入力した宛先への送信が終わったら、[登録宛先から] をタップして、宛先が登録されていることを確認してください。



関連設定（管理者向け）

- シングルサインオン環境でお使いの場合に SMB 宛先を登録するとき、[認証情報登録可否] の設定によっては、本機へのログイン時の認証情報を SMB 宛先の登録情報に含めるかどうかを選択する画面が表示されます。[認証情報登録可否] の設定について詳しくは、「ユーザーズガイド [機能 / 設定 キーの説明] / [設定メニュー]」をごらんください。

12.2 複数の宛先をグループで登録する（グループ宛先）

グループ宛先について

複数の宛先をまとめて、グループ宛先として登録します。グループ宛先は同報送信するときに便利です。

グループ宛先は、100件まで登録できます。



関連設定（管理者向け）

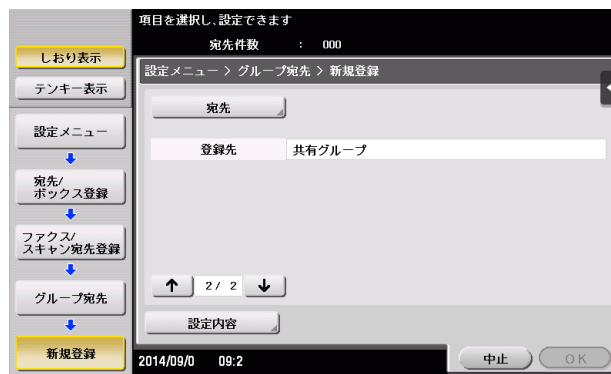
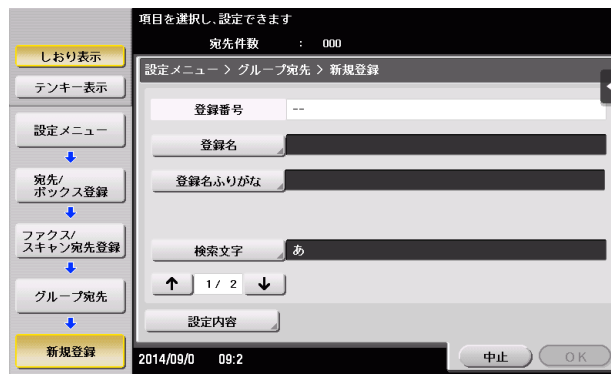
- ユーザーに対して、宛先の登録や変更を許可するかどうかを選べます（初期値：[許可]）。詳しくは、「ユーザーズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [設定メニュー]」をごらんください。

グループ宛先を登録する

- ✓ グループ宛先を登録するには、あらかじめ短縮宛先の登録が必要です。

- 1 [設定メニュー] - [宛先 / ボックス登録] - [ファクス / スキャン宛先登録] - [グループ宛先] - [新規登録] をタップします。

→ 管理者の場合は、[管理者設定] - [宛先 / ボックス登録] から同じ操作ができます。



- 2 宛先情報を入力し、[OK] をタップします。

→ 登録内容について詳しくは、「ユーザーズガイド [機能 / 設定キーの説明] / [設定メニュー]」をごらんください。



参考

- 登録したグループ宛先の設定内容を確認するときは、登録名を選び、[設定内容] をタップします。
- 登録したグループ宛先の設定内容を変更するときは、登録名を選び、[編集] をタップします。
- 登録したグループ宛先を削除するときは、登録名を選び、[削除] をタップします。



参照

グループ宛先は Web Connection でも登録できます。詳しくは、「ユーザーズガイド [Web 設定ツール] / [各種情報を登録する]」をごらんください。

12.3 宛先情報をインポート／エクスポートする（管理者向け）

宛先情報をエクスポートする

本機に登録されている宛先を、本機からコンピューターに保存（エクスポート）して、宛先情報をバックアップできます。エクスポートした宛先は、必要に応じて、宛先の追加や編集ができます。

エクスポートは、**Web Connection** を使って行います。詳しくは、「ユーザーズガイド [Web 設定ツール] / [本機の状態を管理する]」をごらんください。

宛先情報をインポートする

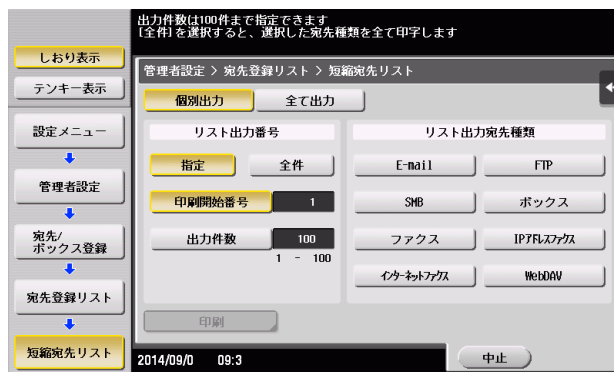
本機からエクスポートした宛先情報は、コンピューターから本機に書き込み（インポート）できます。また、同じ機種別の複合機にインポートして利用することもできます。

インポートは、**Web Connection** を使って行います。詳しくは、「ユーザーズガイド [Web 設定ツール] / [本機の状態を管理する]」をごらんください。

12.4 宛先情報のリストを印刷する（管理者向け）

宛先リストを印刷する

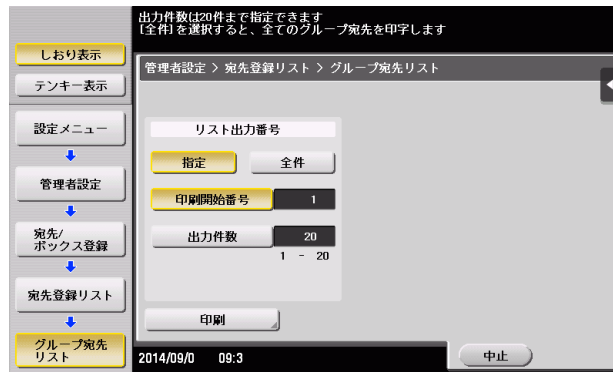
- 1 [設定メニュー] - [管理者設定] - [宛先 / ボックス登録] - [宛先登録リスト] - [短縮宛先リスト] をタップします。
- 2 宛先の範囲を指定して印刷するか、すべての宛先を印刷するかを選びます。
 - [個別出力]：宛先の範囲を指定して印刷する場合に選びます。[個別出力] を選んだ場合は、手順 3 へ進みます。
 - [全て出力]：すべての宛先を印刷する場合に選びます。[全て出力] を選んだ場合は、手順 4 へ進みます。



- 3 印刷する宛先の種類と範囲を指定します。
 - [リスト出力番号] で [指定] を選んだ場合は、[印刷開始番号]（宛先の登録番号）と [出力件数] で印刷する宛先の範囲を指定します。
 - [リスト出力番号] で [全件] を選んだ場合は、[リスト出力宛先種類] で選んだ種類の宛先をすべて印刷します。
- 4 [印刷] をタップします。
- 5 印刷する用紙の給紙トレイと、印刷する面を選び、[実行] をタップします。
リストの印刷が開始されます。

グループ宛先リストを印刷する

- 1 [設定メニュー] - [管理者設定] - [宛先 / ボックス登録] - [宛先登録リスト] - [グループ宛先リスト] をタップします。
- 2 印刷する宛先の範囲を指定します。
 - [リスト出力番号] で [指定] を選んだ場合は、[印刷開始番号]（宛先の登録番号）と [出力件数] で印刷する宛先の範囲を指定します。
 - [リスト出力番号] で [全件] を選んだ場合は、グループ宛先をすべて印刷します。

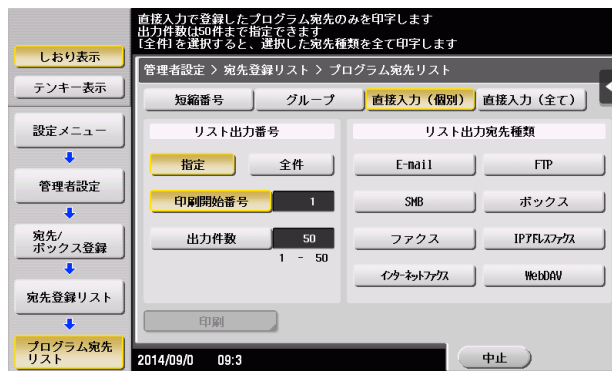


- 3 [印刷] をタップします。
- 4 印刷する用紙の給紙トレイと、印刷する面を選び、[実行] をタップします。
リストの印刷が開始されます。

プログラム宛先リストを印刷する

プログラム宛先リストとは、宛先が含まれているプログラムと、その宛先をリストにしたものです。

- 1 [設定メニュー] - [管理者設定] - [宛先 / ボックス登録] - [宛先登録リスト] - [プログラム宛先リスト] をタップします。
- 2 印刷するプログラムの種類を選びます。
 - [短縮番号]：短縮宛先を登録したプログラムを印刷する場合に選びます。
 - [グループ]：グループ宛先を登録したプログラムを印刷する場合に選びます。
 - [直接入力（個別）]：宛先を直接入力で登録したプログラムを印刷する場合に選びます。
 - [直接入力（全て）]：宛先を直接入力で登録したプログラムをすべて印刷する場合に選びます。
[直接入力（全て）] を選んだ場合は手順 4 へ、それ以外を選んだ場合は手順 3 へ進みます。



- 3 印刷するプログラムの範囲を指定します。
 - [リスト出力番号] で [指定] を選んだ場合は、[印刷開始番号]（プログラムの登録番号）と [出力件数] で印刷するプログラムの範囲を指定します。
 - [リスト出力番号] で [全件] を選んだ場合は、手順 2 で選んだ種類のプログラムをすべて印刷します。手順 2 で [直接入力（個別）] を選んだ場合は、印刷する宛先の種類を [リスト出力宛先種類] で選びます。
- 4 [印刷] をタップします。
- 5 印刷する用紙の給紙トレイと、印刷する面を選び、[実行] をタップします。
リストの印刷が開始されます。

お問い合わせ窓口

■ 製品の仕様・取扱方法やアフターサービスに関するご相談

インフォメーションセンター

0120-610-917

※電話番号をお確かめのうえ、お間違えにならないようお願いいたします。

●受付時間 月～土曜日（日・祝日はお休みさせていただきます。）
平日 9:00～18:00 土曜日 9:00～17:00

■ 消耗品のご注文・お問い合わせ

消耗品受付窓口

0120-176-109

※電話番号をお確かめのうえ、お間違えにならないようお願いいたします。

●受付時間 月～土曜日（日・祝日はお休みさせていただきます。）
平日 9:00～18:00 土曜日 9:00～17:00

ホームページ <http://www.muratec.jp/ce/>

●この取扱説明書の内容に関しては、将来予告なしに変更することがあります。